

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業の目標】

基本的人權の「獲得の歴史」を理解し、人權の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

民主主義と人權

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人權（人間としての権利）の尊重にある。人權の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人權を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】

政治変動のなかで、民主主義、人權保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前に思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人權総論
- 第12回 人間の尊厳と人權
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人權
- 第15回 平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人權の歴史
- 第5回 人權の内容・享有主体
- 第6回 人權規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 司法制度
- 第15回 地方自治

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人權

本 秀紀

【授業の概要】

日本国憲法は人權と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人權をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】

「民主主義と人權」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

【授業計画】

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときのトピックによって変更もありうる（ちなみに2005年度は、「本編」として、性同一性障害、過労死、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、首相の靖国参拝、旧植民地ハンセン病補償訴訟、ピラ配り逮捕と表現の自由、憲法改正問題などを取り上げた）。

- 1 はじめに：「民主主義と人權」って？
- 2 個人の尊重と人權：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
- 3 企業社会と人權：過労死、育児休業、労働者差別
- 4 女性と人權：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 5 マスメディアと人權：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 6 子どもと人權：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
- 7 医療と人權：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 8 外国人と人權：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 9 平和と人權・民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
- 10 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 11 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人權（第3版）（川人博編著 日本評論社 2004年）
ハンドブック国際化のなかの人權問題（第4版）（上田正昭編 明石書店 2004年）
それぞれの人權〔第2版補訂〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2005年）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業の目標】

1. 自然観を考えることがなぜ人間を考えることになるのかを理解し自分の言葉で表現できるようになる。
2. 機械論的自然観と有機体的自然観の違いを理解し自分の言葉で表現できるようになる。

【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために利用し破壊し続けて来た結果生じている問題である。自然への関わり方の根底には「自然観」(=自然の全体的な捉え方)が横たわっている。そうした自然観には人間の生き方が反映されている。したがって、自然との関わり方およびその根底にある自然観を考直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。今では近代的・自然科学的な自然観が圧倒的にわれわれの生活を支配しているが、西洋哲学の歴史を繙けばそれに対立する自然観が脈々と流れていることが分かる。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方=人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1. なぜ自然の哲学か
2. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり—
3. ソクラテス以前の自然哲学—アリストテレスからアナクサゴラスまで—
4. ソフィストとソクラテス・プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. ロマン主義的自然観
8. 進化論的自然観
9. カントの美的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下 (シュヴェーグラー 岩波文庫)
西洋哲学史 (岩崎武雄 岩波文庫)
哲学の原風景 (荻野弘之 NHKライブラリー)
野生の歌が聞こえる (レオポルド 講談社学術文庫)
エマソン論文集 上 (エマソン 岩波文庫)

ジェンダーと社会 I

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。5名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、トルコ、ハンガリー、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。

持続可能な開発、基本的な生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

【授業の目標】

地球規模で格差拡大の見られる先進国と開発途上国の資源分配について考え、その是正を現場での体験をもとに、ジェンダーに敏感な視点で考えられるようになること。

【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信(本学教授)がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明(日本福祉大学教授)による開発事業の現場からみえる各種統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子(金城学院大学講師)によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。(星山講師は後期のみ) 第四番目の講師はアジア保健研究所(AHI)の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

【テキスト】

資料配布

【参考文献・資料】

開発とジェンダー (田中他 国際開発事業団出版刊 2001年)
ジェンダーと開発論の形成と展開: 経済学のジェンダー化の試み (未来社 松村安子著 2005年)

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなピクセスを1回または2回の授業で順に取り上げていく。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任 (クローン技術はどのように応用されるべきか?)
5. 環境倫理学の主張 (自然保護は何をめざしているのか?)
6. インターネット時代の倫理 (知的財産は誰のものか?)
7. 内部告発と社会の浄化 (内部告発は行なうべきか?)

【評価方法】

小レポート(3、4回授業時に書いてもらう予定)と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)
科学技術社会論の技法 (藤垣裕子著 東京大学出版会)

ジェンダーと社会 II

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、<女/男>の規範がどのようにテキストにおりこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの観点から検証する。

【授業の目標】

文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 幼い頃に出会った表現
- 第3回 教科書のなかのジェンダー
- 第4回 映画のなかのジェンダー
- 第5回 <ことば>とジェンダー
- 第6回 男性作家のジェンダー
- 第7回 【山下智恵子先生担当】
- 第8回 【山下智恵子先生担当】
- 第9回 表現する女性の困難
- 第10回 『青鞥』の女たち
- 第11回 <娘>の表現
- 第12回 <母>の表現
- 第13回 <家族像>を描きなおよす
- 第14回 まとめ

*第7回、第8回以外は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 恋愛と結婚
- 第3回 母になるということ、父になるということ
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 暴力の根絶
- 第6回 「男らしさ」からの解放
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 性別分業の歴史と将来
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 多様性とエンパワーメント
- 第14回 テスト

【評価方法】

毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

鈴木 互

【授業の概要】

大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代かどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

【授業の目標】

消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
 - 1:1 団塊の世代(1965~1975)
 - 1:2 新人類(1980年代)
 - 1:3 団塊ジュニア(1990年代)
 - 1:4 新人類ジュニア(2005~2015)
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
 - 2:1 現状認識
 - 2:2 『消費社会の神話と構造』(ボードリヤール)
 - 2:3 人間の本源的な欲求としての消費(G・バタイユ)
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

少子化時代に向けて不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てでできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

【授業計画】

新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。

1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況~高度経済成長からバブル崩壊まで
2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界~男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3. 正社員の減少と成果主義など不安定な働き方の増加と少子化~95年の新日本型経営と雇用不安
4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現~男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて~新聞女性学入門(田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像~雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大幅儲けした場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品(いわゆるコピー商品)はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業の目標】

日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 導入(情報社会と知的財産・契約)
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10~12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 独特の民族文化
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

比較文化論

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとらえて、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的な事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

国際関係の基本概念や歴史的展開を理解するとともに、戦争と平和の問題を日本との関係も含めて理解すること。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連の安全保障体制
6. 地域紛争とテロリズム
7. アジアにおける日本の戦争
8. 戦後日本と安全保障
9. アジアと日本の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

国際交流論

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
 - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
 - ・先進的組織運営のさまざまな事例

【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

初めての外国語2（フランス語）

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかりと説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のこのことに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使えないものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使えないものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語3（ロシア語）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

1. キリル文字の読み方の習得
2. 名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3. 日常会話基礎表現の習得

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めていきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがかすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4 (スペイン語)」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
- ・世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞 (性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

【授業の目標】

受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたい。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽(そうもう)隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによる。

【参考文献・資料】

- 愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)
- 愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)
- 東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているのです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解すること
- (2) 家族や親族をめぐりあまじく変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
- (3) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】

- (1) 氏・名字・姓の歴史
- (2) 戸と戸籍
- (3) イエとヤケ
- (4) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (5) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (6) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (7) 婚姻と家族・親族の諸形態1<妻問婚の特徴>
- (8) 婚姻と家族・親族の諸形態2<婿取婚と嫁取婚の成立>
- (9) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (10) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけでなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 「アジア」を考えるということ(1)
4. 「アジア」を考えるということ(2)
5. 「中国」の歴史を学ぶとは?
6. 中国近現代史への眼差し: 歴史観の諸相
7. 中国の(近代): 「中国」の創生
8. 中国の(近代)と日本
9. 近代日本の中国観
10. 日中戦争を考える: 特に南京事件をめぐって
11. 現代中国と日本: 歴史認識問題をめぐって
12. 現代中国を考える: 特に中国の「民主」をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末テスト(人数によってはレポート)、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムかどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒：ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識：大航海時代
 - (3) 普遍性の否定：宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) バクス・プリタニカージェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めなし。

【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム (谷川稔 山川出版社)
- 国民国家を問う (歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にしてその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことが目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化導論 (劉榮興 河北大学出版社)

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】

今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 地域社会の歴史と構造 1
3. 地域社会の歴史と構造 2
4. 地域社会の歴史と構造 3
5. 地方分権とコミュニティ 1
6. 地方分権とコミュニティ 2
7. コミュニティとネットワーク 1
8. コミュニティとネットワーク 2
9. コミュニティ活動の実践例 1
10. コミュニティ活動の実践例 2
12. まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

「Free, Fair, Global」の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的な事例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。

第一区分では「ビジネスを取り巻く環境変化」を、第二区分では「環境変化に適応する企業組織」を、第三区分では現在「社会から求められる企業経営」について学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

【授業の目標】

専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感性的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1講 | Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力 |
| 第2講 | 企業活動の環境変化～ |
| 第3講 | ～ Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任 |
| 第4講 | 制度変革と企業活動～ |
| 第5講 | ～ 企業を取り巻く社会システムの変化 |
| 第6講 | ～ 商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など |
| 第7講 | 金融・資本市場の進化とFinancial Literacy |
| 第8講 | 市場（金融・株式・外国為替市場）について |
| 第9講 | 企業の組織 |
| 第10講 | ビジネスとは何か？ (その法的要件) |
| 第11講 | 会社とは何か？ (その法的要件) |
| 第12講 | 組織の分解と再編 (ITと生産性)、財務の重要性 |
| 第13講 | 企業のマネジメント |

【評価方法】

学期末テストの成績で評価 (出席率は成績に反映させない)

【テキスト】

「ビジネスの世界」(伊藤義明著 栄進堂書店)

【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業の目標】

病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた「病気とくすりについて」の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなど、医師の処方が必要とする生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）と医者が処方する医療用医薬品を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～12回 生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効く仕組みを解説

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的な取り組みの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

- 概論：第1回 心の病：その歴史
第2回 精神症状のとらえ方
第3回 精神障害の種類と分類
第4回 ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：第5回 青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第6回 気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第7回 ストレスとその反応：神経症と心身症
第8回 やまらない、止まらない：薬物依存
第9回 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第10回 大人とは異なる児童・小児の障害
第11回 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：第12回 病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第13～14回 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改定 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の構造～心をどう捉えるか？
2. 心の発達
3. 脳と心
4. 心の病とは？
5. 心の病のいろいろ
6. ストレスのメカニズムとコーピング

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

講義初日に紹介する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・金曜日を除いて、半期間に2種目を行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バドミントン・卓球
	3限	杉山	バレーボール・卓球
	4限	杉山	バレーボール・卓球
火曜日	2限	杉山	バレーボール・卓球
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	2限	門間	バドミントン・卓球
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
木曜日	1限	寺田	バドミントン・卓球
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	松田	バドミントン
	3限	松田	バドミントン
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	松田	バドミントン
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

杉山 和

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン] (月曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける

5～8. ミニゲーム

[バレーボール] (月曜3限前半・月曜4限前半・火曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク (オーバーハンド・アンダーハンド)
3. サーブとレシーブ (サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
4. トス・アタック・ブロック

(アタックカバー・ブロックフォロー)

5～7. ゲームと審判 (ルール)、テスト (スキル)

[卓球] (月曜2限後半・月曜3限後半・月曜4限後半・火曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド

(ロング・ショート・カット・スマッシュ)

4. サーブとレシーブ

5. シングルスゲーム (審判)

6～7. ダブルスゲーム (審判とスコア)、テスト (スキル)

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[卓球] (火曜3限前半・火曜4限前半・木曜3限前半・木曜4限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド
- (ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サーブとレシーブ
 5. シングルスゲーム (審判)
- 6～7. ダブルスゲーム (審判とスコア)、テスト (スキル)

[バレーボール] (火曜3限後半・火曜4限後半・木曜3限後半・木曜4限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
 2. パスワーク (オーバーハンド・アンダーハンド)
 3. サーブとレシーブ (サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 4. トス・アタック・ブロック
- (アタックカバー・ブロックフォロー)
- 5～7. ゲームと審判 (ルール)、テスト (スキル)

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン] (金曜2限・金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦 (打ち続けよう)
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴 (貴重な水鳥の羽根)
5. フォーム作り (格好良いフォームで打とう)
6. 攻撃的なショット (初速はどれくらい?)
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレーヤーを観よう (VTR)
11. ゲームの特徴 (心拍数、運動強度はどれくらい?)
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(水曜1限前半・水曜2限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとシャトルに慣れる
 3. シャトルをコントロールする
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5~7. ミニゲーム
- 〔卓球〕(水曜1限後半・水曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
 4. サービスとレシーブ
 5. シングルスゲーム(審判)
 - 6~7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔バレーボール〕(水曜3限前半・水曜4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 4. トス・アタック・ブロック
(アタックカバー・ブロックフォロー)
 - 5~7. ゲームと審判(ルール、テスト(スキル))
- 〔バスケットボール〕(水曜3限後半・水曜4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる
 3. 基本的な個人技能の確認
 4. チームでの基本的な練習
 5. ルールとマナーを身につける
 - 6~7. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

70点=欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・天候によって種目を変更する場合がある。
 - ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(木曜1限前半・木曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとシャトルに慣れる
 3. シャトルをコントロールする
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5~8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔卓球〕(木曜1限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
 4. サービスとレシーブ
 - 5~7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)
- オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1. ガイダンス
 - 2~4. 主にアウトドア種目(フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー)等を用いての動き作り
 - 5~8. 主にインドア種目(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)等を用いての動き作り

【評価方法】

70点=欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
 - ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る の3点を目標に行う。
- 〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)
1. ガイダンス
 2. エアロビクスとは何か その理論と特性
 3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
 4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
 - 5~6. ボールを使って
 7. 体脂肪
 8. ウェイトコントロール
 9. 骨を強くする
 - 10~15. エアロビック ダンス パフォーマンス
動きづくり練習 発表・相互評価

【評価方法】

70点=欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 蛭田秀一

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン
火曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	門間	テニス
	4限	門間	テニス
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	1限	蛭田	卓球
	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	2限	蛭田	卓球
	3限	松田	テニス・ニュースポーツ
	4限	松田	テニス・ニュースポーツ

【評価方法】

70点=欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕（月曜2限・火曜2限）

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕（月曜3限・月曜4限）

1. ガイダンス、競技の概略
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

松田 秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕（金曜2限前半・金曜3限前半・金曜4限前半）

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔ニュースポーツ〕（金曜2限後半・金曜3限後半・金曜4限後半）

1. ガイダンス
- 2～8. ユニホッケー
ペタンク
ソフトバレーボール
ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（火曜3限・火曜4限・木曜3限・木曜4限）

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・ニューススポーツについて、2～8週までのうち雨天の場合には9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(木曜1限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

〔ニューススポーツ〕(木曜2限)

1. ガイダンス
- 2～3. フライングディスク
- 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 7～10. アーチェリー、インディアカ、ミニテニス
- 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(金曜1限・金曜2限)

1. ガイダンス
2. 用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
- 3～6. 卓球における各種基本打法の説明と学習(ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど)、サーブとレシーブの学習、簡易ゲーム
- 7～11. シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
- 12～13. 一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14. 実技テスト、まとめ

上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業の目標】

様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. イギリスのボランティア
3. アメリカのボランティア(1)
4. アメリカのボランティア(2)
5. アメリカのボランティア(3)
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法(NPO法)
8. 日本のボランティア活動(1)災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動(2)高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動(3)障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動(4)難民とボランティア
12. 日本のボランティア活動(5)開発とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。
期末レポート 70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために(内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロビーの思想：NPOとボランティア(林雄二郎他 日本経済評論社)他

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き(日本点字図書館)及び手話教室入門(全日本ろうあ連盟出版局)

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追究する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツには教育が関係する
9. スポーツには政治が関係する
10. スポーツには科学が関係する
11. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
12. スポーツには民族性が反映される
13. スポーツには商業主義がつきまとう
14. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
15. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】

学生のもの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 一その素顔と地球環境との関わり（ケネス.R.ラング著 渡辺克・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京）

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
 - 1) 農耕の始まり
 - 2) 世界の農耕文化
 - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物一作物
 - 1) 作物とは？
 - 2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
 - 1) 作物改良の原理
 - (1) メンデルの法則ー遺伝学
 - (2) 遺伝の物質的基礎
 - 2) 作物の改良方法
- 第9回 6. バイオテクノロジー
- 第10回 1) バイオテクノロジーとは？
- 第11-12回 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
 - (1) 細胞・組織培養
 - (2) 遺伝子操作
 - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
 - (1) 倫理
 - (2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

生命の科学

林博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

暮らしの化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命と健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ? どうして? という「素朴な疑問」に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

暮らしの化学

佐藤成哉

【授業の概要】

日常生活の中には、身近に目にしていながらつい見過ごしてしまっているさまざまな現象が溢れている。それらを探しだし、化学の目で見つめ直して、暮らしを支える知恵としての「役立つ化学」についての講義をクイズや簡単な実験を交えながら行う。

【授業の目標】

日頃、我々が目にする現象は、教科科目の項目に分けられない総合的なものである。そのさまざまな現象の中に見つけた「なぜ?」「どうして?」を糸口に広くサイエンスの世界に触れ、知的な楽しさ・おもしろさを通して化学(科学)の目を養う。

【授業計画】

1. キッチン化学
 2. リビング化学
 3. バスルーム化学
 4. 玄関化学
 5. ガーデン化学
 6. 環境化学
- 一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問や感想および身近な疑問などを適宜出してもらい、授業に反映したい。

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜資料などを配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学1 (日本)

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論 (堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学2 (中国)

寺尾 剛

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業の目標】

中国の歴史と文学に関心を持つ。今後独自に読んでいく際の読み方のコツをつかむ。

【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1. 男装の麗人・木蘭の物語
2. 和蕃公主・王昭君の物語
3. 亡国の美女・西施の物語
4. 万里の長城秘話・孟姜女の物語
5. 詩仙李白と酒の歌
6. 詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7. 南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8. 中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9. 『封神演義』～中国小説の世界
10. 中国の笑い話～下ネタは下品か？
11. 『論語』の世界～孔子、人生を語る

など。ただし、上記の全てを講義しきれるとは限らず、また、この順序通りに進めるとは限らない。
受講生の反応、あるいは要望に従って内容を変更する可能性もあることをお断りしておく。

【評価方法】

出席、平常点と試験。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

教場で指示する。

現代の芸術1 (書道)

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書写し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

現代の芸術1 (書道)

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書写し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。

漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術 2 (音楽)

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 声の出るしくみを知る (学園歌をうたう)
- 第2回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
(ピクニックや集会でやさしいハーモニーの楽しみ方)
- 第3回 発声練習と歌唱
- 第4回～9回 名演奏家によるオペラ鑑賞 (カルメン、椿姫他)
- 第10回～12回 各自の課題 (ジャンルは問わない) による実技発表とアドバース
(毎回短時間を使って合唱曲を1曲仕上げる)

【評価方法】

授業内での実技演奏 (各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可) と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

音楽を鑑賞し、演奏しながら、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 第1講 鑑賞法 (音楽の聴き方)
- 第2講 発声のしくみと声の管理
- 第3講 ヴォイストレーニング1 (自然体)
- 第4講 ヴォイストレーニング2 (呼吸法)
- 第5講 ヴォイストレーニング3 (楽器の確保)
- 第6講 サウンドスケープ (音の風景)
- 第7講 音楽療法1 (歴史と原理)
- 第8講 音楽療法2 (音楽の作用と実践法)
- 第9講 演奏法1 (リズムとメロディー)
- 第10講 演奏法2 (コード・即興など)
- 第11講 合唱と合奏
- 第12講 ～実技演奏発表会

【評価方法】

実技 (授業内目標達成度)・感想レポート・出席状況・授業態度

【テキスト】

プリント・MUSIK (貸与)

現代の芸術 3 (美術)

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に運動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】

- 前半
キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
- 後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。
教材として樹脂パテ等(¥2500)を各自が購入する。

【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を追う傾向のある現代若者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものになりたい。

【授業計画】

- *ミュージカル映画の「まるごと1本」の鑑賞を中心にしながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。
- *ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を探る。
- *参考上映を予定している作品 (上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。
『ウエスト・サイド物語』『バリの恋人』『プラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シェルブールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他
- *有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法の特徴なども学習。
- *延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。
- *長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いざさかの変更がある。

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。5年前から続いており、これは講座生とつる楽しい交流の広場。

【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオーダー』(吉村英夫 講談社プラスα文庫)

現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
 - a. セグメンテーション (SEGMENTATION = 映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法 (映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画 (1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで) のスタイルとストーリーの語り方：
 - a. 「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA (ファビュラ) = 観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対 SUZHET (シューゼット、つまり「プロット」) = 画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やヒント
 - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見ているんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

【授業計画】

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙2・3枚程度) にまとめて提出する。

課題: 「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画) の学期末評価は3つの宿題に基づく (学期末試験はなし):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図 (文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能の諸ジャンルのうち、舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など主要なものを中心に取り上げ、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】

日本文化論序説 (林和利著 青山社)

【参考文献・資料】

日本演劇全史 (河竹繁俊著・岩波書店)
演劇百科大事典 (早稲田大学演劇博物館編・平凡社)

現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】

現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているため、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の現代芸術としての側面を理解する。

【授業計画】

1. ドラマからポスト・ドラマ (脱ドラマ) という流れを理解する。
 2. ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」(ドラマ) を見る、理解する。
 3. 絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
 4. 近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
 5. ハイナー・ミュラー作「ハムレットマシーン」(脱ドラマ) を見る、理解する。
 6. ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。
- 授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術 (演劇に限定しない) を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

現代マナー論

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " " 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

現代マナー論

嘉悦祐子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

自分の気持ちをどんな形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
 - ①挨拶
 - ②表情
 - ③態度
 - ④身だしなみ
 - ⑤言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問と来客対応
7. 報告、連絡、相談
8. 文書のマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)

第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

この間に

課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

言語表現

三久保角男

【授業の概要】

音声表現。

①日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 ②読む・話すことの実践と応用 ③言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】

1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話し言葉の表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む
短文の読み 朗読
6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話し言葉の用法
言葉事情 言葉の変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業の目標】

メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

職業と人生

樋口貴子

【授業の概要】

将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

【授業の目標】

人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】

- 1) 21世紀の人材像
- 2) 職業観
- 3) プロフェッショナル意識
- 4) キャリア発達
- 5) キャリアコンピテンシー
- 6) 自己理解①
- 7) 自己理解②
- 8) コミュニケーション能力
- 9) 自己表現アサーション
- 10) ビジネスマナー
- 11) 職業研究
- 12) 企業研究
- 13) キャリアデザインと目標設定

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

職業と人生 (樋口貴子著)

【参考文献・資料】

なし

生涯学習論

藤井基貴

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】

受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯発達と発達課題
- 3 戦後日本の教育改革
- 4 生きがいと自己実現
- 5 人生と学習計画
- 6 生涯学習施設の活用
- 7 ボランティアとNPO
- 8 高齢期の課題と学習支援

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習 (関口礼子他編著 有斐閣アルマ)
生涯学習の展開 (香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)
参考文献については随時紹介する。

一般心理学

青柳真紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
 - b. ノンバーバルコミュニケーション
 - c. 発達心理学 (ピアジェとエリクソン)
 - d. 学習と記憶
 - e. 忘却と変容
 - f. 防衛機制と無意識
 - g. 心理療法
 - h. 心理テスト
 - i. 個人と集団
 - j. 応用心理学 (犯罪心理学、環境心理学)
- 以上を中心に、それぞれ1~2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

一般社会学

長濱一夫

【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

【授業の目標】

社会学的思考法の修得を目指し、現代社会に対する認識力(時代の流れを読む力)を培いたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし(順序は入れ替わることがあります)、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験(レポートor筆記)および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造
 - c 外圧と政策決定

【評価方法】

試験(教科書と自筆ノートのみ持込可)と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考(高島道敏 岩波ブックレット617)

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

法律学

大嶽浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人の暮らしと経済
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない(資料配布)。

【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学(辻正次・八田英二著、有斐閣)
- (2) 入門の入門 経済のしくみ(大和総研著 日本実業出版社)

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

統計学

鈴木有美

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようなかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

【授業計画】

1. 統計学とは
2. データの性質
3. 度数分布
4. 基礎統計量 (1): 代表値・散布度
5. 基礎統計量 (2): 尖度・歪度
6. 正規分布
7. 2変量の関係 (1): 相関・回帰
8. 2変量の関係 (2): 連関
9. 母集団と標本
10. 統計的推定 (1): 点推定
11. 統計的推定 (2): 区間推定
12. 統計的検定の基礎
13. 平均値の差の検定 (1): t検定
14. 平均値の差の検定 (2): 分散分析

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を统一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろな現象に関係のあることを理解する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 ニュートン力学、力学的エネルギー
- 4 ものの状態、熱と温度、圧力
- 5 熱力学
- 6 振動と波動、音と光
- 7 電気と磁気、電磁波
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

【評価方法】

おもに期末試験 (筆記) による。(毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

物理のしくみ (改訂新版) (井田屋文夫 ナツメ社)

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学を導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドウイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

横関美津紀 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

福本明子 STEPHENSON, Brett 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学を導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・ブラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

SUTHONS, Philip 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

山田久美子 BROWNING, Jeremy S. 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I A

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II A

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I B

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II B

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 二村慎一 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時(集中授業期間内 前期: 8/7(月)~11(金)、後期: 2007年2/13(火)~17(土))に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会(前期: 6月中旬、後期: 11月下旬の予定)で発表する。指定された期間(前期: 6月末、後期: 12月上旬)に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

* 注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位数に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期 8/7(月)~11(金)、

後期 2007年2/13(火)~17(土)を予定。

事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示で発表。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目(4単位)以上を取得済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
- 3) 全日程に出席できること。

上級英語セミナー 2006 A

WOODMAN, Jo-Anne WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。)

【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)、金曜日1限(担当教員: WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Woodman: No text required,
Wringer: To be announced.

Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【授業の目標】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【評価方法】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【テキスト】

No text

【参考文献・資料】

<http://www.apple.com/support/isight/>

上級英語セミナー 2006 B

WOODMAN, Jo-Anne WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)、金曜日1限(担当教員: WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Woodman: No text required,
Wringer: To be announced.

上級英語セミナー 2006 C

横山綾子 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前学期講の本科目「上級英語セミナー2006C」は受講できない。)

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められる。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation
第2～10回 The Student Timesからの記事使用(テープ)
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.
Week 1: Discussion questions based on materials provided by the teacher.
Week 2: Discussion-based on newspaper/internet articles provided by the teacher.
Week 3: Discussion-based on newspaper/internet articles prepared by the students.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山: *The Student Times* その他
Woodman: No text required.

上級英語セミナー 2006 E

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前学期講の本科目「上級英語セミナー2006E」は受講できない。)

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2006E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限(担当教員:難波豊子)、金曜日5限(担当教員:CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2006 D

横山綾子 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められる。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation
第2～10回 The Student Timesからの記事使用(テープ)
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.
Week 1: Discussion questions based on materials provided by the teacher.
Week 2: Discussion-based on newspaper/internet articles provided by the teacher.
Week 3: Discussion-based on newspaper/internet articles prepared by the students.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山: *The Student Times* その他
Woodman: No text required.

上級英語セミナー 2006 F

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2006F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限(担当教員:難波豊子)、金曜日5限(担当教員:CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一 McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直接に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直接に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）

尺八

琴

からくり

華道

歌舞伎

能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

【テキスト】

プリント

Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

- * 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- * 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- * 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- * 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- * 在住外国人支援事業を理解すること

【授業計画】

- A. 総論：多元文化社会について
- ① 多元文化社会としての日本社会（ブイ チ トルン）
- B. 各論1：多文化共生支援事業について
- ② 総務省および地域国際化協会の政策、事業について（外部講師・東京から）
 - ③ 愛知県および愛知県国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
 - ④ 名古屋市および名古屋国際センターの事業について（外部講師・県内）
 - ⑤ 豊田市および豊田市国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
 - ⑥ 経済産業界の事業について（外部講師・県内）
- C. 各論2：外国人コミュニティからの実態について
- ⑦ コリアンコミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑧ 中国人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑨ フィリピン人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑩ ブラジル人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑪ アメリカ人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑫ 留学生について（外部講師・県内）
 - ⑬ 外国人研修生の送り出し国からの報告
 - タイ王国から（外部講師・タイ王国から）・前期
 - ベトナムから（外部講師・ベトナムから）・後期
- D. 各論3：在住外国人支援事業について
- ⑭ 生活相談事業について（外部講師・県内）
 - ⑮ 日本語教育支援事業について（外部講師・県内）

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

Central Japan

福本明子 山田久美子 小沢 茂 横関美津紀 McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン酢

日本経済新聞

中部電力

ブラザー工業

ヒルトンホテル

デンソー

太陽科学株式会社 など。

詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

【テキスト】

プリント

PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・ コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・ アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・ 他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・ アイデアの要約
- ・ 口頭発表に必要な論理的展開方法
- ・ 動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
- ・ プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

【評価方法】

- ・ 出席状況
- ・ プレゼンテーション
- ・ ディスカッション参加への積極性

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Booklet Publishing

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
- ・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・英語での自己表現方法
- ・図や表を使った表現方法
- ・タイトルや見出しの効果
- ・文章の段落構成

【評価方法】

- ・出席状況
- ・ブックレットなどの完成作品

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 張玉玲 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解 1 A>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話 1 A>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の“在+V”、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1A2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳 張玉玲 曹志偉 周素芬 楊衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話1A2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース A * 聴解中心

大森信徳 河井昭乃 王麗英 杜英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK (漢語水平考試) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース B * 読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK (漢語水平考試) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

河井昭乃 楊 衛平 湯 海鵬

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成員力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

HSK 初等コースA *聴解中心

大森信徳 河井昭乃 陳 惠貞 杜 英起

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 3

楊 衛平 曹 志偉 杜 英起

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家庭生活・大学生生活などについて語るができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舍のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 湯 海鵬

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃 楊 衛平 杜 英起

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返し構造。AA式：说说:A:A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”。
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

HSK 中等上級コースA * 聴解中心

大森信徳 河井昭乃 陳 惠貞

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

楊 衛平 曹 志偉 陳 惠貞

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行く
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB * 読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 杜 英起

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文1

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース1 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは <HSK 中等高級コース2 A> とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が <HSK 中等高級コース2 A> で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK 中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース1 A * 聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。1課を2回の授業で進めてゆく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等高級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門1

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK 中高級コース2 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中高級コース2 A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中高級コース2 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考査）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中高級コース2 A * 聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語中高級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

大森信徳

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中高級コース2 A>か、<HSK中高級コース2 B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン キム ソヨン

【授業の概要】

ハングル(韓国・朝鮮の文字)の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果(韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる)をねらい、週2回履修を義務づける。

【授業の目標】

基礎的な名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

第1回	授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第2回～第5回	ハングルの読み書き1～4、まとめ 1) 基本母音字(10個)、挨拶1 2) 基本子音字1(平音9個)、挨拶2 3) 基本子音字2(激音5個)、名詞1 4) 合成子音字(濃音5個)、名詞2
第6回～第8回	ハングルの読み書き5～7 1) 合成母音字1(4個)、形容詞1 2) 合成母音字2(7個)、形容詞2 3) 終声子音字(7種)、叙述格助詞
第9回～第10回	発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ
第11回～第12回	尊敬形1、平叙文・疑問文1・2、助詞1・2
第13回～第14回	尊敬形2、否定文、助詞3・4、まとめ
第15回	中間試験
第16回～第17回	上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2
第18回～第20回	1) 勧誘および命令文、転成語尾1 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回	1) 略对上称形、転成語尾3 2) 平常形、先語末語尾1 3) 曖昧形、先語末語尾2
第24回～第25回	1) 変則活用2、先語末語尾3 2) 固有数詞、表現練習、まとめ
第26回	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語(曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

パク ヨンソン キム ソヨン 李 正子 金 芝恵

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

第1回	授業の概要説明、こんにちは
第2回	韓国は初めてですか
第3回	ここが寮です
第4回	3月2日からです
第5回	どこで売っていますか
第6回	MTって何ですか
第7回	韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第8回	スタンドランプを見せてください
第9回	一杯飲みましょう
第10回	大学生活はどうですか
第11回	よく聞けば勉強になります
第12回	誕生パーティをしましょう
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

パク ヨンソン 金 由那 姜 信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

第1回	授業の概要説明、入門講座の復習
第2回	サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第3回	明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第4回	喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第5回	韓国料理屋で。変則2、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第6回	道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第7回	中間試験
第8回	地下鉄の駅で。変則4、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第9回	タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回	郵便局に行く。用言の連体形
第11回	約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回	天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級(李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

パク ヨンソン キム ソヨン 姜 信和 金 美淑

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をととして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第1回	授業の概要説明、前期の復習 完全制覇5級・挨拶言葉1
第2回	挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
第3回	日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
第4回	基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第5回	漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第6回	韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第7回	完全制覇4級・基本語彙と文法1
第8回	基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第9回	基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回	基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回	韓国語の発音、応用問題1
第12回	応用問題2
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験5級・4級(小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解2

キム ソヨン 李 正子 金 美淑 金 芝恵 姜 信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現、
- 第3回 順杯、平行動作と逆接の語尾、変則1、動詞の過去の連体形
- 第4回 会食、補助動詞、引用文縮約形
- 第5回 業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
- 第6回 整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 再会(1)、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
- 第9回 再会(2)、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
- 第10回 日本の取材(1)、変則2、目的の表現、義務・必要性の表現
- 第11回 日本の取材(2)、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文
- 第12回 整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語2(油谷幸利・南相璽 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策2

金 美淑 金 由那 金 芝恵 李 正子

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、3級完全制覇1・基本語彙と文法2
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語文訳
- 第3回 各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 意志・意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感嘆の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
- 第10回 直接話法と間接話法1
- 第11回 直接話法と間接話法2
- 第12回 直接話法と間接話法3、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験3級(小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話2

パク ヨンソン キム ソヨン 金 美淑 姜 信和

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう
- 第2回 週末には何をしましたか
- 第3回 またお電話いたします
- 第4回 料理とか旅行です
- 第5回 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6回 韓国料理ができますか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか
- 第9回 どこにいらっしゃいますか
- 第10回 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11回 過ぎた水曜日からです
- 第12回 このバックいくらだった
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解3

パク ヨンソン 金 由那

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240~300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでも程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本語案内放送、変則1、感動・独白・感嘆の表現、
- 第3回 日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
- 第4回 板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
- 第5回 韓国映画、変則2、推量の表現
- 第6回 整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 PCパン、変則3、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
- 第9回 東大門市場、選択の表現
- 第10回 コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
- 第11回 あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則4
- 第12回 整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3(油谷幸利・南相璽 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

パク ヨンソン キム ソヨン

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆつくり聞けば十分理解できてハングルの会話を楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 履修登録と単位数
- 第3回 バイト探し
- 第4回 口座開設と自動振込みの手続き
- 第5回 天気予報そして日本の天候
- 第6回 山つつじと韓国の春
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 韓国の食文化および調理法
- 第9回 博物館めぐり
- 第10回 韓国と日本の庭園文化の比較
- 第11回 郵送：飛行便と船便
- 第12回 夏のヘアスタイル
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話（曹述燮・金賢珍 プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策3

キム ソヨン 金 芝恵

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現1
- 第5回 各種活用表現2、注意すべき用言とその用例1
- 第6回 注意すべき用言とその用例1、慣用表現、まとめ、中間テスト
- 第7回 模擬試験1、解答と解説
- 第8回 模擬試験2、解答と解説
- 第9回 模擬試験3、解答と解説
- 第10回 聞き取り・書き取り模擬試験1、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験2、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験3、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして（李昌烈 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

情報技術基礎Ⅰ

三和義秀 他

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

情報技術基礎Ⅱ

梅田敏文 他

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を増うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを使用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通して習得する。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

情報技術基礎Ⅲ

上原衛 他

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

【授業の目標】

WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。

なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著 近代科学社）

ネットワーク技術入門

三和義秀 他

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9. HTMLとホームページ（4）：サウンドの再生と動画の再生
10. ホームページ課題作成（1）
11. ホームページ課題作成（2）
12. CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシー（三和義秀著 共立出版）

プログラミング入門

三和義秀 他

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造
9. 繰り返し構造 (1)
10. 繰り返し構造 (2)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習の際には記憶メディア (FD、USBメモリ等) が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

CG 入門

石丸 緑 他

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うビジュアルは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス 1 : 基礎編
6. コンピュータグラフィックス 2 : アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

ビジュアル情報表現：デジタル映像表現・Webデザイン入門 (CG-ARTS 協会)

情報数学入門

親松和浩 他

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CGやゲームプログラミングで特に重要な代数学幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1. 集合・命題と制御処理
2. 2進数による情報の表現
3. 三角関数
4. ベクトル
5. 図形の方程式
6. 行列
7. 図形の変換

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明 他

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

【授業計画】

テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. Webデザイン概論
2. テキスト『Webデザイン』検証
3. HTML
4. JavaScript
5. スタイルシート
6. DreamweaverとFireworks
7. FlashムービーとActionScript
8. Javaアプレット、CGI、XML
9. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
10. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
11. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
12. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. 基本Webテクノロジーとその活用
2. 最新のWebテクノロジーの概要
3. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
8. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

コミュニケーション心理学概論Ⅰ

斎藤和志 二宮 昭 吉崎一人

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関わるいくつかの問題をオムニバス形式で概観する。コミュニケーション心理学概論Ⅰでは、認知心理学、発達心理学、社会心理学などの領域について基礎的な内容を取り上げる。

【授業の目標】

各領域における基本的な用語や概念の学習と、それらと関連する具体的な心理学の研究方法について理解する。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. ヒトの情報処理を支える生理学的基礎
2. 知覚：視覚情報処理を中心に
3. 記憶：2つの箱の謎
4. 注意と意識
5. 子どもとおとな：人が発達するとは
6. 世界を知る：「表象」の形成
7. コミュニケーションの拡がり：「ことば」の獲得
8. ことばで考える：「思考」の展開
9. 行動科学としての社会心理学
10. 社会的認知と対人認知
11. 社会的態度
12. 集団の認知

【評価方法】

各担当者の評価に基づき総合的に評価する。具体的には各担当者の指示による。

【テキスト】

共通したテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

各担当者の指示による。

英語論文講読入門Ⅰ

鈴木哲至

【授業の概要】

英語論文読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠である。この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

【授業の目標】

心理学者や神経科医の論文を元にして書かれたやや平易な英文に触れながら、英語論文に対する基本的な取り組み方を身に付ける。

【授業計画】

- 1) Introduction
- 2) Do Good Luck Charms Really Work?
- 3) Are People Born Shy?
- 4) Does the Way You Sleep Show Your Personality?
- 5) Do Too Many Choices Make Us Unhappy?
- 6) Can Positive Thinking Lead to Longer, Happier Lives?
- 7) Why Are Music and Singing So Important to Us?
- 8) — Midterm Exam —
- 9) How much TV Is Too Much?
- 10) Is Love Really Such a Mystery?
- 11) Why Are People So Weird Online?
- 12) How Much Anger Is Too Much?
- 13) Can Loss of Memory Be Prevented?
- 14) Is the Pain of Hypochondriacs Real?
- 15) — Final Exam —

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

Everyday Psychology (Jim Knudsen 著 南雲堂)

コミュニケーション心理学概論Ⅱ

古井 景 米倉五郎 後藤秀爾

【授業の概要】

コミュニケーション心理学概論Ⅱでは、心理学全般を基礎的領域に限定し、知覚・思考・人格・感情・発達・社会適応・評価などを中心にオムニバス形式で概観する。

【授業の目標】

心理学全般にわたる基礎知識を習得し、専門各論に繋げていく。

【授業計画】

1. 脳のはたらき
2. 感情と身体への反応
3. 思考のまとまりと障害
4. スレッサーとストレス
5. 人格と社会適応
6. 人格の形成
7. 乳幼児期の発達課題
8. 児童・思春期・青年期の発達課題
9. 成人期の発達課題
10. 壮年期・老年期の発達課題
11. 意識と無意識
12. 心理測定

【評価方法】

それぞれの担当者が講義を終えた段階でレポート課題を出し、それによって評価する。授業中の積極的質問等も成績に加味するので、主体的に授業に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用しない。その都度、レジュメを配付する。

【参考文献・資料】

その都度、提示する。

英語論文講読入門Ⅱ

鈴木哲至

【授業の概要】

英文講読入門Ⅰに続いて、平易な英語科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

【授業の目標】

心理学関連の英語論文講読に必要な基本的な専門用語、意味を理解しながらの音読の仕方、要点の掴み方などの基礎を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 主なトピックは以下のとおりである。
- Apart from the Animals
 - The Trouble with Love
 - Some Thoughts about Thought
 - Personality's Part and Parcel
 - Mother's Day
 - I'm OK, You're a Bit Odd
 - Fast Track to Puberty
 - Knock Wood
 - Got a Minute
 - A Neat Gift Idea
 - Seeing is Believing
 - The Other 90%

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

We're Only Human (Paul Chance 著)

英語論文講読Ⅰ

小川一美 沖田庸嵩 坂田陽子 新美明夫 吉崎一人

【授業の概要】

心理学の論文英語に固有の表現や学術用語に慣れるために、英語で書かれた心理学の入門書を講読する。

【授業の目標】

3年生以降の心理学の専門教育を受けるのに必要な、英語読解力の基礎を養成することをめざす。

【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

英語論文講読Ⅱ

小川一美 沖田庸嵩 坂田陽子 新美明夫 吉崎一人

【授業の概要】

心理学の論文英語における記述スタイルに慣れるとともに読解スピードをあげるため、比較的新しいトピックスをとりあげている実験論文や調査論文を講読する。

【授業の目標】

英語論文講読Ⅰに続いて、心理学を中心とする英語で書かれた研究論文を読みこなす力の養成をめざす。

【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

【評価方法】

英文理解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

心理統計基礎

齋藤和志

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

【授業の目標】

心理統計の用語と概念の学習、記述統計の基本的な計算方法の理解。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じて小テスト、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の参加者としての体験も重視する。

1. 統計とは何か、そして、統計はなぜ必要か?
2. 変数とデータ
3. Σ の記号の意味
4. 度数分布表とは
5. 量的変数における度数分布表の表わし方
6. 質的変数における度数分布の表わし方
7. 量的変数に関するデータの数値要約
8. 質的変数に関するデータの数値要約
9. 線形変換と非線形変換
10. 2つの変数の関係についての分析
11. 統計的検定の基礎と実際
12. 試験

【評価方法】

定期試験による。また、前述の小テスト、レポート、調査・実験の参加者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

心理学基礎実習Ⅰ

新美明夫 西出隆紀 松尾貴司 植村勝彦

【授業の概要】

心理学における実証的研究に用いられる実験・観察・調査・面接の基礎的な技法や体系的知識を習得し、科学論文としてのレポートを作成する。各種の課題に取り組み、研究テーマの設定、資料の検索、実証データの収集・分析、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を、講義とともに少人数でのグループワークを通して学習する。

【授業の目標】

心理学の領域で用いられる各種の研究法の特徴を理解し、研究テーマにふさわしい研究法の選択からデータの収集・分析、論文の作成に至るまでの、基礎的スキルを身につける。

【授業計画】

- ◎オリエンテーション (第1回)
本講義の概要説明と、グループ分け等の今後の準備作業を行う。
- ◎第1セッション (第2～5回)
ミュラー・リヤールの錯視実験を通して、互いに実験者・実験参加者となり、心理学実験の一連の流れを理解する。さらに得られたデータに対して適切な分析を行い、それに基づいてレポートを作成する。
- ◎第2セッション (第6～9回)
信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理についてあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して結果を考察するまでのレポート作成を行う。
- ◎第3セッション (第10～13回)
SD法によるイメージ測定尺度を作成し、質問紙調査によってデータを収集する。テーマは自由に設定し、対象のプロフィールを作成することによって考察し、レポートを作成する。
- ◎第4セッション (冬休み課題)
冬休み期間中に「親世代と自分の子ども時代の体験の比較」をテーマとして、自分の親世代を対象としたインタビューを企画・実施、インタビュー・レポートの作成までを行う。

【評価方法】

評価は、実習への参加態度および提出されたレポートに基づいて行う。

【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

心理学基礎実習Ⅱ

坂田陽子 松尾貴司

【授業の概要】

心理学的研究をおこなう上で必要不可欠な技能の基礎を実習を通して習得する事を目的とする。

【授業の目標】

- 1) ワードプロソフト (WORD) を使って指定された書式のレポートが作成できる。
- 2) 表計算ソフト (EXCEL) を使って心理学的データの整理をすることができる。
- 3) 統計解析ソフト (SPSS) を使って心理学的データの基礎的な分析ができる。

【授業計画】

- 1-2回 図表入りレポート、2段組レジュメ、スケール付き質問紙の作成
- 3-4回 表計算ソフトを使ったデータの整理、集計
- 5-6回 科学レポートのためのグラフの作成
- 7回 中間試験
- 8-9回 SPSSの操作方法、データファイルの作成、基礎集計
- 10-11回 質的データの分析：度数分布、クロス集計、カイ2乗検定
- 12-13回 量的データの分析：グループ別平均値、t検定、相関
- 14回 期末試験

【評価方法】

出席、試験、課題の提出等で総合的に評価する。

【テキスト】

未定

データ解析Ⅱ

石田靖彦

【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析といった統計的処理を行うことになる。本授業では、こうした尺度構成を行う場合に必要となる統計的な考え方とその技法、その後の尺度得点の扱い方と分散分析について学習する。

【授業の目標】

尺度構成の基本的な考え方と分析技法について学習する。具体的には、尺度の信頼性と妥当性の検討方法、因子分析や分散分析のやり方について、統計ソフト (SPSS) を用いて習得することを目標とする。

【授業計画】

- 講義とコンピュータを使用した実習を行う。
各単元に複数時間をあてることもある。
1. オリエンテーション
 2. 心理統計基礎の確認
 3. SPSSの基本操作の確認
 4. 尺度構成の基本的考え方と手続き
 5. 因子分析と信頼性分析の考え方
 6. 因子分析と信頼性分析の実際
 7. 尺度得点の扱い方
 8. 分散分析の考え方
 9. 分散分析の実際

【評価方法】

授業への参加態度とレポート課題 (複数回) および単位認定課題 (試験) による。

【テキスト】

SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 (小塩真司著 東京図書)

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

データ解析Ⅰ

小川一美 新美明夫

【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的には、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行い、b) 変数の連関を数量的に検討する。

【授業の目標】

データ解析の各種の基礎的技法を習得し、所与のデータについて、適切な解析方法を適用し、分析できるスキルを身につける。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 質的データの記述統計
3. 量的データの記述統計
4. 2つの変数の関係
 - (1) 質的変数どうし (χ^2 検定)
 - (2) 量的変数と質的変数 (t検定、一元配置分散分析)
 - (3) 量的変数どうし (相関係数)

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

プリント配布。

データ解析Ⅲ

吉崎一人

【授業の概要】

データ解析Ⅰに引き続き、統計パッケージソフト (SPSS等) を利用したデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析の扱い方について取り上げる。

【授業の目標】

- (1) 要因計画について理解すること。
- (2) 実験計画法に基づいてとられた量的データを分散分析を使って分析できること。
- (3) 検討した結果を解釈すること。

【授業計画】

- 授業の内容は以下のようなものであるが、各単元に複数時間を当てることもある。
0. 記述統計の復習
 1. 推測統計の考え方
 2. 研究計画の進め方・実験計画法について
 3. SPSSの基本操作の確認
 4. 被験者間1要因計画
 5. 被験者内1要因計画
 6. 多要因計画と交互作用の意味
 7. 被験者間2要因計画
 8. 被験者内2要因計画
 9. 2要因混合計画
 10. 3要因以上の分散分析

【評価方法】

授業への参加態度と5回～6回のレポート提出による

【テキスト】

よくわかる心理統計 (山田・村井著 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

心理学マニュアル要因計画法 [再版] (後藤宗理他編著 北大路書房)
SPSSにおける分散分析の手順 [改訂版] (遠藤健治著 北樹出版)
心理学のためのデータ解析テクニカルブック (森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房)

心理学研究法調査演習

新美明夫 石田靖彦 難波久美子 遠山智子

【授業の概要】

コミュニケーション行動などに関する心理学的な研究を実証的に進めていく際の研究方法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、質問紙の作成と印刷・調査の実施を行う。さらに得られた調査データを元に、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成・プレゼンテーションまでの心理学的研究の一連のプロセスを、少人数のグループ単位で体験・学習する。

【授業の目標】

心理学研究法の一つである質問紙調査法の特徴を理解し、個別の研究テーマの設定からデータの収集・分析、論文の作成に至るプロセスに応用できる実践的スキルを身につける。

【授業計画】

1. 調査計画の立案
 - (a) 演習計画とグループ分け
 - (b) 調査テーマの決定・文献の収集
 - (c) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
2. 質問紙の作成
 - (a) 調査項目・尺度の作成
 - (b) 質問紙の作成・印刷
 - (c) 調査の実施
3. データの整理と分析
 - (a) データのコーディングと入力
 - (b) データの集計と分析
 - (c) 分析結果の整理
4. 調査報告書の作成
 - (a) 研究のまとめ方
 - (b) 報告書の作成
 - (c) 研究成果のプレゼンテーション

【評価方法】

報告書の内容および演習への参加態度を評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

心理学研究法実験演習（生理・認知）

清水 遵 吉崎一人 遠山智子 赤嶺亜紀

【授業の概要】

- 1: 生理心理学の領域で扱われる生理学的測定法を学習する。種々の心理事象（課題解決事象、虚偽事象）での脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得する。
- 2: 認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得する。

【授業の目標】

学生自らが生理心理学・認知心理学の実験に参加することによって、実験で得られた生データを取集、分析、記述するという手続きを体験的に学習することで、現象を実証的に論理構成する力を身につける。

【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それらのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

心理学研究法観察演習

坂田陽子 松尾貴司 中藤 淳 久保南海子

【授業の概要】

コミュニケーション行動などに関する心理学的な研究を実証的に進めていくためには、さまざまな種類の資料・データの収集・分析が必要である。その研究方法の一つである観察法の基礎的技法を実際に体験しながら学ぶ。

【授業の目標】

問題の設定、観察法を用いたデータの収集、データの分析、報告書の作成およびプレゼンテーションといった、心理学的研究の一連のプロセスを体験を通して身に付ける。

【授業計画】

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 基礎課題1: サンプルングによるデータの収集と信頼性の検討。
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
4. 基礎課題2: 実験計画に基づいたデータの収集、分析。
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
5. 応用課題: グループ単位で具体的な研究テーマを設定し研究をおこなう。
 - 1) 問題の設定
 - 2) データ収集方法の検討
 - 3) データの収集
 - 4) データの分析
 - 5) 報告書の作成と研究発表
 - 6) 個人レポートの作成

【評価方法】

授業への参加態度、基礎課題1・2および応用課題の個人レポートについての個別評価と、応用課題の研究内容についてのグループ評価をあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

心理学研究法実験演習（社会）

小川一美 斎藤和志 吉澤寛之 担当者未定

【授業の概要】

コミュニケーション行動や心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。研究者が人為的統制を加えた状況下で行動を観察し、因果関係を検討する実験法もその1つである。授業では、いくつかの社会心理学的な実験を体験し、研究プロセスを学ぶ。

【授業の目標】

複数の社会心理学的な実験を実際に体験することによって、心理学研究における問題の設定と研究計画の立案、データの収集と分析、報告書の作成といった一連の研究プロセスを習得する。

【授業計画】

- 1 : 授業全体のオリエンテーション、諸注意、研究法および実験法概説
- 2、3 : 基礎課題A
- 4、5 : 基礎課題B
- 6、7 : 基礎課題C
- 8～13 : 応用課題
- 14 : 研究発表会

【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。課題はグループ単位で行うが、レポートは個人単位で作成する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

心理検査法

西出隆紀

【授業の概要】

心理検査の特徴・活用法・倫理的留意点などについて概説を行い、集団実施が可能な心理検査の実施方法や解釈の仕方を実習する。また、その結果を基にレポートを書き、クリニカルレポートの書き方の基礎も学ぶ。

【授業の目標】

後期の心理検査法演習に参加ができる程度の心理検査法についての基礎的な知識を習得する。

【授業計画】

1. 心理検査についての概説（心理検査とは・心理検査の種類等）
2. 各種心理検査の歴史
3. 心理検査の信頼性・妥当性
4. 心理検査の標準化について
5. 心理検査の実施上の留意点
6. 心理検査の有効性と限界
7. 質問紙法心理検査の実例①（SDS うつ評価尺度）
8. 質問紙法心理検査の実例②（エゴグラム）
9. 投影法心理検査の実例（集団TAT、バウムテスト）
10. テストバッテリーについて

【評価方法】

出席点とレポートの評価で成績を出す。なお、この授業で単位を修得できない場合、心理検査法演習の受講が制限される場合があるので留意されたい。

【参考文献・資料】

その都度資料を配付する。

生理測定演習

沖田庸高

【授業の概要】

認知課題遂行時の事象関連脳電位（ERP）を測定・分析し、脳内認知活動のERP表出を観察する。

【授業の目標】

実験実習を通して、非侵襲的な電気生理反応の測定法を学ぶとともに、脳内認知活動への精神生理学的アプローチを理解する。

【授業計画】

- 2つのグループに分かれて、次のような流れで実習を行う。
1. オリエンテーション
- 2-3. ERP測定の練習
- 4-13. 認知課題遂行時のERP測定・分析
発表会の準備、レポート作成
14. 研究発表会

【評価方法】

実習への取り組み、レポート（個人単位で作成）、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

心理検査法演習

難波久美子 担当者未定 担当者未定

【授業の概要】

各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査は病院や公的機関で使われやすいものを予定している。

実際に心理検査を実施し、結果を解釈し、クリニカルレポートを作成することで、心理診断の基礎を身につける。

【授業の目標】

各種心理検査を理解し、実施手続きや解釈法を習得する。

【授業計画】

全体的オリエンテーションと心理検査の基礎について講義した後、以下の心理検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。

1. 知能検査（1）WAIS-R知能検査
2. 知能検査（2）全訂版田中ビネー式知能検査
3. 人格（性格）検査（1）MMPI（ミネソタ多面人格目録）
4. 人格（性格）検査（2）PFスタディ、YG性格検査
5. 精神作業検査 内田クレペリン精神作業検査
6. 津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法

【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。

<備考>

受講定員超過の場合、心理検査法の成績によって受講者の数を調整するので、心理検査法単位修得者以外の受講は認められない。

視聴覚演習

松尾貴司

【授業の概要】

人の行動や心理、コミュニケーションに関する研究では、映像（静止画像、動画）や音声刺激として提示することがしばしばある。この授業では、ハンディカムにより撮影した映像を素材として、デジタルビデオ編集機を用いて編集する過程を体験的に学習する。

【授業の目標】

デジタルビデオ編集機（DV-7 DL）を使用して、映像の編集ができるようになる。

【授業計画】

- 第1週 受講者数の調整、オリエンテーション
- 第2週 ビデオ撮影の基本1
- 第3週 ビデオ撮影の基本2
- 第4週 課題作品の企画・立案／素材の撮影
- 第5週 編集機の使い方1
- 第6週 編集機の使い方2
- 第7週 編集作業
- 第8週 課題作品の試写および相互評価

1回の授業は2時間連続でおこなう（第1週を除く）。
作業は第1週に振り分けられたグループでおこなう。
授業時間外での作業がかなり見込まれる。

【評価方法】

授業への出席状況、参加状況についての教員による評価、グループ作業における学生相互の評価（自己評価を含む）、グループ課題（作品）についての教員および学生の評価を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

生理心理学

清水 遵

【授業の概要】

ヒトや動物の行動を生物学的観点から説明する心理学の一分野（生理心理学）の概説をする。本講義では脳の構造と機能に関する基礎的知識の習熟に続いて、喜怒哀楽の感情や学習、記憶などの高次精神、更には精神障害の発現メカニズムなどについて考察する。

【授業の目標】

2年次以降の専門科目に共通する基本的問題である「ヒトの心はどのように生み出されるのか、心と身体はどのように関係しているのか」などについての問題意識を喚起し、われわれの行動に如何に脳が重要な働きを果たしているかを再考させる。

【授業計画】

1. 生理心理学とは
 - ・精神（こころ）と物質（脳）
2. 中枢神経系の構造と機能
 - ・大脳皮質の機能局在
 - ・大脳辺縁系と大脳基底核
 - ・視床と視床下部
 - ・脳幹と小脳
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンの電氣的伝導と化学的伝達
5. 心の異常と脳内化学伝達物質
6. ストレスと脳
7. 記憶と脳
8. 言葉と脳
9. まとめ

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時に適宜プリントを配布する。

発達心理学

坂田陽子

【授業の概要】

乳児期から児童期までの時期における発達の変化や年齢に応じた認知の特徴を概説する。特に、実際に行われた実験を紹介しながら、乳幼児の驚くべき能力や表象・概念の発達、および社会性の発達について述べる。

【授業の目標】

- 1) 乳幼児期の変化の概観をとらえることができる。
- 2) 乳幼児の実験方法を理解することができる。
- 3) “発達の変化”が自分自身にもあった／あることを感じる。

【授業計画】

1. 発達心理学とは？ 乳児の能力1 運動
2. 乳児の能力2 知覚・運動
3. 乳児の能力3 模倣
4. 乳児の能力4 記憶
5. 乳児の能力5 対象物の永続性
6. 言語発達1 認知的言語発達
7. 言語発達2 社会的言語発達
8. 概念の発達1 知識と熟達・方略とメタ認知
9. 概念の発達2 Piaget理論・数概念・素朴理論
10. 表象の発達1 3つの山問題・空間認知
11. 表象の発達2 描画
12. 社会性の発達 共同注意・心の理論・感情理解

【評価方法】

定期試験と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

実験で学ぶ発達心理学（杉村伸一郎・坂田陽子編 ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

社会心理学

小川一美

【授業の概要】

人間の社会的な場面での行動を研究するのが社会心理学であるが、それを「実験」という方法によって明らかにしようとする「実験社会心理学」で得られた興味深い知見を数多く紹介することによって、入門としての社会心理学の面白さを味わってもらうことにしたい。

【授業の目標】

代表的な社会心理学実験に関する正確な知識を身につけ、科学的研究とはどのようなものかを理解する。

【授業計画】

以下のテーマに沿って授業を行うが、各テーマに複数時間をあてることがある。

1. 社会心理学とは何か
2. 個人と集団
3. 認知的不協和理論
4. 対人魅力
5. 情動二要因理論
6. 攻撃的行動
7. 態度変化
8. 実験社会心理学における倫理的問題

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

社会心理学ショート・ショート-実験でとく心の謎-（岡本浩一著 新曜社）

臨床心理学

西出隆紀

【授業の概要】

「臨床心理士」という名称が社会に認知されはじめ、「心理学を学ぶイコール臨床心理学を学ぶ」という誤解も多く見られるようになった。この講義では心理学初学者である1年生を対象とするものであることを考慮し、臨床心理学は多くの心理学的・医学的知見に支えられている心理学の一分野であるということを確認しつつ、巷にある臨床心理学のイメージとその実際との乖離を埋めていけるような説明をしていきたい。

【授業の目標】

臨床心理学の基礎的知識を習得する。

【授業計画】

1. 臨床心理学とは
心理学と臨床心理学の歴史、応用心理学としての臨床心理学
2. カウンセリングと心理療法
カウンセリングとは、心理療法とは、さまざまな心理療法
3. 心理アセスメント
診断と見立て、心理検査、心理アセスメントの理論と実際
4. こころのしくみと発達
パーソナリティ、適応と不適応、こころの構造、こころの発達
5. こころの病
こころの正常と異常、発達障害、精神病、うつ、人格障害、不安障害
6. 臨床心理学の現場
病院臨床、学校臨床、施設臨床、行政機関、産業領域、新しい領域
7. 心理臨床家の訓練と倫理

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【参考文献・資料】

その都度配布。

学習心理学

川合伸幸

【授業の概要】

私たちの行動は、経験を繰り返すことで比較的永続的に変化する。このような過程を学習という。環境に適応するために行動を柔軟に変化させる学習は、学校の勉強だけでなく、私たちの行動全般に影響を及ぼす。その基本的なメカニズムと日常や臨床場面での応用について概説する。

【授業の目標】

ヒトや動物の行動に大きな影響を及ぼす学習という現象に関する実験や理論を学ぶ。また、ヒトを含めた動物の行動を制御する技法や、行動の背景にある学習のメカニズムを調べるための統制条件の設定方法の理解を目指す。さらに、学習現象に関する進化的・発達の観点からの知識を習得する。(詳細は授業にて解説する)

【授業計画】

- 1) 一般的な学習過程 (連合学習の定義、条件づけ過程の区別)
- 2) 古典的条件づけ (基本的な獲得過程と、関連する現象)
- 3) 道具的条件づけ (学習と遂行の区別、基本的な手続きと現象)
- 4) 連合学習の普遍性
- 5) 学習の理論 I (古典的条件づけの理論)
- 6) 学習の理論 II (道具的条件づけの理論: 対応法則を中心に)
- 7) 学習の発達 I (乳幼児期の学習と行動: 注意、潜在抑制、幼児期健忘)
- 8) 学習の発達 II (胎児期の学習、複雑な初期学習)
- 9) 学習の発達 III (加齢と学習)
- 10) 学習の進化 I (比較心理学: 学習の普遍性と種による違い)
- 11) 学習の進化 II (比較認知 I: 記憶、時間・計数・概念学習)
- 12) 学習の進化 III (比較認知 II: 動物の言語)
- 13) 日常場面における学習技法の応用 (授業の進捗状況に応じて予定は変更される)

【評価方法】

レポートを課す。(評価のポイントについては授業にて説明する)

【参考文献・資料】

心の輪郭 (川合伸幸著 北大路書房)

比較心理学

松尾貴司

【授業の概要】

比較心理学は、ヒト以外の種の行動との比較によってヒトの行動の理解を深めようとするものである。本講義では、様々な動物種の行動についての研究から得られた知見や理論を紹介し、心理学における系統発生的な視点の重要性について考える。

【授業の目標】

ヒト以外の動物に見られる種々の行動パターンを知り、それらを説明する理論を理解する。また、ヒトの行動についても進化的に考える視点を身につける。

【授業計画】

- 1) 行動の進化
- 2) 資源獲得の競争
- 3) 捕食関係と共生関係
- 4) 進化における性選択
- 5) 子育てにおける親の投資
- 6) 繁殖戦略
- 7) 親子間の葛藤
- 8) 利他的行動
- 9) 社会的行動
- 10) 刻印づけ
- 11) コミュニケーション
- 12) 条件づけ
- 13) 摂餌行動
- 14) 動物の言語

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

パピーニの比較心理学 行動の発達と進化 (M.R. パピーニ著 北大路書房)

認知心理学

川口潤

【授業の概要】

認知心理学の基本となる「記憶」と「思考」を中心に講義する。現在のこれらの研究分野では、実験室的研究とともにそれらが日常の人間の生活とどのように関わっているかという生態学的妥当性 (ecological validity) を考慮することが当然の考えとなっている。本年は、そのような観点から、特に日常場面に関わる記憶と思考の問題を取り上げることによって、現代の認知心理学が何を解明しようとしているか、また我々の生活にそれらがどのように関わっているかを考えていく。

【授業の目標】

人間の認知メカニズムについて、認知心理学的アプローチによってどのように解明されてきたか、また、そこで明らかになってきたことがらが日常生活とどのように関わっていることを知るとともに、心のメカニズムの巧妙さについて深く考えることができる力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 心のイリュージョン: 認知の歪みについて
2. 外界の認識: 外界をどのようにして知るのか
3. 展望的記憶: 未来の記憶をどのように覚えていくのか
4. 注意の役割とヒューマンエラー: 不注意とは何か
5. 行為の記憶: 身体が覚えていること
6. 自伝的記憶: アイデンティティを支えるもの
7. 目撃証言: 証言は正確なのか
8. 記憶の歪み: フォルスメモリー存在について
9. 潜在記憶: 覚えていないけれど覚えている?
10. 顔と名前: なぜ名前は思い出しにくい?
11. 認知と感情: 感情が冷静な判断に先行する?
12. 心の進化
13. まとめ

【評価方法】

随時のレポートおよび単位認定試験を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示をする。

【参考文献・資料】

日常認知の心理学 (井上・佐藤編 北大路書房)
情報処理の心理学 (多鹿・川口・池上・山 サイエンス社)
現代の認知研究 (梅本亮夫監修・川口潤編 培風館)
認知心理学 2: 記憶 (高野陽太郎 (編) 東京大学出版会)
認知のエイジング (D. パーク・N. シュワルツ著 口ノ町・坂田・川口監訳 北大路書房)
日常記憶の心理学 (G. コーエン著 川口潤 (訳者代表 サイエンス社) その他、授業中に指示をする。

神経心理学

八田武志

【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として (1) 脳、特に大脳の基本構造論、(2) さらに神経心理学の研究法を論じ、(3) 最後に大脳半球機能差 (ラテラリティ) について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

【授業の目標】

- 1 人間の行動の基礎にある脳のはたらきについての知識を得ること
- 2 人間の脳が1つのシステムとして統合的に機能していることを理解すること
- 3 脳の損傷の影響と行動との関連から認知リハビリテーションの可能性を理解すること

【授業計画】

- 1 中枢神経系の基礎知識
- 2 失語・失行・失認
- 3 運動コントロール・読み障害・注意障害
- 4 神経心理学の研究法 (1)
- 5 " (2)
- 6 脳外傷とそのリハビリテーション
- 7 ラテラリティ (Split Brain)
- 8 視覚のラテラリティ (1)
- 9 " (2)
- 10 " (3)
- 11 聴覚のラテラリティ (1)
- 12 " (2)
- 13 まとめ

【評価方法】

試験による

【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ (八田武志著 医歯薬出版)

【参考文献・資料】

左ききの神経心理学 (八田武志著 医歯薬出版)

健康心理学

小川 浩

【授業の概要】

複雑な現代社会は心理社会的ストレスを生み、偏った生活習慣をもたらして、様々な現代病を増加させています。これらの機序を理解し対処するためには、心理学の応用が必要です。この授業では、生活習慣と健康の関係、ストレス、保健行動の理論と実際などについて理解を深めます。この授業を通して、健康が豊かで人間らしい生き方が「基礎であり、健康な状態こそ人間らしい生き方の具現であること」を学びとってほしい。

【授業の目標】

生活習慣病についての理解を深めるとともに、受講生に身近な喫煙、飲酒、睡眠を取り上げて、健康影響、心理行動プロセス、対処方法、関連社会環境などを概説します。また、ストレスの医学的および心理社会的意味、ストレス障害、ストレス対処について学びます。そして、健康教育の実践例を紹介しします。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
授業の日程、概要、ねらい、受講上の注意事項
2. 健康心理学とは
健康の意味概念、健康心理学の歴史と課題
3. 生活習慣病
7つの健康習慣、現状と問題点、対策
4. たばこ健康
たばこの歴史、有害物質と健康障害
5. 喫煙の心理学
喫煙の実態、子どもの喫煙、喫煙動機、ニコチン依存、禁煙方法
6. 飲酒習慣
アルコール消費の実態、青少年の問題、アルコールの精神作用と代謝
7. 飲酒の健康問題
アルコール関連障害、乱用と依存、依存患者と家族
8. 睡眠と健康
睡眠障害、受講生の睡眠実態と問題点、上手な睡眠の取り方
9. 睡眠の心理学
カブレム・レム睡眠、サーカディアンリズム、睡眠物質、夢と眠り
10. ストレスとは
ストレスの基本概念、ストレスと脳、一般適応性症候群
11. ストレスと健康
受講生のストレス、PTSD、心身症、A型行動パターン、がん・心臓病
12. ストレスの心理学
トランスアクションル・モデル、認知的評価、コーピング、ストレスと性格
13. 健康教育の実践
小・中学校の喫煙防止授業の実践、癌専門病院における禁煙指導の実践
14. 授業のレビュー
試験内容の回顧と総括、授業評価
15. 試験

【評価方法】

試験の成績、出席状態（5回以上は失格）、提出物・レポートによって総合的に評価します。

【テキスト】

「健康心理学概論」（日本健康心理学会（編）実務教育出版）

【参考文献・資料】

「健康心理カウンセリング」（日本健康心理学会（編）実務教育出版）
「健康心理学辞典」（日本健康心理学会（編）実務教育出版）
「養生訓・和俗童子訓」（貝原益軒、石川謙（校訂）岩波書店）
「ストレスと情動の心理学」（リチャードS. ラザルス、本明寛（監訳）実務教育出版）

人格心理学

小塩真司

【授業の概要】

人格心理学全般に渡って講義する。人格の特性論と類型論の違い、オルポートの人格理論、キャッテルの人格理論、クレッチマー、ユング、シュブランガー、シェルドンの類型論を説明する。

次ぎに人格査定の方法論を質問紙法から投影法に至るまで説明する。最後に精神分析学における人格理論を扱う予定である。

【授業の目標】

心理学の中でも個人差と個人間の共通性を研究する人格心理学の諸理論および研究方法を概観し、一般的な知識と照らし合わせながら理解を深めること。

【授業計画】

- 1) イントロダクション
- 2) 人格・性格・気質・personality・character
- 3) 類型論と特性論
- 4) 個人差の測定方法（1）
- 5) 個人差の測定方法（2）
- 6) 人格心理学の歴史背景
- 7) 人格心理学の歴史背景
- 8) 人格の発達
- 9) 血液型性格関連説に関して
- 10) まとめ

【評価方法】

出欠およびレポートにより総合的に評価する。（レポートの内容は授業にて指示する）

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

産業・組織心理学

松浦 均

【授業の概要】

産業・組織心理学では、テーマとして「集団と組織の心理学」について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中での現場で実証された理論や知見を紹介する。学生諸君には、とくに産業組織場面、企業や行政組織に関する場面において生の現代社会の様相を切り取ってくる課題を与える。インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集し、また現実社会を実感できる機会などを通して理解していくことを目標とする。

【授業の目標】

授業の中で話したことが、現実の社会における具体的事例と直結するような形で、理解されることを望んでいる。したがって、抽象的な説明はなるべくないように、常に具体的な説明を心がけていきたい。また受講生に対しては、インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集すること、また現実社会を実感できる機会を積極的に作っていくことをお願いしたい。

【授業計画】

1. オリエンテーション（第1週）
半年間の授業の進め方を説明する。また学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。組織の問題に関するビデオ視聴。
2. 集団と組織の心理学1「集団について」（第2週～第4週）
組織問題についての概略説明。集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造・ソシオメトリック構造。
3. 集団と組織の心理学2「組織について」（第5週～第7週）
組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーション。
4. 集団に関する実験研究の紹介（第8週～第10週）
革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスクシフト。
5. リスクの心理学（第11週～第14週）
リスク心理学について概略説明とビデオ視聴。リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動

【評価方法】

出席（30%）と試験（70%）による

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

犯罪・非行心理学

鈴木眞悟

【授業の概要】

本講義は、犯罪（非行を含む、以下同様）および犯罪者（非行少年を含む、以下同様）について、理論的にまた、調査・統計データに基づき、心理学からの視点を中心にして理解を深めることを目的とする。内容としては、犯罪の実態・動向、犯罪の原因論、主要な犯罪についての犯罪および犯罪者の特徴、犯罪者の処遇、犯罪の防止、犯罪が被害者や社会に与える影響等を含む。

【授業の目標】

犯罪心理学は、応用心理学の1分野であるが、犯罪の様々な側面に心理学が応用・活用されていることを理解する。

【授業計画】

- 1) 序：犯罪・非行とは
- 2) 統計に見る犯罪の動向
- 3) 最近の非行および非行少年の特徴
- 4) 犯罪原因論の系譜
- 5) 「社会的絆理論」とその検証
- 6) 悪質商法等の被害化
- 7) 犯罪捜査と心理学：目撃証言、供述、ポリグラフ
- 8) 犯罪捜査と心理学：プロファイリング
- 9) 犯罪者の矯正・処遇
- 10) 行動科学的犯罪防止理論
- 11) 犯罪被害者の心理的問題
- 12) 犯罪報道の影響

【評価方法】

レポートおよび平常点。

【テキスト】

市販のものは使用せず、講義資料を配付する。

【参考文献・資料】

講義の中で示す。

家族心理学

水野里恵

【授業の概要】

時にはこころの支えとなり、また別の時にはこころや行動の自由を奪うものになる「家族」について心理学的観点から学ぶ。家族を研究対象とする学問は心理学以外にも、社会学、人類学などいくつかあるが、この授業では、家族心理学の基本的な概念を中心に説明しながら、家族への支援についても検討していく。

【授業の目標】

本講義の目的は、「家族」がヒトの発達にどのような意味を持つかを、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。さらに、家族全体のダイナミクスの視点から、個人の不適応の背後にある「家族」の問題と問題解決への援助について考えることを目的とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション：人間の一生と家族との関わり
2. 「家族」の多様性と普遍性：「家族」の心理学的機能
3. 愛着理論：乳幼児にとっての安全基地としての家族
4. 乳幼児の問題行動と母親の表象の問題
5. transactional modelとinteraction guidance
6. きょうだい関係と養護性の発達
7. 「親となること」による発達・親にとっての子どもの価値
8. 行動規範の伝達に「家族」が果たす機能
9. 青少年の問題行動と家族関係の病理
10. システムとしての家族
11. 家族関係の心理査定
12. 高齢社会の家族の心理学的問題
13. 「家族」機能の社会化に関する問題

【評価方法】

課題の提出と定期試験の成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

老年心理学

久保南海子

【授業の概要】

近い将来、わが国の65歳以上の人口の割合は総人口の約20%を超え、世界の先頭を切って「超高齢社会」に突入する。このような中で「老年」というキーワードを多面的に理解する事は重要である。本講義では、心理学を中心に、医学、社会福祉学、工学、生体科学などの観点から「高齢者」や「歳をとること」について概説する。

【授業の目標】

これまで心理学において発達とは、子どもを対象にした初期発達の研究が中心であった。しかしヒトのライフサイクルを生涯発達という視点でとらえれば、老化にとまらぬさまざまな変化について知ることは重要である。老化とは「なにかが出来なくなる」といった喪失の側面が強調されがちだが、本当にそうだろうか？この授業では、老化とはなにかを失うばかりではない、なにかを獲得する過程でもある、ということを理解してもらいたいと考えている。そして心理学だけにとまらぬ学際的な側面にも触れてほしい。

【授業計画】

- 以下のトピックについて、それぞれ1-2回の講義をおこなう。
- ・老年心理学研究の歴史と現在
 - ・身体機能の老化
 - ・高齢者の感覚・知覚・注意
 - ・高齢者の学習・記憶
 - ・高齢者の言語と発話
 - ・加齢と人格
 - ・高齢者の幸福感と生きがい
 - ・高齢者の家族関係と社会生活
 - ・老年期の痴呆と精神障害
 - ・高齢者の保障制度と介護

【評価方法】

出席状況と、必要に応じて授業内で作成する小レポートで評価する。ただし、受講者数によっては変更することもある。

【テキスト】

指定しない。毎回、プリント資料を配付もしくはスライドで表示する予定。

【参考文献・資料】

新版・老年心理学 (井上勝也・木村周編 朝倉書店)
認知のエイジング・入門編 (パーク・シュワルツ編 田ノ町・坂田・川口訳 北大路書房)

青年心理学

平石賢二

【授業の概要】

児童から成人へと移行する独特な時期である青年期の位置づけを検討し、その時期の心理・行動特性などについて説明する。また、自己意識特性や時間的展望など青年期を考えるにあたり重要な心理学的概念や青年期の心理的問題についても概説する。

【授業の目標】

移行期としての思春期、青年期の心理社会的発達の特徴について、生涯発達の視点も取り入れながら理解していくことを目標とする。また、青年の成長・発達を支援する心理教育的かかわりのあり方についても学習する。

【授業計画】

以下の内容について講義を行う。

1. 青年期発達と青年を取り巻く社会的文脈
 - 1) 移行期としての思春期・青年期
 - 2) からだとこころ
 - 3) 自分とのかかわりアイデンティティの探求
 - 4) 親子の絆・家族の絆
 - 5) 同性・異性の友人関係
 - 6) 学校・社会のなかでの体験
2. 発達を支援するためのスクールカウンセリングシステムと心理教育プログラム
 - 1) スクールカウンセリング
 - 2) 予防・発達促進的心理教育プログラム

【評価方法】

筆記試験およびレポート、出席状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

参考文献は講義中に適宜紹介する。必要な資料については配布する。

カウンセリング

清瀧裕子

【授業の概要】

心理療法の一つとして、日本で広く知られている“カウンセリング”。その理論や歴史について学ぶだけではなく、さまざまなカウンセリング技法についても触れ、簡単な実習を加えながら授業をすすめていく。また、カウンセリング事例やさまざまな問題点も扱うことによって、カウンセリングの実際的な部分についても扱っていききたい。

【授業の目標】

カウンセリングについて、理論的側面だけではなく、実際の側面についても学ぶことによって、より具体的・実際的な“カウンセリング”について、理解し学習する。

【授業計画】

1. カウンセリングとは
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの理論と人間観
4. カウンセリングの基本的態度
5. 共感的理解とは
6. カウンセリングの技法
7. カウンセリングの実際
8. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

成績評価はおもに期末試験の結果でおこなう。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

精神生理学

清水 遵

【授業の概要】

ヒトの行動の生理学的指標に関する基礎知識について概説した後、現代社会で特に問題となっている情動やストレスをテーマにして、これらの問題に対する精神生理学的アプローチについて論ずる。

【授業の目標】

心の変化を外顯的行動の基礎となる内潜在的な生体反応として捉える方法に習熟することで、心と身体との相関性を理解する。特に情動のプロセスを生理指標から科学的に理解することで、現代のストレス社会に適応し、将来を豊かに生きてゆくためのヒントを与える。

【授業計画】

1. はじめに
2. 自律神経系の電気生理学的指標
心電図・皮膚電気活動・呼吸・脈波
眼電図・筋電図
3. 中枢神経系の電気生理学的指標
自発脳波・事象関連電位
脳のイメージング
4. 精神内分泌指標と精神神経免疫指標
5. 感情の精神生理学的研究
情動体験と情動表出
情動表出としての生体反応
6. 高齢者の感情コントロール法
アニマルセラピーと生体反応
7. ストレスの精神生理学的研究
ストレスと生体反応
8. ストレスとリラクゼーション
環境刺激のリラクゼーション効果
9. ストレスマネジメント
バイオフィードバック
10. まとめ

【評価方法】

定期試験の評点に基づき評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

脳への認知心理学的接近

吉崎一人

【授業の概要】

「脳と行動」のメカニズムについて認知心理学の視点で概説する。まず、記憶や注意機能における代表的な認知心理学的知見について紹介する。また、それらの機能が脳のどこで扱われているのかについて議論する。

【授業の目標】

- (1) 認知心理学的な視点でヒトの行動を理解する論理について理解する
- (2) ヒトの行動と脳内活動との対応関係を理解する

【授業計画】

1. 脳と心の研究史
2. 記憶のタキシノミー
3. 記憶と脳
4. 物体の認識メカニズム
5. 顔の認識メカニズム
6. 物体や顔の認識と脳
7. 選択的注意
8. 注意の働きと脳
9. 右脳と左脳の差異—ラテラリティ—
10. コミュニケーション機能と脳

【評価方法】

中間テストと期末テストの得点。

【テキスト】

使用せず。A4版の資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業内で紹介する予定。

脳とコミュニケーション

沖田庸高

【授業の概要】

人のコミュニケーションに関わる認知活動を脳の機能から探る。特に、事象関連脳電位と行動測度から脳内認知情報処理を探索する試みについて論じる。

【授業の目標】

事象関連脳電位と行動測度を用いた基礎的な認知研究パラダイムと知見、そうした知見に基づく認知モデルの検証、さらに臨床的な応用について理解を深める。

【授業計画】

1. はじめに
2. 活動する脳を探る方法
3. さまざまな認知活動に応答する事象関連脳電位 (ERP)
4. 刺激評価時間とERP-P3成分
5. 心理時間計測法とその応用
- 5.1. Dondersの引算法
- 5.2. Sternbergの要因加算法
- 5.3. Eriksen & Eriksenのコンフリクト課題
6. 注意
- 6.1. 意識の階層と注意
- 6.2. 異なる認知処理レベルにおける注意効果
- 6.3. 非注意入力への「行方」
7. 作業記憶
- 7.1. 作業記憶モデル
- 7.2. 作業記憶探索における制御と実行
- 7.3. 中央実行系における作業間干渉
8. 言語・非言語認知
- 8.1. 言語の意味・統語・音韻処理
- 8.2. 顔の全体依存型処理と部分依存型処理
- 8.3. 視線方向と表情認知
9. まとめ

【評価方法】

定期試験と出席状況により評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜プリントを配布する。

ノンバーバル行動

松尾貴司

【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、空間行動などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、心理学的視点からばかりでなく、行動学的な視点からも論ずる。

【授業の目標】

コミュニケーションにおける言語以外のシグナルの諸相について知識を深め、ノンバーバル行動の研究課題および研究方法を理解する。

【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
 - 2) ヒト以外の動物のコミュニケーション
 - 3) ジェスチャーの分類と文化的変異
 - 4) 表出としての表情と制御された表情
 - 5) 視線の機能と規定因
 - 6) パーソナルスペースと空間行動
 - 7) ノンバーバルコミュニケーション
- 各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。
- なお、授業は座席を指定しておこなう。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

対人コミュニケーション論

小川一美

【授業の概要】

われわれが多くの人と付き合い、社会生活を営むうえで、欠くことのできない重要な行動の1つが、対人コミュニケーションである。本授業では、集団や社会の中で行われている多様な行動の基礎とも言える対人コミュニケーションについて、様々な観点から心理学的に考察する。

【授業の目標】

対人コミュニケーションに関する知識を習得し、身近な対人コミュニケーションについて考える姿勢を養う。

【授業計画】

以下のテーマに沿って授業を行うが、各テーマに複数時間をあてることがある。

1. コミュニケーションとは
2. 対人コミュニケーションとは
3. 送り手に着目して対人コミュニケーションを考える
4. 受け手に着目して対人コミュニケーションを考える
5. 送り手と受け手という二者による効果
6. メッセージに着目して対人コミュニケーションを考える
7. 自己を知らせるコミュニケーション
8. 他者の心を動かすコミュニケーション
9. 現代日本人が抱えるコミュニケーションの問題

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

対人コミュニケーション論—講義ノート— (小川一美著 マナハウス)

パーソナルメディア論

新美明夫

【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

【授業の目標】

各種のパーソナルメディアを使ったコミュニケーションの特徴を把握し、日常生活や人間関係に及ぼす影響を理解する。

【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション
メディアの歴史/メディアコミュニケーションの広がり/パーソナルメディアの特徴
2. メディアコミュニケーションの実験的研究
電話コミュニケーションの実験的研究/CMC (Computer Mediated Communication) の実験的研究
3. ワープロとコミュニケーション
活字 (印刷) 文字の変化/手書き文字の変化/ワープロ文字と手書き文字の与える印象
4. 電話とコミュニケーション
電話の歴史と利用形態の変化/電話利用と人間関係
5. モバイルメディアとコミュニケーション
モバイルメディアの歴史/ケータイ前史としてのポケベル/音声メディアとしての携帯電話/文字メディアとしての携帯メール/モバイルメディアと日常生活
6. コンピュータとコミュニケーション
CMCの現状/自己表現とパーソナルホームページ/ネットワークのインパクト/デジタル・デバッド

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。試験時には手書きのノートおよび配付資料のみを持ち込み可とする (コピーの持ち込みは認めない)。受講態度により加点・減点することができる。

【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

社会的行動の心理学

斎藤和志

【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人が、他者や社会からどのような影響を受けているのか、また周囲の他者や社会に対してどのように働きかけているのかを、社会心理学の実験や理論を通して考察する。

【授業の目標】

社会心理学の基本的な概念や諸理論を理解し、それらの観点から対人関係や社会的な行動について再吟味すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の参加者としての体験も重視する。

1. 社会心理学におけるいくつかの研究
 - A. 社会的認知と対人認知
 - B. 社会的態度と対人的態度
2. 帰属過程と帰属の諸理論
3. 社会的交換と社会的相互作用
4. 社会的行動の理解へ向けて
5. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の参加者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

コミュニティ心理学

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ (地域社会) の中で生起する社会問題について、問題を抱えている個人や家族、集団、組織などを、人よりもむしろ環境に焦点を合わせて、予防したり、支援したり、エンパワーしたり、代替物を選択したり、コミュニティ意識を養うことを通して、人と環境の適合性を高めることを目指すのがコミュニティ心理学である。この講義では、こうしたコミュニティ心理学の理念について、具体的な社会問題と結びつけて考えていく。

【授業の目標】

新しい心理科学としてのコミュニティ心理学の理念 (考え方・発想法) を理解し、その視点に立って社会問題を改善・変革する方策を提言することができるようになること。

【授業計画】

- 第1講 序章 コミュニティ心理学とは
 - 1節 歴史的背景
- 第2講 2節 コミュニティ心理学の理念と目標
- 第3講 1章 高齢者とコミュニティ心理学
 - 1節 高齢者・高齢社会とは: aged society と ageism
- 第4講 2節 高齢者の幸福な老い: クオリティ・オブ・ライフ (QOL)
- 第5講 3節 高齢者の自立: エンパワーメント
- 第6講 4節 高齢者のヘルスケア: 予防
- 第7講 2章 障害者とコミュニティ心理学
 - 1節 障害とは: ラベリング理論とスティグマ
 - 2節 知的障害者と社会: 多様性の尊重
- 第9講 3節 知的障害者と地域社会: コミュニティ感覚
- 第10講 4節 知的障害者の支援: セルフヘルプ・グループ
- 第11講 3章 子どもとコミュニティ心理学
 - 1節 子どもと生育環境: 人-環境適合
 - 2節 学校不適応と子ども: コンサルテーション
- 第13講 3節 子育て支援と社会資源の活用: ソーシャルサポート・ネットワーク
- 第14講 終章 再び、コミュニティ心理学とは
 - 1節 まとめを代えて
 - 2節 心理・社会問題とコミュニティ心理学

【評価方法】

3つの章ごとに課題として出すレポートにより評価する。1度でも未提出であれば無条件で不可とする。

【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

【参考文献・資料】

よくわかるコミュニティ心理学 (植村勝彦他編 ミネルヴァ書房)

認知の生涯発達心理学

坂田陽子

【授業の概要】

胎児期・乳児期から高齢期まで、人の生涯にわたる認知の変化を概説する。特に、記憶や注意能力、日常生活に必要な認知能力の年齢に伴う変化について、さまざまな実験結果に沿いながら取り上げる。

【授業の目標】

- 1) 実験データを基に人の認知の変化を考えることができる。
- 2) 乳幼児から高齢者まで幅広い世代の人に対する理解が深まるようになる。

【授業計画】

1. 生涯発達をとらえるには
2. 加齢理論
3. 注意 1 乳児期
4. 注意 2 幼児期 1
5. 注意 3 幼児期 2
6. 注意 4 成人期・高齢期
7. 記憶 1 高齢期の記憶の変化
8. 記憶 2 高齢者の自伝的記憶
9. 記憶 3 高齢者のメタ認知
10. 日常生活 1 サークリアリズムと加齢
11. 日常生活 2 高齢者の言語と発話理解
12. 日常生活 3 高齢者の日常と認知のエイジング

【評価方法】

定期試験（もしくは課題）と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

認知のエイジング（口ノ町康夫・坂田陽子・川口潤監訳 北大路書房）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

分析心理学

後藤秀爾

【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、ここではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。

S.Freudとともに精神分析を発展させてきたJungがFreudから決別して独自の心理学をうち立てたのである。理論的にはそれほど複雑ではないものの、その知見を実際に自分のものとするには体験を通さないと分かったことにならないのが特徴とされる。講義では受講者の日常的な体験に即して説明を行うつもりである。

【授業の目標】

心理臨床の立場から、自己理解と他者理解の深め方とその相互性を知る。

【授業計画】

1. 導入
- 1) チェスナットロッジの奇跡
2. 基礎知識
- 2) 意識・前意識・無意識 3) 自己と自我
- 4) フロイトとユング 5) ユングとエリクソン
3. 時代の病理とその背景・1 - 『千と千尋の神隠し』-
- 6) 思春期モーニング 7) 母性原理と父性原理
- 8) 愛することと働くこと
4. 時代の病理とその背景・2 - 『ハリー・ポッター』-
- 9) P.T.S.D. 10) 子どもにとっての家庭と学校
5. 関係の病理を見る視点 - 虐待事例を通して-
- 11) 葛藤の世代間伝達 12) エディプス葛藤とアジャセ葛藤
6. まとめ
- 13) 社会の病理の流れ 14) 『ビッグOとのであい』

【評価方法】

出席状況と期末試験結果による。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業内で紹介する。

障害児の発達と援助

二宮 昭

【授業の概要】

自閉症や知的障害、脳性まひなど「障害児」と呼ばれる子どもたちについて解説するとともに、その援助をめぐる問題を「やりとり」と「からだ」という視点から論じる。

【授業の目標】

「障害児」の発達の様相や特性を理解し、その援助のあり方についての考えを深める。

【授業計画】

1. 障害とその改善① 福祉は障害児?—障害児の受け容れの歴史
2. 障害とその改善② 障害の重層的構造
3. 障害児とその特性① 自閉症児
4. 障害児とその特性② 脳性まひ児
5. 障害児とその特性③ 知的障害児
6. 障害児とその特性④ 重複障害児・その他の障害児
7. 傾く垂直線—世界を捉える場としての「からだ」
8. ストーブは冷たい—やりとり（コミュニケーション）の基盤としての「からだ」
9. 「からだ」「やりとり」から見た障害児の問題点
10. 「からだ」を通した「やりとり」の発達援助①—動作法の考え方
11. 「からだ」を通した「やりとり」の発達援助②—動作法の実践例
12. 子どもを変えるからこちらにも変わるへ—発達援助の基本パラダイム
13. テスト

【評価方法】

最終回に実施するテストの成績による。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

障害特性の理解と発達援助（昇地勝人他編 ナカニシヤ出版）
講座・臨床動作学3 障害動作法（成瀬悟策編 学苑社）

心理療法

西出隆紀

【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、人格論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

【授業の目標】

各派の心理療法理論を学ぶ。

【授業計画】

1. 心理臨床入門 心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析 錯誤行為、夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論 Klein, M., Fairbairn, W.R.D., Guntrip, H., Winnicott, D.W., Bion, W.R. などの理論
4. 自我心理学（主にFreud, A.）と自己心理学（Kohut, H.）の理論
6. 現象学的人間学派 Rogers, C.R.の来談者中心療法、Gendlin, E.T.の体験過程療法
7. 家族療法 家族システム論、Erickson, M.の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【参考文献・資料】

その都度配布。

精神分析療法

米倉五郎

【授業の概要】

精神分析療法（精神分析的な心理療法）について実務的な視点から講義する。精神分析的な心理療法は対話と面接により交わされる言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションによる心理学的な援助技法である。本講では、精神分析的な心理療法とロジャースの来談者中心療法やジェンドリンのフォーカシングなどを統合した対話心理療法についても解説する。

【授業の目標】

心理臨床の実務にとり基本的な面接技法である精神分析的な心理療法についての技法と理論について概説する。

【授業計画】

1. 出会いと対話心理療法
2. 意識と前意識と無意識 心理力動と人格構造
3. 見立てと心理アセスメント、ストーリーを読むこと 心理査定法の活用
4. 面接構造、面接契約（約束） 中断と行動化そして終結
5. 転移と逆転移、抵抗と逆抵抗 ドラの事例とフロイトの失敗
6. ロジャースの来談者中心療法と精神分析的な心理療法
7. ゲシュタルト療法（パールズ）と精神分析的な心理療法
8. 論理療法（エリス）と精神分析的な心理療法
9. プレエディパールとエディパールの人格水準 抑うつ態勢と妄想分裂態勢
10. 間主観性とウイニコットの相互スクイグル描画法
11. 神経症、境界型人格障害、統合失調症の心理療法
12. 心身症と自己愛的人格障害、アレクサミヤと心理療法
13. 集団心理療法とエンカウンターグループ、グループアプローチ
14. コンサルテーション・リエゾン臨床心理学の実務
病院心理臨床 学校心理臨床 産業心理臨床

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。その都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

なし。

専門演習 I

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

コミュニティ心理学の理念（考え方・発想法）に基づく共同研究を構想し、実施すること。

【授業計画】

コミュニティ心理学が対象とする社会問題について、ゼミ生の討論に基づいてテーマを決め、共同研究を行う。夏のゼミ合宿までに面接データを収集し終え、そのまとめ方をゼミ合宿で討論する。

また、前期のうちから、各自の研究テーマを模索しておかないと、なかなか卒論のための問題意識が定まらないという経験的現実から、後半には毎回個人発表を行う。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用しない。必要なものは資料として配付する。

精神医学

古井景

【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的な方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的な精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

【授業の目標】

精神医学における『病氣（障害）』の概念を『健康な状態』との比較に於いて理解すること。

【授業計画】

1. 力動精神医学的理解
 - ・自我機能
 - ・精神力動
 - ・人格構造論
2. 従来の疾病分類（記述精神医学）
 - ・内因性精神病
 - 精神分裂病（破瓜型、妄想型、緊張病型、単純型）
 - 躁鬱病、うつ病
 - 非定型精神病（錯乱精神病）
 - ・外因性精神病
 - 器質性精神病
 - 症状性精神病
 - 中毒性精神病
 - ・心因性精神病
3. 近年の疾病分類（生物学的精神医学）
 - ・ICD-10（WHO疾病分類）
 - ・DSM-IV（アメリカ精神医学会）
4. 大脳生理学的理解
 - ・脳内神経伝達物質
 - ・画像診断
5. 治療の実際（事例を呈示して）

【評価方法】

テスト、または、レポート提出によって判定する。（実施方法、内容については、授業内に説明する）

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

【参考文献・資料】

資料は、その都度配布する。

専門演習 I

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

社会心理学研究の研究手法、分析手法、データの読み取り方、論理的な思考を習熟する。

【授業計画】

対人社会心理学に関する研究論文などの文献を講読する。各回、レポーターが発表をし、全員で討論を行うという形式である。

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

文献や資料などについては、適宜指示する。

専門演習 I

沖田庸嵩

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の研究に必要な基礎的事項について解説するとともに、実験研究の体験実習を行う。

【授業の目標】

卒業研究に必要な専門領域の基礎を習得し、学生各自が興味を有する研究課題を明確化する。

【授業計画】

1. 事象関連脳電位 (ERP) に関する基礎知識
2. ERP 研究が扱う認知心理学のテーマ
3. ERP 測定の実験実習
4. 各自の研究テーマの明確化

【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

専門演習 I

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、あるいは種々の体験を通して学習内容の確認を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」を、それぞれに目指す。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、授業時間内にボディワークを中心に行なう。無意識のうちに身につけてしまっている身構えや、人とかかわり方の癖などについての自己理解を深める。

2) は、各自で心理臨床に関連するボランティア活動に参加した経験を、授業内で交流する。体験したことを文章化して他者に伝える努力は、感情を理性化して内省的自己を育てるための大切な作業である。

3) は、1) 2) の活動を通して生まれる問題意識にそって進める自己学習の成果を、授業内で報告する形をとる。各自に必要な文献を探すためのアドバイスは、個別に行なう。

夏期休業期間中に、研究テーマを確定するための合宿研修を予定している。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数だけのことではない）と、期末に出す課題レポートの内容による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で個別に指示する

専門演習 I

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味を有する研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

卒業研究へ向けての問題と目的の設定。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 社会心理学的研究法
2. 社会心理学論文講読
3. 研究課題の明確化

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習 I

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究テーマを決めることができる。
- 2) テーマに沿った文献検索ができる。
- 3) 国内外の論文を読んでまとめることができる。

【授業計画】

1. 実験計画法についての講義
2. 卒業論文のテーマを大まかに絞る
3. 各自興味のあるテーマにそって先行研究の集め方を学ぶ
4. 各自興味のあるテーマにそって先行研究を講読する
5. 先行研究の要旨の発表

【評価方法】

出席状況、論文講読状況および発表内容等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習 I

清水 遵

【授業の概要】

生体内の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

【授業の目標】

専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため、入門的な内外の書籍を講読し、適宜配布プリント等を用い、解説を加える。

- (1) 精神生理学における実験計画
- (2) 神経系の電気生理学的指標
- (3) 神経内分泌指標
- (4) 精神神経免疫学的指標

【評価方法】

出欠および授業への積極的参加度で評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習 I

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

メディアコミュニケーションに関する基本的な知識を身につけ、各自の関心と関連する文献研究を進め、予備研究の計画を立てる。

【授業計画】

社会心理学的な観点からメディアコミュニケーションを扱った基本的な文献の輪読を行う。毎回、指定されたレポーターが発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容、および、適宜提出を求めるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。授業内で取り上げる文献については、適宜指示する。

専門演習 I

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

心理臨床事例理解に必要な知識を習得し実践に活かす。

【授業計画】

1. オリエンテーション 感受性訓練（運動場で実施）
2. 事例研究論文講読 神経症、不登校、摂食障害、自閉症、統合失調症などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針等を検討する。
3. 体験実習 箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、心理臨床実践への体験的理解を深める。

なお、2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である（5泊6日）。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもに真剣に関わり、その生き方を考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになる。また、実習に先立って、夏期休業中に事前学習を行う。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

【参考文献・資料】

その都度配布。

専門演習 I

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。

【授業の目標】

4年次の卒業研究に向けて、学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. 論文講読
教員の指定する研究論文を各自が読み、担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論する。
2. 体験実習
からだを使った様々な課題を通して、からだところの結びつき、コミュニケーションの基盤としてのからだのもつ意義などを体験する。
3. ミニ研究の実施
グループで関心のあるテーマについて簡単な研究を実施する。その結果をレポートにまとめ、夏休み中のゼミ合宿で報告する。
4. 学外授業
夏休み中にゼミ合宿として学外授業を行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習 I

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

各自がテーマを見つけ個々の興味を掘り下げていくなかで、『主体的に勉強する』姿勢を身につける。

【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていきたい。

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

その都度指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

専門演習 I

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

1. ノンバーバル行動に関する実験的研究の流れを体験する。
2. 卒業研究のテーマを見つける。

【授業計画】

1. ノンバーバル行動に関する実験実習
2～3のグループに分かれ、ノンバーバル行動をテーマとした実験をおこなう。グループごとに、関連する文献の紹介、実験計画の立案・実施、結果について報告し、全員で討論する。実施した実験については各個人でレポートを作成する。
2. 各自の研究テーマの明確化および研究論文の紹介
4年次の卒業論文に向けて、各自の具体的な研究テーマを報告する。報告にはレジメを用意し、研究テーマの概略と関連する研究論文を紹介する。進行状況によっては、夏期休業中に自主補講をおこなうことがある。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 I

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

臨床心理学の基礎的な文献を講読しながら面接法の技法について体験的な学習をしつつ、院生とのミニインタビューや小グループによるエンカウンターグループによる体験学習による自己分析も行う。

【授業計画】

心理アセスメントは、クライアントにはどのような問題と苦悩を抱え、どんな心理療法を求め必要としているかを見立て理解する臨床心理学的な面接技法である。また心理面接では、どのような技法を用いようとも、面接と対話による問答法である。すなわち、面接し対話することに治療的な要因があると考えられる方法である。したがって、心理療法は実践であり、その技法を習得するためには、自分の身体にその技法のコツをのみこませなくてはならない。聴き方、話し方などの言語的コミュニケーションとともに、非言語的コミュニケーションも大切なものである。実習講義では、初回面接のロールプレイング（二人一組の役割演技）による実習により、心理アセスメントや見立てを実際的に理解できる体験学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業への参加態度から評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

専門演習 II

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

共同研究をまとめ、「報告書」を完成させること。それと共に、卒業論文のテーマと方法を確定すること。

【授業計画】

各自の卒論のための研究テーマの発表を主体とする。また、夏期ゼミ合宿でまとめ方を検討した共同研究について、「報告書」を作成する作業を行い、出版する。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特には使用しない。必要なものは資料として配付する。

専門演習Ⅱ

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究テーマの明確化、および研究計画の立案を目指す。

【授業計画】

下記のような流れで研究を進めていくが、各回、交代で自分の研究の進行状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 各自の関心をもとに、先行研究の講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

専門演習Ⅱ

沖田庸高

【授業の概要】

専門領域の論文を学生各自が講読・発表し、ゼミ全体で質疑、応答を行う。

【授業の目標】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを習得する。

【授業計画】

1. 各自の興味に沿った先行研究の講読・発表
2. 卒業研究のテーマに応じたグループ分け
3. 卒業研究で取り上げる問題・目的の明確化
4. 卒業研究の実験計画の立案

【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

専門演習Ⅱ

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に向けて、問題意識を明確にし、主題を絞り込むと同時に、研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」をさらに深めることはもとより、年度の終わりには卒業研究につながる論文を完成させる。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

前期に引き続き、この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、心理査定や投影法の基礎的な技法や考え方をういて、自己理解と他者理解の表裏一体性への気付きを深める。

2) は、前期のボランティア経験を継続しつつ、個別の事例を理解することに焦点を移していくことを期待したい。

その視点でレポートを作成し、授業内で報告する。

3) は、さらに問題意識を絞り込んで、特定のテーマについての文献学習を進める。2) の活動と結びつような学習ができるとうい。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数だけのことではない）と、学期末に提出する1年間の成果をまとめたレポートの内容による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

専門演習Ⅱ

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究へ向けての方法の明確化。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 社会心理学論文講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究の序論を構成できる。
- 2) 各自の研究の仮説を立てることができる。
- 3) 各自の研究の方法を考えることができる。

【授業計画】

1. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読および発表
2. 先行研究から問題点を見つける
3. 卒業論文の問題・目的を絞る
4. 卒業論文の実験計画を立てる
5. 幼稚園や老人ホームでの実験実習

【評価方法】

出席状況、論文講読および発表状況、実験計画、実習への積極的参加・協力等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習Ⅱ

清水 遵

【授業の概要】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

3年次終了までには自己の研究テーマを具体化し、生理学的手法を取り入れた実験計画が立案できるよう方向づけを行う。

【授業計画】

感情体験と深く関係したトピックスについて内外の論文を広く講読し、それらを参考にして各自が選択した研究テーマとそれに関する論文についてレポーター形式で発表、討論を重ねる。

【評価方法】

授業への積極的参加度、レポート評点など総合的に評価する。

【テキスト】

適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習Ⅱ

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

各自のテーマにしたがって予備的な研究を行い、卒業研究に向けての検討課題を洗い出す。また、その過程で卒業研究に必要なスキルを身につける。

【授業計画】

各自の関心テーマにしたがって、予備的な研究を行うとともに、研究の一連の流れや方法論を身につける。作業は、おおよそ次のような過程をたどる。授業では、それぞれの段階での成果を発表し、全員で検討を行う。研究テーマによってはグループで行うこともある。

1. 問題意識の明確化と研究目的の具体化
2. 研究方法の検討
3. データの取集と分析
4. 結果の考察と研究レポートの作成

【評価方法】

毎回の発表の内容と、提出された研究レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な参考文献は適宜指示する。

専門演習Ⅱ

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

心理臨床実践に必要な技法と研究論文執筆の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1. 論文講読
「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。
2. 体験実習
ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。また、実際のケースのビデオを見て、模擬ケースカンファレンスなども行い、症例に対する見立ての仕方などについても学ぶ。

【評価方法】

出欠と授業態度、提出されたレポートをもとに評価する。

《備考》

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅱ

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究のテーマと研究方法についての見通しをつけるようにする。

【授業計画】

1. 論文の講読
担当者がそれぞれ関心のある研究テーマに関する研究論文を報告し、それに基づいて討論を行う。
2. 研究方法の検討
最も関心のあるテーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、討論を通して検討する。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習Ⅱ

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

各自のテーマに基づいた専門的な知識を身につけ、『主体的に学問する』姿勢を身につける。

【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。力動論の見地から様々な出来事の背景要因を探っていく。このための研究方法を様々な方法論を屈指して見つけていく。

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

その都度指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

専門演習Ⅱ

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究の内容について予備研究をおこない、研究方法を確定する。

【授業計画】

1. 各自の研究テーマに基づいて、予備研究のための具体的な研究方法（実施可能な手続き）を報告し、全員で検討する。
2. 予備研究を実施し、その結果を報告する。この予備研究については、全員が個人で論文形式のレポートを作成し学期末に提出する。レポートの形式・内容について、後期授業終了後に個別に指導する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅱ

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究に向けて事例研究法を中心とする個人発表をしながら卒業論文の研究テーマと方法について検討する。

【授業計画】

心理療法の学習では、フロイトの精神分析的な心理療法を中心として、ロジャース、ユング、サリヴァン、クライン、ウイニコットなどの心理治療と人格理論のエッセンスを講義する。また思春期から青年期、成人期の事例を報告しながら、クライアントの人格発達の病理とともに成長の過程、家族療法や集団心理療法についても講義する。実習講義では、心理面接の佳境期でのロールプレイングにおける、転移と抵抗および逆転移と逆抵抗などについてのカウンセリングの技法、態度、自己理解について、体験的な学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業での参加態度から評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

異文化コミュニケーション

高井次郎

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業の目標】

授業目標は、1) コミュニケーションの過程における文化の影響の理解、2) 言語および非言語コミュニケーションの役割と文化的相違性の理解、3) 異文化接触を通じて獲得できる自己成長要因の理解、4) 異文化接触がもたらす弊害の理解、5) 自文化中心性の仕組みの理解とその解消、および6) 異文化コミュニケーション能力の獲得である。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

比較文化論Ⅱ（日・欧）

山井徳行

【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。2005年度はトルコ加盟に関して議論があった。

【授業の目標】

ヨーロッパの多様性に内在する共通性を把握し、日本と比較することによって世界を見る複眼的視点を獲得すること。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 第1週 | 授業のやり方や準備の仕方を説明する。 |
| 第2～4週 | 日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。 |
| 第5～7週 | ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。 |
| 第8～10週 | 具体的なヨーロッパの国々と生活。 |
| 第11～12週 | 日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。 |
| 第13～15週 | 整理とまとめ。 |
- 2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。2005年度は特になかったが、もし今年度、関連する事件が起こればその時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Pointを使って授業をする予定です。

【評価方法】

発表（またはレポート）と定期試験の結果で行う。

【テキスト】

特になし。プリントを配布。

【参考文献・資料】

沈黙のことば（エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)])
英語と日本人（太田雄三著 講談社学術文庫）
「ことばと文化」「教養としての言語学」（鈴木孝夫著 岩波新書）
福翁伝（福沢諭吉）

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識し、異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅲ（日・アジア）

尹大辰

【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

前半は日本と中国、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業の目標】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、韓国や中国の文化習慣を多面的に紹介する。

【授業計画】

1. 中国大陸、朝鮮半島、日本列島の地理的關係
2. 韓国と中国の祝日と風俗習慣
3. 日・韓・中漢字比較
4. 言語表現から見た文化比較
5. 朝鮮半島の自然と文化・風土
6. 韓国の家族制度と姓・本貫
7. 韓国の社会生活から見た文化比較
8. 日本の中の渡来文化
9. 陶磁器文化の礎
10. 江戸時代の朝鮮通信使から見た文化交流の意義
11. 雨森芳洲から学ぶ文化交流の意義
12. 日韓文化交流の意義
13. まとめ

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金剛基監修図説「韓国の歴史」（河出書房新社）

比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解することが不可欠な存在となっている中東イスラーム世界について、イスラームの教義や政治社会の成り立ち、現代のイスラーム復興、国際政治という多角的側面からアプローチする。事例としては前近代において西洋世界を凌駕する文明を築いたオスマン帝国と現代中東の地域大国であるトルコを中心に取り上げる。

【授業の目標】

現代のイスラーム世界に関する情報やイメージはテロや抑圧に関するものが圧倒的であり、それがイスラームやムスリムに対する偏見やステレオタイプを増殖させている。この授業では、現実のイスラーム世界で生じているダイナミズムの多様な意味や可能性を学び、一面的情報に接した際も、その背後のダイナミズムを読み解く力をつけることを目指す。

【授業計画】

1. イスラーム世界を見る目
* 我々に潜むオリエンタリズム
2. イスラームの教義と文明
* イスラームとは何か
* オスマン帝国の繁栄：多民族多宗教の共存システム
* 西洋近代の台頭とオスマン帝国の崩壊：世俗化と国民国家化
* 近代日本とオスマン帝国
3. 現代のイスラーム復興
* イスラーム復興運動とは何か
* イスラーム復興と女性
4. 国際政治とイスラーム
* ヨーロッパとイスラーム
* 冷戦後のイスラーム世界とアメリカ

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

オスマン帝国・イスラーム世界の「柔らかな専制」（鈴木董 講談社現代新書 1992年）
イスラームとは何か（小杉泰 講談社現代新書 1994年）
イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書 1991年）
その他、授業中に適宜指示する。

ビジュアルコミュニケーション

後藤伸男

【授業の概要】

視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まってきている。本講では、人の視知覚が「いかに人の側の条件に依存しているか」を論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

【授業の目標】

「ビジュアルコミュニケーション（VC；視覚情報伝達）」の様々な現象を通して、「形」と「色」が「VC」の重要な担い手になっていることを詳しく解説し、「VC」の理解が、われわれの心理的なコミュニケーションにきわめて有効な知見をもたらすことを実証する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション（授業内容の説明）
- 2 ビジュアルコミュニケーションの意味について
- 3 視覚情報受容（視知覚）の生理的基礎
- 4 視環境（視覚情報の発信・受信空間）の成立
- 5 視環境の基点（輪郭）
- 6 視環境の反転（図と地）
- 7 視環境のまとまり（形）
- 8 視環境の広がり（奥行き）
- 9 視環境の安定性（恒常現象）
- 10 視環境の振れ-1（形の錯視）
- 11 視環境の振れ-2（色の錯視）
- 12 視覚情報の統合（視覚モデル）
- 13 ビジュアルコミュニケーションの意義と利用

【評価方法】

期末には、ペーパーテストを行う。また、授業への意欲的な出席を重視し、授業時間に行ったショートレポートを評価に加える。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

ビジュアルコミュニケーション（藤沢英昭他著 ダヴィッド社）
ビジュアル・コミュニケーション（R.A.ワイルマン他著 北大路書房）

比較文化論Ⅴ（日・中）

杜英起

【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化（民居、庭園）、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探求する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

【授業の目標】

日中文化の共通点と相違点をよりよく理解し、違いを乗り越えて真の友好関係を築くために自分が何をすればよいかを考える力を身につけてもらうことが目標である。

【授業計画】

1. 花の文化について
2. 色の文化について
3. 動物の文化について
4. 数字の文化について
5. 建築の文化について
 - (1) 北京の民居・胡同
 - (2) 中国の四大名園の紹介（主として頤和園と拙政園を紹介する）
 - (3) 万里の長城
 - (4) 日本の建築
6. 漢字と文化
7. 中国の儒教、儒教による日本への影響

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

日中比較文化論（出版社 マナハウス）

マスメディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

新しい情報メディアが次々出現してくる状況のなかで、「もうマスメディアの役割は終わった」という声も聞かれるが、現実の社会生活のなかでのマスメディアの世論への影響力はむしろ強まっているように思われる。一方で、マスメディアは政治や経済と同じようにグローバル化の波に飲み込まれつつある。この講義はそうした現在のマスメディアの状況のなかでも、ジャーナリズム性という点に焦点を当てて、歴史的な考察もまじえながら、現在、未来のマスメディアのあり方について具体的に考える。

【授業の目標】

放送と通信の融合という現状をふまえ、既存のマスメディアにおけるジャーナリズムの動向を探る。

【授業計画】

- (1) 「ジャーナリズムとは何か」について歴史的に考える
- (2) マスメディア（マスコミ）とジャーナリズムの関係について
- (3) 世論とは何か、世論とマスメディア、ジャーナリズムとの関係
- (4) マスメディア、ジャーナリズムと民主主義
- (5) マスメディアはなくなっていい、という議論について
- (6) 各国で現れてきているオルターナティブ（対抗的）メディアとはどんなものか
- (7) グローバル化はマスメディアにどんな影響を及ぼしているか
- (8) マスメディアの将来を考える

【評価方法】

数回出席するレポートと期末のテスト結果で判定する。出欠は受講者の人数に応じて考える。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業のなかで適宜資料を配付し、参考文献も紹介する。

リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク（事故・災害・犯罪・環境・食・医療）に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学の視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

【授業の目標】

将来、自分の生活の中で大きなリスクが降りかかってきたときに困らないように、現代社会におけるリスクの特徴を理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. まとめ

【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

コミュニケーション障害論

西村辨作

【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となって合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連つけて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

【授業の目標】

1. コミュニケーションの障害について理解する。
2. コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考える。

【授業計画】

- 第1回 コミュニケーションについて
- 第2回 人間の言語行動の特徴
- 第3回 子どもの発達障害
- 第4回 認知発達のみちすじ
- 第5回 心理社会的な成長
- 第6回 知的障害
- 第7回 自閉症
- 第8回 障害児を持つ家族
- 第9回 軽度発達障害
- 第10回 構音障害
- 第11回 失語症
- 第12回 聴力障害
- 第13回 記憶障害
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 予備日

【評価方法】

障害児・者が主人公の映画（ビデオ）の鑑賞感想文。指定ビデオは授業の中で通知する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜配布する

言語への認知的アプローチ

増田尚史

【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、認知科学のおよび認知心理学的な観点から検討を加える。特に、言語行動を支える脳と心的表象（mental representation）について考察する。さらに、言語行動の社会的意味についても考える。なお、方言や敬語に関する社会学的および社会言語学的考察については、本講義の対象としないので、履修にあたっては考慮されたい。

【授業の目標】

本講義の目標は、われわれ一人一人の日々の言語活動がどのようなモノ（脳）とコト（心的表象）とに支えられているかを修得し、われわれをとりまく言語環境がいかなるものであるのかを再発見してもらうことにある。

【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語の獲得
3. 言語行動と記憶活動
4. 言語行動を支える脳部位と失語症
5. 心的辞書
6. 言語とコミュニケーション
7. われわれをとりまく言語環境

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

【評価方法】

レポートの成績（80%）と、授業への出席および調査等への参加協力の程度（20%）とによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

社会学概論

長濱一夫

【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互適及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

【授業の目標】

社会学的思想法の修得を目指し、現代社会に対する認識力（時代の流れを読む力）を培いたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

授業時に紹介します。

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】

古代から現代にいたる西洋哲学をテーマに沿って概観することによって、哲学的思考力を養う。加えて、現代社会に生きるものとして、そうした思考力を人生に生かす方途を探っていく。

【授業の目標】

哲学的なテーマを考察することを通じて、論理的な思考力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1. 現代社会において哲学することの意義とは何か
2. 心身二元論と認識論——デカルトから『マトリックス』へ
3. 心身問題というアポリア
4. 実在と表象について
5. 身体論的転回——哲学から認知科学へ
6. コンピュータは心をもつか1——『ブレッドランナー』とチューリングテスト
7. コンピュータは心をもつか2——中国語の部屋
8. ロボットが他者になるとき——『甲殻機動隊』の一話より
9. 他者と心の帰属——心の理論
10. 身体の機械化の果てにあるもの——『ゴースト・イン・ザ・シェル』と人格の同一性
11. 心と脳の同一性をめぐって
12. 水槽のなかの脳
13. クオリアとは何か

【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

【テキスト】

【講義の進め方】

基本的には教科書が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関係する映画などを鑑賞しながら進めていく。

【参考文献・資料】

現象学と21世紀の知（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。祖師の著作や仏教古文書の解説も行う。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業の目標】

世界の宗教を概観し知識を得た後、特に仏教を開いた釈尊の生涯、教説を学び、人間の心の豊かさや生き方を学んでもらいたい。

【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 世界の諸宗教 (1)
- 4: " (2)
- 5: " (3)
- 6: 釈尊の生涯 (1)
- 7: " (2)
- 8: 釈尊の教説 (1)
- 9: " (2)
- 10: " (3)
- 11: 祖師の著作や古文書の解説 (1)
- 12: " (2)
- 13: まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

使用しない。経典、語録などのプリントは当方で用意し配布する。

倫理学概論

井川昭弘

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものが人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思えます。

【授業の目標】

倫理学とは何かについて概略的に理解すると同時に、「善き生」について語った名著に触れることによって主体的に各人が「善き生」について反省することのきっかけとなることを目標にしたい。

【授業計画】

- 1 倫理「学」とは何か
- 2～4 近代日本に於ける「善き生」
- 5～8 近代西洋に於ける「善き生」
- 9～11 中世・古代西洋に於ける「善き生」
- 12 終わりに

【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造
 - c 外圧と政策決定

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考（高島道敏 岩波ブックレット617）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

国際関係の基本概念や歴史的展開を理解するとともに、戦争と平和の問題を日本との関係も含めて理解すること。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連の安全保障体制
6. 地域紛争とテロリズム
7. アジアにおける日本の戦争
8. 戦後日本と安全保障
9. アジアと日本の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

国際法概論

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらいたい。

【授業の目標】

これからの日本、また学生諸君は、国際社会とどうつき合っていくべきかを考える。

【授業計画】

- 第1回 国際法概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回 国際社会における人権保障（1）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第9回 国際社会における人権保障（2）（女性の人権、子どもの人権）
- 第10回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第11回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第12回 国際安全保障（国連軍、軍縮）
- 第13回 武力紛争（戦争法・人道法）
- 第14回 国際社会における法の支配（展望）
- 第15回 国際秩序の展望

【評価方法】

主として平常点と単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業の際、指示する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

法律学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目にはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業の目標】

日常生活において「民法が果たす役割」の重要性を理解すること。

【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

経済学概論

福澤直樹

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業の目標】

受講者諸君が現代経済社会を認識する上で重要な概念や視角、基本的な理論的枠組みを習得し、それによって自らがその一員として生活する現代経済社会について、より深く、体系的に理解できるようになることが、この授業の目標である。

【授業計画】

1. 「経済学とは何か」
2. 「資本主義とは何か」
3. 資本主義の基本的要素
(1) 市場経済下の商品交換・貨幣・雇用関係
(2) 資本主義の諸経済主体と国家の役割
4. 資本主義経済の諸機能
5. 資本主義経済社会の歴史的生成過程
(1) 近代資本主義の生成
(2) 19世紀資本主義の諸特徴
6. 現代（20世紀）資本主義の諸特徴

【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

【テキスト】

資本主義のしくみ（八木紀一郎・宇仁宏著 ナツメ社）

国際経済事情

福澤直樹

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業の目標】

ごく初歩的な経済学の知識を前提に現実の世界経済で起こっている種々の出来事について考察する訓練を行い、それによって経済諸現象を客観的、論理的に理解する能力を身に付けることを目標とする。前期の講義「経済学概論」が履修済みであることが望ましいが、当該講義が未修でありかつ高等学校で政治・経済を履修したことのない者が受講した場合でも、一応の配慮は行う。

【授業計画】

1. 世界の経済システム
 - (1) 市場による調整・市場外の調整
 - (2) 経済システムの多様性
 - (3) 技能形成・生産組織・雇用制度
 - (4) 労使関係と賃金交渉
 - (5) 資金調達と企業統治
2. 福祉システムと経済システム
3. 各国経済システムの諸特徴
 - (1) アメリカ型経済社会
 - (2) 日本型経済社会
 - (3) ヨーロッパ型経済社会
 - (4) 発展途上国の経済社会
 - (5) 中国の社会主義的市場経済
4. 経済のグローバル化と世界経済の未来

【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

【テキスト】

資本主義のしくみ（八木紀一郎・宇仁宏幸著 ナツメ社）

専門演習Ⅲ

遠藤雄久

【授業の概要】

三年後期に各自が決定した卒業研究のテーマに沿って資料、文献などの購読、整理について個別に助言、指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究の完成をめざす。

【授業計画】

毎回、全員が論文作成の現段階について発表し、互いの批判、評価を通じて論文執筆の準備を固めるよう指導する。

【評価方法】

論文準備の報告などから、研究に取り組む姿勢を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

各自のテーマに適合した文献、資料を適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究のための面接質問項目の確定と、研究参加者を確保すること。

【授業計画】

3年次までに確定した各自のテーマに従って、面接や調査の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について指導・助言する。

毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導を行うが、とくに面接・調査の質問の構造の完成までの段階に全力を注ぐ。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究における実験や調査計画の立案、および実験や調査の実施、さらにはデータ分析を目指す。

【授業計画】

専門演習Ⅱに引き続き、下記のような流れで各自、積極的に卒業研究を進めていく。各回、交代で自分の研究の進行状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 研究計画の立案
2. 実験や調査などを通してデータの収集
3. データ分析

【評価方法】

出席状況、研究への取り組み状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

専門演習Ⅲ

沖田庸高

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を購読し、実験・調査を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

テーマに沿った先行研究の知識を広めるとともに、卒業研究の実験を実施し分析する。

【授業計画】

研究テーマにより分けたグループ単位で研究指導を行う。

1. 卒業研究の実験計画の検討と確立
2. 卒業研究の実験の実施
3. 卒業研究の実験データの分析

【評価方法】

卒業研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅲ

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を購読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究へ向けてのデータの収集と整理。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 研究計画の立案
3. 実証的データの収集

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

後藤秀爾

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って、問題意識の整理、必要な文献の購読、研究方法の選定、考察の方向性などについて、指導・助言を行なう。

【授業の目標】

卒業論文の作成に向けて、最低限、論文内容の概略の完成していることが望ましい。

【授業計画】

必要に応じて報告会などを行なうほか、卒業論文の作成に向けて個別に指導を行なう。

学期末にはゼミ生全員で、卒業研究に向けての中間報告会を行なう。そのため、1泊2日程度の合宿を予定している。

【評価方法】

報告会でのレポートの完成度とプレゼンテーションの仕方などを考慮して、研究に取り組む姿勢を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

研究に必要なものを個別に指導する。

専門演習Ⅲ

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を購読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究について全体を見渡し、論理的展開ができる。
- 2) 各自の研究の実験を実施する。
- 3) 各自の研究目的に沿ったデータ処理ができる。

【授業計画】

1. 卒業論文の方法部分の検討・推敲
2. 卒業論文の実験計画の明確化および序論と方法部分の執筆
3. 卒業論文の実験の実施

【評価方法】

出席状況、発表態度、発表内容の進展、卒業論文作成における計画性等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習Ⅲ

清水 遵

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

研究テーマに即した実験機器への習熟や実験環境の整備など、卒業研究のスムーズな遂行を可能にする。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

専門演習Ⅲ

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

3年次に行った予備研究の成果に基づいて、卒業論文のアウトラインを作成し、実施可能な研究計画を立案する。

【授業計画】

3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱを通して検討してきた各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

4年前期に行われる専門演習Ⅲでは、すでに行った予備的な研究の成果をもとに、質問紙調査や面接調査など各自のテーマに適切な研究方法を用いて、データ収集の実施が可能となるまで、各自の研究計画をブラッシュアップする。

授業では、毎回個人発表を行い、各自の進捗状況を報告し、参加者全員での討論を通して、研究計画を完成させていく。

研究計画の完成した者から順次、データ収集の実施を許可する。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された研究計画により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅲ

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

- ①卒業論文執筆に必要な知識・研究法の習得。②投影法技法の習得。

【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各自が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
 - a. 問題意識と研究目的の検討
 - b. 研究方法の検討
2. 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野に必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）で、まず各自が実際にテストを受けて検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめ自己理解を深めることになる。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅲ

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

研究テーマの確定と研究方法の具体化を行い、データを収集する。

【授業計画】

1. 研究テーマの確定と研究方法の具体化
専門演習Ⅰ・Ⅱで検討してきたことを基に、各自の研究テーマを確定させる。また、そのテーマに従い、実験や調査などの研究方法を具体化させる。原則として、毎回交代で個人発表を行い、全員で討論することを通して、その作業をより確実に、より内容あるものとするようにする。
2. 研究の実施（データの収集）
夏休みまでに、実際にデータを収集し、分析するという作業を進める。夏休み中のゼミ合宿で進行状況をまとめて報告する。
3. 学外授業
夏休み中にゼミ合宿として学外授業を行う。

【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習Ⅲ

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

主体的に卒業論文に取り組むことを目標とする。

【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

【評価方法】

各自の参加意欲・態度を中心の評価する。受け身の参加では評価されない。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示。

専門演習Ⅲ

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究の方法を確定し、必要なデータを収集する。

【授業計画】

1. 各自の研究テーマに関わらず、最新の心理学論文（和文・英文）を紹介し、全員でそのテーマについて論議する。
2. 専門演習Ⅱで実施した予備研究の結果に基づいて、各自の研究テーマおよび具体的な研究方法を修正し、最終的な方法を決定する。これに基づいてデータを収集し、その結果を報告する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅲ

吉崎一人

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

- (1) 自らの研究テーマをみつけ、研究計画を立てる
- (2) 計画に基づいて実施する

【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅲ

米倉五郎

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業の目標】

卒業研究と論文のテーマについてゼミナールでの討論と個人指導で明確化する。夏期合宿では、卒業論文の中間発表会をする。

【授業計画】

4年次の前期では学年各自が卒業論文のテーマを特定することになる。卒業研究の対象と方法では、臨床面接法による事例研究を中心としながらも、自己分析法、調査法、文献、資料、およびそれらを組み合わせたものなど、さまざまなアプローチを選択できる。臨床事例研究（精神障害、不登校、虐待、非行、児童期・思春期・青年期）および研究方法（臨床面接法、調査法、文献など）において共通する3・4名のサブグループを作り、グループ別での検討と発表も活用しながら、各自の研究テーマを決定していく。

【評価方法】

発表の内容や討論への参加態度、および学外での心理臨床のボランティア活動の内容より評価する。

【テキスト】

その都度指定する。

【参考文献・資料】

必要な文献と資料を配布する。

専門演習Ⅳ

植村勝彦

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。とくに、面接、調査などで得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

面接調査の実施・データ化・分析を通して、卒業論文を完成させること。

【授業計画】

夏休み中に提出を求めた卒業論文の「問題」および「方法」の下書きに対して、個別に指導することを皮切りに、適宜個別および全体指導を行い、11月中旬の中間発表、12月初旬の論文全部の下書き提出に基づく個別添削指導と順序を踏んで卒業論文の完成・提出に導く。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには各段階での下書き内容などの取組への姿勢等を加味して、総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

遠藤雄久

【授業の概要】

卒業論文の完成へ向けて論文の文章、構成、結論（まとめ）などについて細かく指導する。

【授業の目標】

卒業論文の完成。

【授業計画】

論文作成の状況を発表させ、ゼミ生相互の批判や評価に加えて教員の助言を適宜行う。

【評価方法】

研究に対する真摯な取り組みをみて評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜、個別に紹介する。

専門演習Ⅳ

小川一美

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成し、卒業研究を効果的にプレゼンテーションできるようにする。

【授業計画】

下記のような流れで卒業研究を完成させる。

1. データ分析
2. 卒業論文の完成
3. 卒業研究に関するプレゼンテーション

【評価方法】

卒業研究への取り組み状況、完成度などから総合的に判断する。

【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

専門演習Ⅳ

沖田庸嵩

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成させる。

【授業計画】

1. 実験データの分析
2. 実験目的・方法・結果について発表・討論
3. 卒業論文の下書き・改訂
4. 卒業論文の完成

【評価方法】

課題への取り組みにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅳ

後藤秀爾

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言・指導を行なう。体験記録を含め、調査・面接・心理検査的手法などによって得られた情報を、卒業論文のためのデータとしてどのように生かすかを中心に、個別的な指導を行なう。

【授業の目標】

卒業論文の完成は、自己と向かい合い自己を確認するための作業となる。新しい自分に出会えたという内的体験の構築を目指す。

【授業計画】

必要に応じて適宜報告会を行なうほか、テーマの絞込み、問題意識の整理、研究方法の選択、結果の整理と考察の方向性などについて、個別に指導・助言を行なう。

完成した卒業研究は、何らかの形で発表会において報告する。

【評価方法】

指導過程を考慮して、完成論文の内容により評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて個別に指示する。

専門演習Ⅳ

斎藤和志

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究のまとめとしての卒業論文の作成。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 研究計画の立案
2. 実証的データの収集
3. 研究論文の作成

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習Ⅳ

坂田陽子

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究結果に基づいた考察ができる。
- 2) 各自の研究論文全体を通して論理的展開が明確にできる。

【授業計画】

1. 卒業論文のための実験実施
2. データ分析
3. 卒業論文の結果及び考察部分の作成
4. 卒業論文の完成

【評価方法】

出席状況、卒業論文作成における計画性、考察力、完成度等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習Ⅳ

清水 遵

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

2年間の専門演習で得られた成果を卒業論文として結実する。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

専門演習Ⅳ

新美明夫

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成する。

【授業計画】

4年前期の専門演習Ⅲに引き続き、各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

各個人の進捗状況にしたがって、データの収集・コーディング・入力・分析作業を順次行う。

授業では、データの分析方法の解説を行う一方で、各自の進捗状況を毎回報告しあい、励まし合うとともに自己の進捗を客観的に確認する。

11月より、順次中間発表を行い、参加者全員での討論を行う。中間発表を終了した者から、卒業論文の下書き提出を許可し、添削指導を行う。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された卒業論文により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅳ

二宮 昭

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

研究を卒業論文として完成させる。

【授業計画】

1. 研究結果の分析・検討

講義や討論を通して、各自が行った研究結果をどのようにまとめたらいいかについて検討する。

2. 卒業論文の作成

各自の研究を卒業論文としてまとめるための個別指導を行う。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行う予定である。

【評価方法】

研究論文作成に対する意欲や態度、および作成された論文の内容によって評価する。

専門演習Ⅳ

西出隆紀

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

①卒業論文の作成。②投影法を解釈できるようにする。

【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

- 結果と考察の検討
- 論文提出前の全体的検討
- 卒業論文の発表

2. 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）である。最終的には各自がテストィーに対し、投影法を実施し解釈する。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅳ

古井 景

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

先行研究を参考にしながらも、自らの思考によって『物事を考察する』力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

4年間大学で学んだ知識の総まとめとして、社会で通用するものに仕上げることが目標とする。

【評価方法】

多くの学生にとって最終学歴となる『愛知淑徳大学卒業』および『学士』の資格を得るに相応しい人間性を備えているかどうかを評価する。

社会にでて、『愛知淑徳大学』の名を高める人材でなければならない。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示。

専門演習Ⅳ

松尾貴司

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究を論文にする。

【授業計画】

1. 専門演習Ⅲに引き続き、各自が研究を進め、その結果について報告する。
2. 研究結果の分析方法、および論文の作成方法について講義をおこなう。その後、各自の研究テーマを論文形式にまとめる。個人の論文については個別に指導する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅳ

吉崎一人

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

- (1) 計画に基づいて実施する
- (2) 結果を分析し、議論する

【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅳ

米倉五郎

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業の目標】

卒業研究である事例研究法、自己分析研究法などについて、卒業論文の完成を目指して個人指導をしていく。

【授業計画】

専門演習Ⅲで特定した卒業論文のテーマと研究方法に基づいて収集されていく情報について、学生各自がレポーター形式で発表し、参加者全員で討論し検討する。また適宜個別指導を行い、情報についての分析と考察を深めていく。

【評価方法】

卒業論文作成に取りくむ意欲や姿勢、作成された論文の内容、および心理臨床のボランティア活動の内容により評価する。

【テキスト】

未定。必要に応じてその都度指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

英文ビジネスジャーナル講読

大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスウィークやインターネット上のBBC、ABCの経済ニュース記事等を英文教材として用い、世界でどのような経済問題が起きているのか、海外から見た日本経済の評価などについて英語での理解を深める。

【授業の目標】

英語の記事を辞書を用いて、読解し、内容を理解し、自分の意見を述べることができること。

【授業計画】

第1～第12講 主にマーケティング、経営戦略に関係する記事を取上げる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。各回ごとに使用するプリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時指示する。

システムデザインII

林 誠

【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しさから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、いままで企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本講義では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計（概要設計を含む）や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにシステムを構築・管理をすればよいかの基本を理解することを目標にしている。

【授業の目標】

業務分析、アプリケーションの設計を通じて、企業の基幹業務システムの構造を理解し、IT化によって業務プロセスを改善する能力を育成する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 企業と基幹情報システム
- 第3回 情報システム設計・開発のプロセス
- 第4回 アプリケーションシステム設計・開発の基礎（1）
- 第5回 アプリケーションシステム設計・開発の基礎（2）
- 第6回 情報システムの構造変化
- 第7回 情報システムとビジネスモデル
- 第8回 販売管理システムの概要
- 第9回 販売管理システムの設計
- 第10回 会計の基礎知識
- 第11回 会計システムの概要設計
- 第12回 会計システムの詳細設計
- 第13回 Excelによる開発演習（1）
- 第14回 Excelによる開発演習（2）
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは適時指示する。

【参考文献・資料】

会計情報入門：Excelによる会計処理と分析（橋本義一・他著 創成社発行）
会計情報システムの機能と構造（田宮治雄著 中央経済社発行）

システムデザインI

林 誠

【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業の目標】

企業情報システムの中でデータベースの位置づけを理解し、データ中心の設計手法を習得する。エンタープライズアーキテクチャの方法論についても活用できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業情報システムとデータベース
- 第3回 データベースシステムの基本概念
- 第4回 データベースの種類と特徴
- 第5回 業務プロセスとデータベースの位置付け
- 第6回 エンタープライズアーキテクチャ（EA）の概要（1）
- 第7回 エンタープライズアーキテクチャ（EA）の概要（2）
- 第8回 ビジネスアーキテクチャ
- 第9回 データベースアーキテクチャ
- 第10回 構造化分析とデータ分析
- 第11回 データベース設計（1）
- 第12回 データベース設計（2）
- 第13回 データベース設計（3）
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは適時指示する。

会計学特論II

杉本典之

【授業の概要】

企業活動が多様化しグローバル化する中で、より迅速なディスクロージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

【授業の目標】

現代社会では、営利目的の企業組織において発達してきた企業会計方式の情報システムが、公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス（及び会計監査のプロセス）から成り立っている。会計学特論IIでは、主として会計伝達のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

- 会計学特論Iの続きとして、下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1. 情報システムとしての企業会計
 2. 会計情報を搬送する決算財務諸表
 3. 決算財務諸表をめぐる会計基準
 4. 会計基準の国際的調和化
 5. 各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
－会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近（杉本典之著 同文館）
キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－（杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版）

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

ビジネスプレゼンテーション

三浦信宏

【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

【授業の目標】

見やすいプレゼンテーション資料を作成し、効果的な発表を行うことのできるスキルと知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 プレゼンテーションの概要
- 第3回 パワーポイントによるスライド構成と基本機能 (1)
- 第4回 パワーポイントによるスライド構成と基本機能 (2)
- 第5回 プレゼンテーション・シナリオの作成
- 第6回 プレゼンテーション資料の作成 (1)
- 第7回 プレゼンテーション資料の作成 (2)
- 第8回 プレゼンテーション資料の作成 (3)
- 第9回 プレゼンテーション資料の作成 (4)
- 第10回 プレゼンテーション・スキルの整理
- 第11回 発表と講評 (1)
- 第12回 発表と講評 (2)
- 第13回 発表と講評 (3)
- 第14回 発表と講評 (4)
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、スライド作成の課題、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なものの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることもである。その意味からも、日本人の常識と社交性の特徴を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

【授業の目標】

今日の国際化の中で諸外国の異文化状況を具体的に把握し、異文化適応ができる能力を形成する。

【授業計画】

1. 異文化間コミュニケーションの背景
2. 異文化間コミュニケーションの領域
3. 文化とコミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 言語と文化的認識
6. 言葉の中のジグザクとハイド
7. カルチャー・ショック
8. より効果的なコミュニケーション

【評価方法】

授業中の発言や参加度、積極的な態度、最後に期末試験を行い、総合して評価する。

【テキスト】

異文化間コミュニケーション入門 (鍋倉健悦著 丸善ライブラリー)

比較文化特論

國信潤子

【授業の概要】

本講座は産業社会学と開発社会学の2領域をジェンダーに敏感な視点から考える。まず日本国内のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観し、次に異なる文化背景を持つ社会とビジネス関係や開発協力関係を形成するときに必要となる異文化理解について考える。近年の経済活動は環境に配慮した「持続可能な開発」が基本とされなければならないのでジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について近年の開発協力の状況を事例紹介する。このとき男女の社会関係の平等化は重要な鍵である。

【授業の目標】

本講座は産業社会学と開発社会学の領域の接点にある。
1) 日本のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観する。
2) 異なる文化背景を持つ社会：特に南北社会問題とビジネス関係や開発協力関係の実態を知る。
3) 異文化理解について、ジェンダーの視点から各種統計データから比較検討する方法を理解する。
4) 近年の経済活動や開発協力活動は環境に配慮し「持続可能な開発」が基本となる。ジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について認識する。

【授業計画】

講座の日程
講座第1,2回目：ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴を検討。
講座第3,4回目：近年の国際法における男女平等法を紹介。国連女性の地位委員会、ILO他
講座第5,6回目：開発途上国におけるジェンダー関係関連の統計資料を検討。主に南北社会問題を考察する。
講座第7,8回目：開発途上国における生活、教育、労働などの実態について事例紹介
講座第9,10回目：日本の政府機関、民間組織による開発途上国支援・協力の実態とその問題点を考察する。特にジェンダー関係を考察。
講座第10,11回目：これからの南北社会関係とジェンダー。日本社会のジェンダー関係の改善に向けての課題を考える。
講座第12,13回目：半期のまとめ。期末レポート課題提、レポート提出。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし 資料を随時プリントとして配布する

【参考文献・資料】

新しい産業社会学 (犬塚他 有斐閣アルマ刊)
ジェンダーと開発 (田中ほか 国際協力出版会刊)
人間開発報告書 (UNDP 国際協力出版会刊)

現代マーケティング論

大塚英揮

【授業の概要】

『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激烈な販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が持っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

【授業の目標】

マーケティングミックス (製品、価格、広告戦略) に関する基本的概念および基礎理論を学び、それを実際にツールとして用いて現実のケースを分析できる力を身につけること。

【授業計画】

1. マーケティングとは何か
2. 買い物行動を振り返る (1)
3. 買い物行動を振り返る (2)
4. CMについて考える (1)
5. CMについて考える (2)
6. モノの値段について考える (1)
7. モノの値段について考える (2)
8. 製品について考える (1) - 製品ライフサイクル
9. 製品について考える (2) - ブランドの基礎知識
10. サービスマーケティングの基礎知識
11. グローバルマーケティングの基礎知識
12. 売り場をめぐる闘い (1)
13. 売り場をめぐる闘い (2)
14. マーケティングミックス - 最適な組み合わせを探せ
15. まとめ

【評価方法】

毎回の小テスト (50%) と期末テスト (50%) の合計で評価します。小テスト以外の出席点はありませんが、連続物の講義なので、休まないで出席してください。

【テキスト】

使用しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略 (沼上幹 有斐閣アルマ 1800円)
日経マーケティングジャーナル (旧流通新聞) を時々読んでみることもおすすめします。

消費者行動

大塚英揮

【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブン・V S ローソンのようなコンビニという同じ業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなGMS間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、より実践的に考察する。

【授業の目標】

小売経営に必須となる次のトピックに関する基本的知識を習得する。(1) 出店、店舗運営に必要な基礎知識、(2) 小売業界の基礎知識、(3) 小売とメーカーとの取引関係、外資系小売との競合関係など、小売を取り巻く環境を分析するために必要となる基礎知識。これらの基礎知識を習得し、現実のケースを分析できる力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 小売とは何か
- 第2回 小売の実態について考える (1) 一般小売店と専門店
- 第3回 小売の業態について考える (2) GMSと百貨店
- 第4回 小売の業態について考える (3) コンビニエンス
- 第5回 小売の「輪」は回る一業態変化のプロセス
- 第6回 小売の出店戦略 (1)
- 第7回 小売の出店戦略 (2)
- 第8回 売り場を「創る」(1)
- 第9回 売り場を「創る」(2)
- 第10回 小売のIT戦略
- 第11回 メーカーと小売のパートナーシップ (1)
- 第12回 メーカーと小売のパートナーシップ (2)
- 第13回 小売の日米比較
- 第14回 黒船襲来—流通外資の戦略 (1)
- 第15回 黒船襲来—流通外資の戦略 (2)

【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%) で総合的に評価します。

【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

【参考文献・資料】

ベーシック 流通と商業 (原田英生・向山雅夫・渡辺達朗 有斐閣)

Communication Strategies II

JOLLY, James A.

【Course description】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The objectives of this course are to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Course objectives】

1. To increase students' understanding of various oral and written business communications and to increase their abilities to properly handle such.
2. To equip students with communication skills to deal with international business situations.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies I

JOLLY, James A.

【Course description】

This course is aimed at aiding students to develop their abilities to communicate more effectively in English as used in international business. Lessons will emphasize training and practice in listening and speaking using model conversations with practical application in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies in order to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

【Course objectives】

1. To increase students' communication abilities in international business situations, with particular emphasis on oral communication skills.
2. To provide practical training and development of the students' abilities to express their thought and ideas freely and assertively.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies III

JOLLY, James A.

【Course description】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、議論やディベートへの対応について考察する。

This course will concentrate on studying international sources of business information for use in typical international business operations of most companies. Class assignments and activities will include practice in gathering and summarizing data from such sources. Continued instruction and practice in English communication skills, particularly reading and writing, will be provided as necessary to meet students' needs. Continued vocabulary expansion in business, technical and legal terminology will also be emphasized.

【Course objectives】

1. To enable students to access various sources of information for business problems.
2. To develop information research and reporting skills.

【Course schedule】

Topics to be covered in one or more class sessions include:

- 1) Assessing information needs and setting the scope of investigation;
- 2) Determining the best source of information - libraries, data banks, specialized research organizations, investigative services, internet search engines, etc.; and
- 3) Assembling acquired data for summarization and presentation.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session.

【Assessment】

Each student's grade for the course will be assessed based upon his or her performance in class attendance, home assignments, quizzes, and a course final examination or term project. Active participation in class sessions will be highly valued.

【Textbooks】

The textbook and resource materials will be announced during the first class. Each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies IV

JOLLY, James A.

【Course description】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

The lessons and activities of this course are aimed at retrieving, summarizing and presenting information and data on international business topics. Students will be encouraged to use their communications skills in dealing with problems they may encounter in the international trade and business affairs, using English language as the common mode of communication.

【Course objectives】

1. To train students in collecting, interpreting, arranging and reporting on data and information collected to provide guidance to business management.
2. To develop students skills in preparing and delivering reports and speeches.

【Course schedule】

Training topics to be covered include:

- 1) Information resources - where and how to get information;
- 2) Information summarization - evaluating and arranging information;
- 3) Report presentation - supplying data for management decisions; and
- 4) Persuading and defending - advocating your ideas and views.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session. In addition to the presented in-class instruction and sharing of students' findings, students will be assigned to a team course project which will be practical application of the lessons of the course.

【Assessment】

The students will be graded approximately one-half on their class attendance and participation and one-half on the quality of their work on the team course project. No quiz or test will be given. Active participation in class and the team's work will be highly valued.

【Textbooks】

No textbook will be used in this course, and supplementary materials related to lesson topics may be provided as necessary. However, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

専門演習Ⅲ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅲ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、Ⅱで学習したことを踏まえて、各自のリサーチテーマにそって和英資料講読、資料調査の継続。就職活動を進める。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆の開始とリサーチの継続。

テーマの例として日本の女性基幹労働者、キャリア継続と家族的責任、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。各自の関心のもてるテーマについて資料調査を継続。就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。先輩から就職活動の体験談を聞く。企業コンサルタントなどから若年労働者のキャリア形成の変容について聞く。ゲストスピーカーとして外部講師を招聘する。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【参考文献・資料】

専門演習Ⅰ、Ⅱと同じ。さらに日本労働研究機構の専門誌、論文を講読。

専門演習Ⅲ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心事と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1. 各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2. それぞれのレポートに基づく発表を集団で検討し、指導を行う。
3. 関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4. 各人で上記の作業や文献購読を行う。
5. 中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6. 期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 問題とは何か
- 第3講 問題の分析
- 第4講 解決策の策定
- 第5講 問題解決セッション (1)
- 第6講 問題解決セッション (2)
- 第7講 問題解決セッション (3)
- 第8講 問題解決セッション (4)
- 第9講 問題解決セッション (5)
- 第10講 問題解決セッション (6)
- 第11講 問題解決セッション (7)
- 第12講 まとめと講評 (1)
- 第13講 まとめと講評 (2)

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅲ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅲ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅲ

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日本企業の経営システムや国際経営に関する文献の輪読を行う。
エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する。

【評価方法】

出席回数、演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
特に重視するのは、どのようなディスカッションポイントを提示し、議論をいかにリードしていくかという点である。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅲ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

7つの習慣 (スティーブン・R・コビー著 キング・ベアー出版)
企業分析入門 (第2版) (パレブ他著 東京大学出版会)
企業分析 (増補版) (山口孝他著 白桃書房)
要説 経営分析 (青木茂男著 森山書店)

専門演習Ⅲ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅲ

島田 舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1～6回 日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。
- 第7～12回 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

- 金融システム改革と証券取引制度（証券取引法研究会編 日本証券経済研究所）
- アメリカの資本市場改革（淵田康之・大崎貞和編 日本経済新聞社）
- 図説 アメリカの証券市場（日本証券経済研究所）
- 図説 ヨーロッパの証券市場（日本証券経済研究所）

専門演習Ⅲ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

- 有価証券報告書
監査小六法

専門演習Ⅲ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅲ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅲ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

グループ討議を中心に、発表力と思考能力向上のトレーニングを行う。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習Ⅳ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅳ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習、専門演習Ⅰ～Ⅲで学習、リサーチしたことを踏まえて、論文執筆。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。

テーマ例として、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分、開発途上国への開発協力とジェンダー視点など。

就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

基礎演習、専門演習Ⅰ～Ⅲに同じ。さらに各自の問題意識にそって専門ジャーナル、紀要論文を講読する。

専門演習Ⅳ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 DVDの作成方法説明（1）
- 第3講 DVDの作成方法説明（2）
- 第4講 DVDの作成方法説明（3）
- 第5講 DVD作成（1）
- 第6講 DVD作成（2）
- 第7講 DVD作成（3）
- 第8講 DVD作成（4）
- 第9講 DVD作成（5）
- 第10講 発表（1）
- 第11講 発表（2）
- 第12講 発表（3）
- 第13講 発表（4）

【評価方法】

DVDの内容、発表態度、出席で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅳ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。

1. 前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
2. 演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
3. 最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
4. 共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
5. 何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

専門演習Ⅳ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅳ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅳ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

3年間にわたるゼミ活動の集大成として、戦略論、組織論などに関する興味深い文献をいくつかとりあげ輪読する。なお輪読を進めていくにあたっては、文献に書かれた理論的知識をまとめ、それを現実の例にあてはめる訓練に力を入れていく予定である。経営学とは何か、に関する大まかなイメージを各人が頭の中にきちっと作り上げ、社会に出たときに「経営学を学んだ」経験がどう役に立つのかを理解する、ことを最終目標としたい。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。

卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

【テキスト】

使用しない。随時コピーの上配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅳ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅳ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（バレブ他著 東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

専門演習Ⅳ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅳ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1～6回 資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。

第7～12回 企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究センターで行う。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

証券投資論（日本アナリスト協会編 日本経済新聞社）

ベンチャー企業株式公開への道（エンゼル証券株式会社、監査法人アイ・ピー・オー編著 清文社）

ベンチャー企業の経営と支援（早稲田大学アントレプレヌール研究会編 日本経済新聞社）

専門演習Ⅳ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書事例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習Ⅳ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅳ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅳ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

【評価方法】

出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習Ⅳ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

種々のケースを用いて、企業の情報化推進の現状と課題を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない

卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

- 1) 卒論テーマの画定と研究方法の決定。当該領域の先行研究を講読する。
- 2) 論文執筆方法の指導と論文構成作成
- 3) テーマの例
雇用機会均等法と実施状況
女性管理職のキャリアコース
男女の家族的責任
国際開発協力におけるジェンダー視点 など

【評価方法】

完成論文による評価

【参考文献・資料】

各自の研究テーマにそって選択する。学術論文、専門ジャーナル論文などの検索方法を指導する。

卒業論文・制作

森下允之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

卒業論文・制作

霜田一敏

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

- 専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。
1. 各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
 2. 論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
 3. 各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
 4. 各章ごとの内容について集約する。
 5. 序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
 6. 中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
 7. 全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
 8. 一冊の論文として完成させる。

【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学修し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

卒業論文・制作

浅井敬一郎

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の(1)～(4)の提出期限前に最低各2回、計8回以上の中間報告を行う。必要に応じて個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 10月下旬までに第1稿の提出(できる限り9月末までに完成させること)
- (4) 最終稿提出(12月中～下旬)

【評価方法】

卒業論文の内容および、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文執筆を進める。論文骨子、論文概要、初稿作成の過程において個別指導・ゼミ報告を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

卒業論文・制作

島田舒一

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

- 第1～3回 関心のある分野、課題の中から議論を通じて取り組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。
- 第4～12回 テーマに沿った参考文献・資料の収集、使い方について助言をしながら論文作成に取り組ませる。
- 第13～20回 論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。
- 第21～24回 最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

【評価方法】

課題に対する取り組み、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開および論文内容などを総合的に勘案して評価する。

卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行う
卒論内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

卒業論文・制作

石橋善弘

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

【評価方法】

日常の勉学態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

卒業論文・制作

上原 衛

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

【テキスト】

指定しない。

卒業論文・制作

小池弘道

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個人別の指導を行なう。

【評価方法】

卒業論文により評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

卒業論文・制作

三浦信宏

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

学生個々人のテーマ、進捗状況に応じて対処する。

【評価方法】

卒論の内容によって評価する。

【テキスト】

内容に応じて指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

民法基礎

西山一博

【授業の概要】

私法的一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わり深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実証的な解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要に応じて民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

【授業の目標】

実例を通じて民法を説明するなかで、法律を身近に感じ、法律の考え方を実感できるようにしたい。また、社会において生起する問題についての解決方法のヒントや、トラブルにならないために注意すべきことを学んでほしい。

【授業計画】

- 第1回 民法の原則～私的自治の原則とは。
- 第2回 契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
- 第3回 代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか？
- 第4回 不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか？
- 第5回 債権と物権の違い・物権～担保とは。
- 第6回 債権総論～保証人はどんな責任を負うのか？
- 第7回 債権各論～契約の種類。賃貸借契約を中心に。
- 第8回 契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか？
- 第9回 時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか？
- 第10回 親族法～離婚に伴う金銭問題はどうか考えるのか？
- 第11回 相続法1～相続人と相続分。遺言。
- 第12回 相続法2～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか？
- 第13回 民法の周辺法規～消費者契約法、破産法等。
- 第14回 法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

入門民法（森泉章著・有斐閣ブックス）

税務特講

森 恒夫

【授業の概要】

税務会計といってもその範囲はかならずしも明確ではない。本講義では、範囲を法人税法および所得税法に絞り、その基本的な考え方や重要な概念・項目などについての解説を行う。

【授業の目標】

- (1) 税務会計の基本的考え方及び基本原理の理解
- (2) 税務会計の計算構造につき、通則的な規定と個別規定の体系的関連及び仕組みの理解

【授業計画】

- 第1回 税法の意義
- 第2回 税務会計の概要
- 第3回 租税法律主義
- 第4回 税法の体系と税金の種類
- 第5回 応能負担原則と税の平等問題
- 第6回 法人税の仕組み
- 第7回 確定決算主義の意義
- 第8回 企業利益と課税所得
- 第9回 寄付金と交際費
- 第10回 減価償却
- 第11回 使途秘匿金
- 第12回 同族会社課税
- 第13回 別表について
- 第14回 所得税の仕組み
- 第15回 連結納税制度

【評価方法】

単位認定試験及び出席などを加味する

【テキスト】

未定

商法基礎

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して会社法はどのような考え方に基づいてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

【授業の目標】

2006年5月から施行される予定の新会社法において、従来の商法上の規定から変更された点を重点的に解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 総論・設立（3週）
- 2 法人格否認の法理
- 3 会社法の改正経過（3週）
- 4 会社の設立（2週）
- 5 株式（3週）
- 6 株式の譲渡（2週）
- 7 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行予定）
六法（新会社法が掲載されているもの）を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

会計特講

前川三喜男

【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

【授業の目標】

監査の基本を理解するとともに監査実務についても修得する。

【授業計画】

- 第1回 監査契約
- 第2回 予備調査
- 第3回 監査計画
- 第4回 内部統制
- 第5回 リスク・アプローチ
- 第6回 実証的監査手続
- 第7回 実査
- 第8回 立会
- 第9回 確認
- 第10回 監査調査
- 第11回 監査結果
- 第12回 監査意見の形成

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジュメで対応

マクロ経済学Ⅱ

村上敬進

【授業の概要】

マクロ経済循環およびマクロ経済の諸理論について解説する。具体的には、マクロ経済学の理論体系を、短期の理論、長期の理論、に分けて整理し、経済全体の動向を科学的に分析する。

【授業の目標】

本講義は専門科目である。本講義では、マクロ経済学Ⅰに相当する知識を前提として解説をする。したがって、本講義の受講希望者は、マクロ経済学Ⅰの定期試験に合格するか、以下の概念を自習しておくこと。GDPとは何か、GDPの三面等価、有効需要の原理、GDPの決定（45度線分析）。本講義の目標は、経済を実際に分析できるだけの知識を習得することであり、経済学が試験科目に課せられている各種資格試験に対応できるだけの学力を身につけることである。

【授業計画】

1. GDPの概念
2. 物価指数
3. マクロ経済分析の基本的枠組み—短期と長期—
4. 短期モデル
- 4-1. GDPの決定
- 4-2. 貨幣市場
- 4-3. IS-LM分析と財政金融政策
5. 短期モデルと長期モデルの比較
6. 長期モデル
- 6-1. 物価水準の決定
- 6-2. インフレーションと失業
- 6-3. 経済成長の理論

【評価方法】

定期試験で評価を行う。

【テキスト】

入門マクロ経済学 第4版（中谷巖著 日本評論社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）
基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

コンピュータ科学Ⅱ

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

後期授業のⅡでは主にソフトウェアの仕組みと企業活動におけるコンピュータの活用について体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータとハードウェアの概要
3. オペレーティングシステム
4. ジョブとタスクの管理
5. データの管理とファイルシステム
6. プログラム言語
7. 流れ図とアルゴリズム
8. データ構造
9. 数値表現
10. コンパイラと言語プロセッサ
11. システム開発手法
12. データベースの制御
13. コンピュータと企業活動
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ソフトウェア編（鑰山 徹著 工学図書発行）
社会科学系のためのコンピュータ科学概論（下条哲司・他 著 オーム社発行）

【参考文献・資料】

適宜補足資料を配付

コンピュータ科学Ⅰ

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

前期授業のⅠでは主にハードウェアの仕組みを体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータの種類とハードウェアの概要
3. ソフトウェアの概要
4. 記憶装置の仕組み
5. CPUの仕組み
6. データ表現
7. 論理演算子
8. 論理回路
9. ブール代数と集合演算
10. 機械語命令
11. 実効アドレスの計算
12. データ通信とネットワーク
13. システムの信頼性
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ハードウェア編（鑰山 徹著 工学図書発行）
社会科学系のためのコンピュータ科学概論（下条哲司・他 著 オーム社発行）

【参考文献・資料】

適宜補足資料を配付

エンドユーザーコンピューティングⅠ

奥村文徳

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

大学卒業後におけるコンピュータやネットワークを利用するエンドユーザーとして、必要な知識を習得する。

実際に、社会で起きているニュースなどに対応させて理解できる。

【授業計画】

1. ネットワークの基礎知識
2. LANの基礎知識
3. インターネットの基礎知識
4. 入出力インターフェース
5. 情報戦略（経営管理と情報システム）
6. 経営工学（品質管理、OR、確立と統計）
7. 企業会計（財務、管理会計）
8. 関連法規Ⅰ（知的財産権）
9. 関連法規Ⅱ（労働、取引、安全などに関する法規）
10. 表計算ソフトの利用
11. データベースの基礎知識
12. SQLの利用
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

1. エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）
2. 情報の分析と活用（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

エンドユーザーコンピューティングⅡ

諸上茂光

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

エンドユーザーコンピューティングの推進に必要なシステム開発・運用管理能力や基本知識の習得

【授業計画】

1. 演習Ⅰ (仕事とコンピュータ)
2. 演習Ⅰ (コンピュータシステムの基礎知識)
3. 演習Ⅱ (データの分析と整理の技法)
4. 演習Ⅲ (システムの開発と運用)
5. 演習Ⅳ (テストおよび検収)
6. 演習Ⅴ (EUCにおけるハードウェアの役割)
7. 演習Ⅴ (EUCにおけるソフトウェアの役割)
8. 演習Ⅴ (表計算とデータベース)
9. 演習Ⅴ (ネットワークの役割と利用形態)
10. 演習Ⅵ (システム環境整備と運用管理)
11. 総合演習 (1)
12. 総合演習 (2)
13. 総合演習 (3)
14. 総合演習 (4)

【評価方法】

出席状況およびレポートの総合評価

【テキスト】

第1回目の授業までに指定

【参考文献・資料】

適宜補足資料を配布

ビジネスとジェンダーⅡ

北仲千里

【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はいまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

【授業の目標】

現代でも男女の平均賃金には大きな差があり、性別（ジェンダー）は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。

この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。

講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

【授業計画】

1. ジェンダーという概念～その1 「性差とは何か」
2. ジェンダーという概念～その2 「性別とは何か」
3. 職業と現代人～職業分類の基礎知識
4. サラリーマンにとっての学歴と賃金
5. 性別と学歴と賃金
6. 家事労働と仕事との関係を考える
7. 「差別」と「区別」を考える～その1 頭の体操 編
8. 「差別」と「区別」を考える～その2 法律と裁判からみる
9. 職場でのセクシュアル・ハラスメント～その1 概念
10. 職場でのセクシュアル・ハラスメント～その2
11. フリーター問題とジェンダー

【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学（伊藤公雄・樹村のり）・國信潤子 有斐閣アルマ）
竹中恵美子が語る労働とジェンダー（関西女の労働問題研究会 ドメス出版）

ビジネスとジェンダーⅠ

國信潤子

【授業の概要】

主に、産業社会学の視点からビジネス関係、労働環境におけるジェンダー（社会・文化的性）区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備がどのように変化しているかについて講じる。労働、家族、地域の3領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を紹介する。

【授業の目標】

- 目標
- 1) ジェンダーという概念を正確に理解する：概念形成とその変容を理解する。
 - 2) 国内外のジェンダー関係の統計データを分析し、その格差の実態を知る。
 - 3) ジェンダー格差は現象として男女賃金格差、地位格差、職域区分などから形成され、さらに生活慣習、役割意識なども関連しているためその実態を統計資料などから考察する。
 - 4) 法制など規範の変容として改正雇用機会均等法およびその第三次法の検討過程、男女共同参画社会基本法、さらに配偶者間暴力防止のための施策、育児・介護休業法などを理解する。

【授業計画】

- 講義1,2回目：ジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。
講義3,4回目：国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。
講義5,6回目：日本社会にある性別役割分業の実態を調査結果などから理解し、国際比較データとともに日本と先進諸外国の格差を考察する。
講義7,8回目：雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法の概要紹介
講義9,10回目：セクシュアル・ハラスメント防止施策、育児・介護休業法などについて紹介する。
講義11,12回目：少子・高齢社会が進行する日本社会において、ビジネスにおけるジェンダー関係の変容を紹介する。また男女がともに有償労働・無償労働を均等に分担しつつ社会を支えるためには今後どのようなライフスタイルが可能かを検討する。
講義13回目：半期の講義の流れの「振り返り」と、期末課題の提示。2週間後に期末レポート提出。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配布

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

マーケティングストラテジー

大塚英揮

【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。まず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャンネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的な戦略の理解を深めていく。

【授業の目標】

(1) 戦略的思考法（競争の場である市場の構造を分類し、実現可能な戦略の選択肢を想定、最適な戦略を選択する）を習得する。(2) 戦略的思考法をベースに、価格、製品、広告の各戦略手段をどう実行していけば良いのか、現実のケースを素材に意志決定できる力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 戦略的思考法 (1)
3. 戦略的思考法 (2)
4. 戦略的思考法 (3)
5. 市場構造とマーケティング戦略
6. 戦略的ブランドマネジメント (1)
7. 戦略的ブランドマネジメント (2)
8. 戦略的ブランドマネジメント (3)
9. 知識創造と製品開発 (1)
10. 知識創造と製品開発 (2)
11. 戦略的価格マネジメント
12. 消費者心理と広告戦略 (1)
13. 消費者心理と広告戦略 (2)
14. 関係性マーケティング
15. ケース分析

【評価方法】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) で評価します。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

※履修条件：マーケティングベーシックを履修済みとのこと

管理会計Ⅰ

吉村文雄

【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠である。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習する。

【授業の目標】

管理会計Ⅱの学習に役立つように基礎知識の習得に努める。

【授業計画】

- 第1回 管理会計の体系
- 第2回 利益管理のプロセスと利益目標の設定
- 第3回 損益分岐点分析
- 第4回 プロダクトミックス
- 第5回 原価管理
- 第6回 責任会計
- 第7回 原価センターと投資センター
- 第8回 企業予算の意義
- 第9回 企業予算の編成
- 第10回 標準原価管理
- 第11回 原価標準の設定
- 第12回 原価差異分析
- 第13回 原価企画
- 第14回 意志決定会計Ⅰ
- 第15回 意志決定会計Ⅱ

【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込みは禁止。

【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に随時指示する。講義内容に関する質問は、講義終了後の休憩時間内に受け付ける。

経営分析Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業の安全性・成長性・収益性などを把握するための方法を習得する。

【授業の目標】

実践的かつ高度な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的かつ詳細に分析できるようになること。

【授業計画】

1. 企業価値を創造する会計戦略
2. ROEの使用方法—武田薬品工業のケース—
3. ROAの使用方法—ウォルマート・ストアーズのケース—
4. ROICの使用方法—日産自動車のケース—
5. 売上高営業利益率の使用方法—ソニーのケース—
6. EBITDAの使用方法—NTTドコモのケース—
7. フリーキャッシュフローの使用方法—アマゾン・ドットコム—
8. 株主資本比率の使用方法—東京急行電鉄のケース—
9. 売上高成長率の使用方法—GEのケース—
10. EPS成長率の使用方法—花王のケース—
11. EVA™の使用方法—松下電器産業のケース—
12. 会計指標の選択とポートフォリオ

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

企業価値を創造する会計指標入門（大津広一著 ダイアモンド社）

【参考文献・資料】

- 財務諸表分析（桜井久勝著 中央経済社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）
ビジネス・アカウンティング—MBAの会計管理—（山根節著 中央経済社）

管理会計Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】

企業・組織の計画と管理に役立つ会計情報の特性を理解するとともに、会計データを事業計画の策定や業績評価に活用するための合理的な方法がどのようなものであるのかを、また会計情報システムをどのように設計すべきかを検討する。

【授業の目標】

前半で管理会計の発達史と体系を、後半で実践的な個別管理会計技法を説明するので、個別具体的な管理会計技法の特徴を把握すること。

【授業計画】

前半で管理会計の発達史と体系を説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討する。

概ね、以下の順に講義する。

1. 職能部門制組織の成立と管理会計
2. 階層組織の発達と管理会計
3. コントローラーシップの発達
4. 計画会計と統制会計
5. 戦略予算とバランス・スコアカード
6. 情報処理と財務諸表分析
7. 管理会計論の諸問題

【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込み禁止。

【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。授業中に常時質問を受け付ける。

会計実務Ⅰ

三浦克人

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

【授業の目標】

この授業の目標は、会計実務（＝経理の仕事）について、その種類や年間業務のサイクルを理解することにある。受講を通じて経理の仕事に対する興味が高まるよう、いろいろ工夫しながら授業を進めていきたい。

【授業計画】

以下のトピックスを扱う。受講者の知識や関心に応じて、会計実務にかかわるその他のトピックスも適宜紹介したい。

1. 会計学と会計実務
2. 企業経営における経理の役割
3. 会計にかかわる法規
4. 帳簿組織と記帳の実務
5. 月次決算と年次決算
6. その他

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

最初の講義で指示する。

会計実務II

三浦克人

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

【授業の目標】

この授業の目標は、企業内部にあるさまざまな会計実務の概要を理解することにある。会計実務には地味なイメージが付きまとうことが多いが、受講を通じて、会計実務のダイナミックな側面も知っていただきたい。

【授業計画】

以下のトピックスを扱う。受講者の知識や関心に応じて、会計実務にかかわるその他のトピックスも適宜紹介したい。

1. 経営組織と財務管理組織
2. 経理担当者にもとめられる資質
3. 財務会計の実務
4. 管理会計の実務
5. CFOの役割

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

最初の講義で指示する。

この授業の受講にあたっては、会計実務Iを履修済みであることが望ましい。

ビジネスとファイナンス

島田舒一

【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

【授業の目標】

伝統的な資金の調達運用から、最近重要性を増している証券化、M&A、リスク管理など広範囲にわたる財務の動向を理解される。

【授業計画】

1. 企業経営とファイナンスの役割
2. 金融資本市場の変化と企業財務
3. 資金の調達1 金融市場からの調達
4. 資金の調達2 資本市場からの調達
5. 事業への投資とその評価
6. バランスシート管理の重要性とその手法
7. 資金の運用と管理
8. 国際的な取引と資金の管理
9. 企業の直面するリスクとその管理
10. プロジェクトファイナンス
11. 証券化の活用
12. 企業ファイナンスとビジネスの展望

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座1 中央経済社）
企業ファイナンス入門（津森信也著 日経文庫）
証券化の知識（大橋和彦著 日経文庫）

ミクロ経済学

村上敬進

【授業の概要】

この講義では、消費者や企業がどのように意思決定し経済活動をしているか、市場の役割等を分かりやすくかつ丁寧に解説していく。

身近な応用例を取り上げながら、経済学の考え方を理解できるように講義をしていく。

【授業の目標】

ミクロ経済学の基礎を理解し、ミクロ経済学的手法を用いて経済分析をするための考え方を勉強することが本講義の目標である。

【授業計画】

1. イントロダクション：経済学をなぜ勉強するか
2. 需要の理論
3. 供給の理論
4. 需要曲線と弾力性
5. 市場の理論
6. 需要と供給で解く経済問題
7. 余剰分析で解く経済問題
8. 市場の失敗

【評価方法】

成績評価は定期試験のみで行う。

【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）

ファイナンス概論

伊藤義明

【授業の概要】

キャッシュ・フロー会計を基本とした現代ファイナンス理論の3つのアプローチ、投資の分野（正味現在価値とポートフォリオ理論）、コーポレートファイナンス分野（企業価値と資本コスト、MM理論）及び資本市場分野（株式、債券、デリバティブなど）の基本的概念を学習する。

【授業の目標】

上記の3分野の概念を基礎的な計算事例を通じて学習する。簡単なExcelの関数計算機能と四則演算程度の初歩的な計算。

【授業計画】

1. 金融市場、資本市場と企業財務（証券化など）
2. キャッシュ・フロー会計とキャッシュ・フローの計算
3. 現在価値と将来価値、IRR（内部収益率）とNPV（正味現在価値）
4. 債券の基礎理論（金利の期間構造）
5. 債券の基礎理論（価格の計算とリスク）
6. 企業価値と資本コスト
7. 加重平均資本コスト（WACC）とM&A
8. 財務レバレッジと資本構成（MM理論）
9. ポートフォリオと分散投資（効率的フロンティア理論）
10. ポートフォリオと分散投資（CAPM理論）
11. 株価の評価（投資尺度）
12. 株価の評価理論（配当割引モデル）
13. デリバティブの基礎理論（リスク・ヘッジとスベキレーション）
14. デリバティブの種類（先物、先渡し、スワップ、オプションとリアル・オプション）

（講義によってはEXCELの関数計算機能を使用する。）

【評価方法】

学期末試験の結果で評価（出席率は評価対象とはしない）

【テキスト】

入門 企業財務～理論と実践 第2版（津森信也著 東洋経済新報社）

【参考文献・資料】

ファイナンス入門（新井啓著 慶応義塾大学出版会）
ビジネスマンのためのファイナンス入門（山澤光太郎著 東洋経済新報社）

数理ファイナンス

上原 衛

【授業の概要】

この講義ではファイナンス理論の基礎を数理的なアプローチで解説する。実社会での事例や簡単な応用を交え、なるべく平易でわかりやすい解説を試みる。具体的には、金利と現在価値の概念、ポートフォリオ選択問題、オプション、スワップ、先物の各取引を含む金融派生商品（デリバティブ）についての基本的な概念、リスクのコントロールの基礎的な概念について最新の動向を交えながら紹介し解説する。

【授業の目標】

数理的にアプローチするファイナンス理論の基礎を理解すること。また、数理ファイナンスの活用について実社会での事例を理解すること。

【授業計画】

1. 金利の概念
2. 現在価値の概念
3. ポートフォリオ選択問題
4. オプション、スワップ、先物の各取引を含むデリバティブ
5. ブラック＝ショールズ・モデル
6. リスクのコントロール

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

金融工学を勉強しよう（足立光生著 日本評論社）

金融工学

上原 衛

【授業の概要】

この講義を受講するにあたり、数理ファイナンスを履修済みか同等の能力があることが望ましい。金融ハイテク商品の開発や市場価格の決定方法、企業の信用力の変動に伴う金融取引のリスクを減らし効率的に利益を得る方法を、高度な数理的・工学的アプローチを駆使して取り扱う「金融工学」について、実社会での事例を用いて平易でわかりやすい解説を試みる。まず、金融のリスクについて考え、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を解説し、金融工学の応用を最新の動向と具体的な事例を交えて解説する。オプション価格決定のためのブラック＝ショールズ・モデルの解説に当っては、身近な表計算ソフトを利用して例題や演習を解くことにより、その概念を確実に理解することを目指す。

【授業の目標】

金融のリスクについて理解し、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を理解すること。そして、金融工学を応用した最新の動向と具体的な事例を理解すること。

【授業計画】

1. 金融のリスクを考える
2. ポートフォリオ理論の本質
3. 金融派生商品（デリバティブ）とは
4. オプションの価格決定理論
5. 金融工学の応用

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

金融工学 マネーゲームの魔術（吉本佳生著 講談社+α新書）

【参考文献・資料】

Excelで学ぶ金融市場予測の科学（保江邦夫著 講談社）

現代ビジネス事情Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的な事例を挙げて考察する。

【授業の目標】

グローバル化の進展によって、日本・アメリカ・ヨーロッパの三極を軸に、国境を超えた競争が激しくなっている。アメリカ・ヨーロッパ諸国との関連トピックスを中心に、産業毎の特徴について理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 銀行・証券・保険業（アメリカ・ヨーロッパ）
3. 鉄道業（ヨーロッパ）
4. 高級ブランド（ヨーロッパ）
5. 航空業（アメリカ・ヨーロッパ）
6. 旅客機メーカー（アメリカ・ヨーロッパ）
7. コンピューター産業（アメリカ）
8. 鉄鋼業（ヨーロッパ）
9. 自動車産業（アメリカ・ヨーロッパ）
10. 流通業（アメリカ・ヨーロッパ）
11. 通信業（アメリカ・ヨーロッパ）
12. 石油産業（アメリカ）
13. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業において適宜提示する。

ファイナンシャルプランニングⅠ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅰでは、学習する6分野のうち、金融資産の運用、保険とリスク管理、ライフプランニングと年金などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業の目標】

年金、社会保険、生命・損害保険、税金、不動産、相続など社会生活に必要な知識を理解させるとともに、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ライフプランニングの重要性
2. 社会保険
3. 公的年金
4. ライフプランの策定と計画
5. リスクマネジメントと保険
6. 生命保険
7. 損害保険
8. 第3分野の保険
9. 金融マーケットと金融商品
10. 債券投資
11. 株式投資
12. 資産運用の考え方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）

【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）

ファイナンシャルプランニングⅡ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅱでは、Ⅰで学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業の目標】

年金、社会保険、生命・損害保険、税金、不動産、相続など社会生活に必要な知識を理解させるとともに、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 所得税の仕組み
2. 各種所得
3. 所得控除、税額控除と所得税の申告
4. 保険、年金、金融商品と税金
5. 不動産の見方と不動産取引
6. 不動産と法律
7. 不動産と税金
8. 不動産の有効活用
9. 相続と法律
10. 相続
11. 贈与
12. 相続財産の評価

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）

【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）
パーフェクトFP技能士3級対策問題集・技能編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能検定研究会編著 きんざい）

情報倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化社会の特徴、ITが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

【授業の目標】

情報倫理の基礎概念と、現在課題とされているテーマについて幅広く理解する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 情報倫理ベーシック（1）
- 第3講 情報倫理ベーシック（2）
- 第4講 情報技術の社会的インパクト
- 第5講 情報社会における個人・企業・社会の倫理
- 第6講 情報倫理のフレームワーク
- 第7講 技術倫理という視座
- 第8講 企業情報化の進展と倫理
- 第9講 企業倫理と個人情報保護
- 第10講 ITガバナンスと情報倫理
- 第11講 情報倫理の実践—企業と自治体の比較—
- 第12講 技術による情報倫理の実現
- 第13講 情報技術の進展と法の整備
- 第14講 倫理想と情報技術
- 第15講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

情報倫理（村田潔編 経営情報学会情報倫理研究部会著 有斐閣）

プログラミング応用Ⅱ

小林久恵

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Javaを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用なプログラムを作成する能力を育成する。

【授業の目標】

Javaの特性を理解し、コンピュータ実習を通じてJavaのオブジェクト指向プログラミングを習得する。

【授業計画】

1. Javaプログラムの基本構造
2. Javaの基本操作
3. 一次元配列、二次元配列
4. 選択構造（if-else文、switch-case文）
5. 反復構造（for文、while文、do-while文）
6. 例外処理
7. オブジェクト指向
8. クラスとインスタンス
9. コンストラクタ
10. クラス変数とクラスメソッド
11. クラスの継承
12. アクセス制御
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、学期末試験、及びコンピュータ実習課題提出内容によって総合評価する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック（三和義秀著 共立出版）

情報通信ネットワーク論

諸上茂光

【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまでさまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。

当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの2つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標としている。

【授業の目標】

企業ビジネスにとって重要な情報通信の仕組みと活用方法の習得。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 情報通信ネットワークの概要
3. ネットワークの接続形態とコスト
4. 通信回線の種類
5. LANとWAN
6. ネットワーク制御とプロトコル
7. ネットワークシステムの設計
8. ネットワークの運用と管理
9. ネットワークサービスの種類
10. インターネットの歴史と通信の仕組み
11. インターネットの接続環境
12. セキュリティの管理
13. ビジネスと情報通信（電子取引）
14. まとめ

【評価方法】

出席、レポート、テストによる総合評価。

【テキスト】

コンピュータ・ネットワーク概論（水野忠則・他著 ビアソン・エジュケーション発行）

【参考文献・資料】

補足資料を適宜配布する。

コンピュータ・ネットワーク概論（水野忠則・他著 ビアソン・エジュケーション発行）
コンピュータ・ネットワークの運用と管理（水野忠則・他著 ビアソン・エジュケーション発行）
わかりやすい情報通信ネットワーク（都丸敬介著 ソフト・リサーチ・センター発行）

ITと職業倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

【授業の目標】

ITが現代の職業に与えている影響を理解し、学生としてまた、社会人としてITの望ましい活用方法を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 情報化社会の進展
- 第3講 職業とは
- 第4講 情報化と職業
- 第5講 企業活動と情報化
- 第6講 企業の人材育成
- 第7講 職業倫理（プロフェッショナル倫理）（1）
- 第8講 職業倫理（プロフェッショナル倫理）（2）
- 第9講 職場監視
- 第10講 内部告発
- 第11講 事例研究（1）
- 第12講 事例研究（2）
- 第13講 事例研究（3）
- 第14講 まとめ
- 第15講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

流通情報システム論

三浦信宏

【授業の概要】

流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

【授業の目標】

小売業に関する業種、業態の現状と情報化の課題を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業経営における情報システムの役割
- 第3回 流通業における情報システムの変遷
- 第4回 流通情報システムの特徴
- 第5回 流通業務フローと業務処理
- 第6回 流通情報システム事例Ⅰ（企業間取引情報システム）
- 第7回 流通情報システム事例Ⅱ（企業内情報システム）
- 第8回 流通情報システムの適用業務設計（DFDによる実習）
- 第9回 流通情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
- 第10回 流通情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
- 第11回 流通情報システムの運営と管理
- 第12回 流通業の諸形態と小売業の将来像
- 第13回 ロジスティクス改革（QR、ECR、SCM）と新流通情報システム
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

流通情報概論（高崎商科大学ネットビジネス研究所編 成山堂）

システムリスク管理論

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。

本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。

また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

【授業の目標】

リスク管理に関して、まず戦略的統合リスク管理を理解した上で、情報セキュリティ管理、システムリスク管理からビジネスリスク管理にいたるまで理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報化環境の構築と整備
2. 情報化環境の運用と活用
3. 情報化環境の管理
4. 情報通信ネットワークとコミュニケーション
5. 情報システム・経営システムにおけるリスクについて
6. eビジネスの進展に伴うビジネスリスクとシステムリスクの増大
7. リスクの評価とコントロール
8. 情報セキュリティ管理（1）
9. 情報セキュリティ管理（2）
10. 情報化社会における新たなリスクとリスクマネジメント
11. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（1）
12. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（2）
13. 企業経営と全社的リスクマネジメント
14. システムリスク・マネジメントの実践例（1）
15. システムリスク・マネジメントの実践例（2）

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

プロジェクト管理

三浦信宏

【授業の概要】

適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する。

【授業の目標】

情報システム開発に関する開発手順・管理項目について実例を基に理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報システム開発とプロジェクト
- 第3回 情報システムの開発プロセス
- 第4回 プロジェクト実施計画の立案Ⅰ
- 第5回 プロジェクト実施計画の立案Ⅱ
- 第6回 プロジェクト実施計画の立案Ⅲ
- 第7回 情報システムの適用業務分析
- 第8回 情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
- 第9回 情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
- 第10回 プロジェクト実施局面における進捗管理
- 第11回 プロジェクト実施局面における品質管理
- 第12回 プロジェクト実施局面における変更管理
- 第13回 プロジェクトの評価方法
- 第14回 国際標準プロジェクトマネジメント（PMBOK）の動向
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

経営情報システム論

林 誠

【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

【授業の目標】

経営情報システムの進化のプロセスを学習し、ITが企業の意志決定やビジネスモデルに与える影響を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報通信ネットワークの進展と情報システム
- 第3回 コミュニケーション形態の変遷と情報システム
- 第4回 経営情報システムとネットワーク
- 第5回 MISの歴史
- 第6回 意思決定支援システム
- 第7回 SIS（戦略的情報システム）
- 第8回 BPRと情報システム
- 第9回 ロジスティクスシステム
- 第10回 SCMとネットワーク
- 第11回 ナレッジマネジメントシステム
- 第12回 CRMとCS経営
- 第13回 経営情報システムの構築手法
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

経営情報システム（島田達巳、高原康彦著 日科技連）
現代経営情報システム開発論（立川丈夫著 創成社発行）

ビジネスマナーと異文化

ジョリー幸子

【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコルについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につける。

【授業の目標】

海外とのビジネス行動において、日常何気なく行われる簡単な握手や自己紹介、アポイントメントの取り方を始め、数多くの事柄の中で、日本人が慣れていない国際的なマナーやプロトコルについて国ごとにその特徴を考える。

【授業計画】

1. Orientation
2. 序章： 国際儀礼の基本的な考え方
3. 第1部： 日常生活【社交面】のDoとDon't
4. 第2部： ビジネス【オフィス】のDoとDon't
5. まとめ
6. 期末試験

【評価方法】

期末試験、英語を使用するのPresentation 又はレポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

【テキスト】

国際ビジネスのためのプロトコル（寺西千代子 有斐閣 2000）
世界60カ国比較文化事典（T.モリスン、W.A.コナウエイ、G.A.ボーデン、マクミラン ランゲージハウス 1999）

【参考文献・資料】

海外のビジネスマナー（ジェトロ 【日本貿易振興会】編 2003）

コンピュータシミュレーション

上原 衛

【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

【授業の目標】

オペレーションズリサーチ（OR）の代表的な手法である待ち行列、線形計画法に加え、ABC分析、回帰分析、重回帰分析、数量化理論I類、経済性分析について理解を深め、実務に利用できるコンピュータシミュレーションの知識を習得すること。

【授業計画】

- 第1回 コンピュータシミュレーションとは
- 第2回 Excelを利用したシミュレーションの基礎（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
- 第3回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列1）
- 第4回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列2、乱数）
- 第5回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列3）
- 第6回 Excelを利用したシミュレーション（OR：線形計画法）
- 第7回 ABC分析
- 第8回 需要予測 回帰分析
- 第9回 需要予測 重回帰分析1
- 第10回 需要予測 重回帰分析2
- 第11回 需要予測 数量化理論I類
- 第12回 経済性分析1
- 第13回 経済性分析2
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

異文化コミュニケーションII

福本明子

【授業の概要】

本講義では、「文化」を静止的なものではなく構築されたものとして捉え、異文化コミュニケーションIで学習した「文化」の概念を再検討する。力の性質や機能を学び、異文化コミュニケーションの複数のアプローチを学習し、人をカテゴリーに分類して理解することを検証します。英語や方言への言語に関する「力」、アメリカ・日本社会でマジョリティーからマイノリティーへ関する「力」を学び、多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探索する。異文化コミュニケーションIを履修または同程度の知識を有すること。

【授業の目標】

「力」のコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から学習することを目的とする。

【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習します。

1. 「コミュニケーション」、「力」とは
2. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
3. カテゴリーで人を理解することについて、社会的現実の構築
4. 言語と「力」：英語と方言についての考察
5. 社会と「力」：ホワイネス研究、日本人論、アイデンティティー
6. グローバリゼーションと多文化共生とは

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子 監修 三修社）

ビジネスと社会

國信潤子 原山恵子

【授業の概要】

ビジネス・労働環境における人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係など産業社会学的視点および法制度から考察する。近年女性・男性の社会参画が社会のあらゆる側面から進展している。しかし雇用均等法などの法制は日本のビジネス界に十分に浸透しているとは言いがたい。そこで2名の講師によるビジネス活動の多面的な考察をおこなう。

(オムニバス方式)
(國信潤子教授)

社会学的統計データ、産業社会学、男女共同参画などの領域でビジネス、労働環境におけるジェンダー関係を紹介する。

(原山恵子弁護士、兼任講師)

法制面でのビジネス・労働環境の変容、特にビジネス・労働と家庭生活の両立におけるジェンダー関係の考察を行う。日本社会における企業組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説する。

【授業の目標】

産業社会学の領域で特に労働環境の変化、雇用の平等について基礎知識を得ること。また事例的に訴訟などからみる男女地位・賃金格差の修正がどのように進展しているかを事例的に学ぶ。それらの領域の国際比較データからその異同を分析する。

【授業計画】

ジェンダーの概念を紹介し、産業社会学の領域でジェンダーに敏感な視点とは何かを学ぶ。またその社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職域、職階別統計データなどから日本のビジネス・労働環境にみるジェンダー区分を考察する。國信が最初の3～4回、ついで原山弁護士によって5～6回、最後にまとめて國信が2～3回日本のビジネス界におけるジェンダー領域の課題を講じる。

講師2名によるオムニバスである。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし。随時資料を配布。

【参考文献・資料】

ジェンダーと職業 (亀田ほか 東洋経済社)
新しい産業社会学 (犬塚編 有斐閣)
コース別雇用管理と女性労働 (渡辺 峻著 中央経済者)

交渉術 / ディベート

福本明子

【授業の概要】

本講義は、「交渉術」をmediation (ミディエーション: 第三者仲介調停) とDebateを含む広い概念として捉え、交渉術の概要を講義すると同時に、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする。概要にて、文化・感情・面子などの交渉・議論への関与を学習する。その後ディベートを中心に、議論の組み立て方・批判検証のポイント・言語操作の俊敏性などの技能向上を目指す。ディベートの使用言語は様子を見ながら日本語と英語の分量を調整する。

【授業の目標】

ディベートを通してクリティカル・シンキングを学び、身の回りの情報を論理・批判的に分析できる技能を修得すること

【授業計画】

以下の項目を中心にディベートの訓練を行います。

1. 「ディベート」、「交渉」、「説得」とは
2. ディベートのルール、フォーマット
3. 簡易ディベート
4. 「アーギュメンテーション」、「クリティカル・シンキング」とは
5. 調査・リサーチ
6. 論証・検証のポイント
7. ディベートと復習 (3回)

【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、グループ内の相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

ビジネスレター

寺本史子

【授業の概要】

経済のグローバル化の進む中、英文ビジネスレターを書く機会は間違いなく増えている。手紙、ファックス、Eメールと形は異なっても、ビジネスレターにおいて最も大切なものは“50%が文法、のこりの50%は書き手の態度”ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルにみえる英文ビジネスレターの書き方を、豊富な実例に学び、練習することを通じて、マスターする。

【授業の目標】

- (1) ビジネスレターによく使われる表現を学び、応用できるように練習する。毎時1通のビジネスレターを完成する。
- (2) アルク・NetAcademyビジネスレターの全ユニットを学習し、さまざまな状況に対応する力を強化する。

【授業計画】

1. 英文手紙の特徴・よい手紙を書くためのルール
2. ビジネスライティングのポイント
3. 依頼と問い合わせ
4. 依頼や問い合わせに対する返答
5. 発注
6. 請求
7. 支払い
8. 情報の伝達
9. 出荷
10. 苦情
11. 謝罪
12. 感謝
13. ルーティンレター
14. ルーティンレター

【評価方法】

第一に、課題に取り組む態度を重視するが、出来上がった手紙の内容 (正確さと表現の適切さ) そして出席状況等を含め総合的に判断

【テキスト】

最新英文ビジネスレター (ブルース・ハード著 立花久稔訳 松柏社)

英語プレゼンテーション

福本明子

【授業の概要】

本講義は、プレゼンテーション関連の知識の学習・プレゼンテーションの実践・復習を通して英語でのプレゼンテーションを訓練します。学習項目は、スピーチの構成、言語・非言語による信頼性の構築や聴衆分析や意味付与等です。毎月プレゼンテーションを実施し、学習した情報を実践し、個人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探求します。プレゼンテーションは録画し、改善点を各自レポートで分析し、訓練を繰り返します。学期末にはパワーポイントをを用いたプレゼンテーションを行います。

【授業の目標】

英語でのプレゼンテーション技能を、学習・実践・復習のサイクルを通じて向上させることを目指します。

【授業計画】

1. コミュニケーションモデル
2. 自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3. 意味付与
4. 言語メッセージとプレゼンテーション
5. 非言語メッセージとプレゼンテーション
6. スピーチと自分らしさ
7. スピーチと文化
8. パワーポイントとプレゼンテーション

【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

ビジネス外書講読Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の日本および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

【授業の目標】

英字新聞などのやさしいビジネス文が、辞書を片手に読めるようになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

TOEFL (Writing)

JOLLY, James A.

【Course description】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一步一步学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

【Course objectives】

1. To increase students' abilities to formulate proper responses about given topics and to draft that response in a proper constructed writing.
2. To provide practical training in preparing and writing expressions of personal opinion or comment.

【Course schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス外書講読Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

ビジネス外書講読Ⅰでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

【授業の目標】

英字新聞などのビジネス文が、辞書を使って読めるレベルになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。

世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネスストラテジー

河合篤男

【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

【授業の目標】

経営戦略のコンセプトを学ぶとともに、それが組織プロセスから生まれるものであることを理解する。人間の行動や思考の産物であるという特性を理解することで、より実効性の高い戦略論の体得を狙う。

【授業計画】

0. イントロダクション
1. 経営戦略について (その1)
2. 経営戦略について (その2)
3. 企業のドメイン
4. ドメインの変化
5. 企業革新のモデル (その1)
6. 企業革新のモデル (その2)
7. 資源展開 (その1)
8. 資源展開 (その2)
9. 企業とパラダイム
10. パラダイムの逆機能
11. 企業革新の新機軸
12. 企業革新と経営コンサルタント

【評価方法】

試験中心

【テキスト】

組織能力を活かす経営 3M社の自己超越ストーリー (河合篤男・伊藤博之・山路直人・山田幸三 中央経済社)

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本の労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

【授業の目標】

人と組織についての基礎的知識を持つ。そして、労働基準法の概要を知る。更に日本の労働慣行・労働市場の今までと将来について理解する。

【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

マーケティングリサーチ

石原 守

【授業の概要】

企業の対市場創造活動であるマーケティングは、その意思決定過程において消費者や市場についての多種多様なデータ情報を必要としている。その情報を組織的かつ体系的に収集・記録・分析し、戦略策定や課題解決に反映させる活動がマーケティング・リサーチである。本講義では、リサーチの基礎となる考え方と統計的な分析手法の習得に重点を置きながら解説していく。

【授業の目標】

マーケティングによる市場構想の命題は「最適性の追求」である。この本質的課題にマーケティング・リサーチがどのような役割を果たしているのか？

これを理解してもらうことが本講義最大のねらいである。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. マーケティングの基本発想 —市場創造の意味—
3. マーケティング・リサーチとは何か？ —その意義—
4. market research と marketing research
5. マーケティング・リサーチの手法 (1) 定量調査とその特徴
6. マーケティング・リサーチの手法 (2) 定性調査とその特徴
7. マーケティング・リサーチの手法 (3) インターネット・サーベイ
8. モバイル・リサーチの現状と課題
9. マーケティング・リサーチの手順
10. サンプリングの理論 (1) その考え方と方法
11. サンプリングの理論 (2) 標本数の決定
12. 統計的推定 (点推定と区間推定、平均値・比率の推定)
13. 統計的検定 (標本平均値・標本比率の差の検定)
14. 総括
15. 試験

【評価方法】

期末試験の成績、レポート課題の提出、及び出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用せず。毎回の講義時に「講義プリント」を配布する。

【参考文献・資料】

初回の講義時に「文献リスト」を配布する。

ビジネスマネジメント

辻村宏和

【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良いビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友(兄弟)の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとってほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を「組織の病気」として、事例を交えながら理論的に学習する。

【授業の目標】

起業前後で発生するヒューマン・ファクターを起因としたトラブルを数多くの事例によって紹介しつつ、それらの組織論的な説明ロジックを理解すること(詳細は授業にて解説する)。

【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1. 組織の病気(トラブル)の特異性
2. 強い組織と非公式組織
3. 日本の経営の再検討
4. 「任せてくれる」組織の怖さ
5. 「参謀」の効用および危険性
6. 「目標による管理」の思わぬ落とし穴
7. 会議(チーム)の予想外の非効率性
8. 「権力(権限)ー権威」図式の有効性
9. 二代目経営者のリスク
10. ワンマン経営者の功罪
11. その他

【評価方法】

期末試験の結果に講義中に取得したポイント数を加味する。

【テキスト】

組織のトラブル発生図式(辻村宏和著 成文堂)

アントレプレナー特論

真田幸光

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起こす」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量分析的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こうした幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、3~4人前後の外部講師(外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定)を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

【授業の目標】

本授業はビジネスを起こす際に必要な倫理観、目的意識、経営スキル、組織運営等々を習得しながら、ビジネスの原点を探ることを目的としている。従って、必ずしも「起業」の為だけの技術論に固執して授業を展開するのではなく、幅広く「企業経営」全般をも概観しながら、経営者としての有り方を学生諸君に理解してもらうことを最終目標としている。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. ビジネスとは何か
3. 起業の契機
4. コアビジネスの作り方
5. 販売戦略
6. コスト部門の効率化戦略
7. 人材活用
8. 企業組織論
9. ファイナンス
10. 中期計画の立て方
11. 投資家の視点と起業
12. ケース・スタディー 1
13. ケース・スタディー 2
14. 総括
15. 理解力試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

チャネルマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の3つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャネル」の形状、「チャネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b)メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c)メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら3つのトピックスについて具体的なケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

【授業の目標】

チャネルを管理する上で必要となる基礎知識（(1) 流通チャネルの構造がどのように定まるのか、(2) 日本型流通の特徴は何か、(3) 流通をめぐる環境の変化と流通業の対応）を習得する。概念や理論を丸暗記するのではなく、現実のケースにあてはめて分析できる力を習得することが最終目標である。

【授業計画】

1. 流通チャネルとは何か (1)
2. 流通チャネルとは何か (2)
3. 流通の基礎理論 (1) 機能代替可能性、取引数最小化
4. 流通の基礎理論 (2) 取引費用アプローチ
5. 流通の基礎理論 (3) パワー理論、帰属原理
6. 日本型流通システムとは何か
7. 日本型流通 (1) 専売店制
8. 日本型流通 (2) 返品制
9. 日本型流通 (3) 製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質 (1) 流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質 (2) 流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質 (3) 流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質 (4) 流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質 (5) 卸売業の機能強化
15. まとめ

【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%) で総合的に評価します。

【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

【参考文献・資料】

現代流通 (渡辺達朗 有斐閣)
流通原理 (田村正紀 千倉書房)

民法

石畔重次

【授業の概要】

現代社会においては法との関わりなしに生活していくことはできない。なかでも民法は最も身近な法である。売買や賃貸借、雇用などの契約、交通事故などの不法行為、物の所有などの物権、さらには家族関係や相続まで、社会生活は基本的に民法によって規律されている。本講では、事例を交えながら、社会人として必要な民法の基礎知識を習得していく。

【授業の目標】

民法の基礎的な知識を修得し、法的な思考能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 民法の基本原則
- 2 所有権その他の物権。物権変動と対抗要件
- 3 契約の成立と効力。契約の無効と取消
- 4 契約各論…売買、贈与、賃貸借、使用貸借、金銭の消費貸借、雇用、請負、委任
- 5 債務の履行と保証
- 6 担保物権
- 7 不法行為と損害賠償
- 8 夫婦、親子、後見、
- 9 相続と遺言

【評価方法】

レポートの提出により評価する。

【テキスト】

民法への招待 (池田真朗著 税務経理協会)

eビジネス

林誠

【授業の概要】

前半はeビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをeビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やeビジネスの現状と課題について学習する。後半はeビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、eビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にeビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

【授業の目標】

最新のICT技術動向とeビジネスの様々なモデルを学習し、eビジネスの戦略策定やビジネスプランの立案が出来る能力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 eビジネスとは
- 第3回 eビジネスのタイプ
- 第4回 ビジネスモデル特許と課題
- 第5回 eビジネスの現状と課題 (1)
- 第6回 eビジネスの現状と課題 (2)
- 第7回 eビジネスの成功モデル (1)
- 第8回 eビジネスの成功モデル (2)
- 第9回 Webサービス
- 第10回 ブログとSNS
- 第11回 eビジネスのシステム構築概要
- 第12回 eビジネス戦略策定
- 第13回 eビジネスのプランの立て方
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題および試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

eビジネスの理論と応用 (菅坂玉美・他著 東京電機大学出版局発行)

会社法II

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、会社の機関と会社の運営に係る規定を中心に取り上げる。会社の経営がいかなる者に任せられ、その者にどのような義務・責任が課せられるかなど、会社の組織法を中心に講義する。また、企業再編・企業結合等についても可能な限り言及する。

【授業の目標】

会社法IIに引き続き、株式会社の機関、会計・監査、企業再編などにおける新会社法の諸規定を解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 株主総会 (2週)
- 2 株主総会決議の瑕疵
- 3 取締役と取締役会 (2週)
- 4 取締役の義務・責任 (2週)
- 5 株主代表訴訟 (2週)
- 6 代表取締役
- 7 監査役・会計監査人
- 8 企業再編・企業結合
- 9 委員会等設置会社 (2週)
- 10 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法 (大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行予定)。
六法 (新会社法が掲載されているもの) を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

有価証券法

藤田修輔

【授業の概要】

商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

【授業の目標】

企業の決済方法が多様化した現在においても手形及び小切手による支払いは依然として大きな位置を占めている。本講義において抽象的に手形・小切手での決済方法を論じることと定めることなく、具体的な事例に即して受講者の手形・小切手に関する法的理解を深める。

【授業計画】

- 1) 手形・小切手の法的構造と経済的機能
- 2) 手形行為の特色（原因関係と手形関係）（以下、約束手形を中心に）
- 3) 手形行為の成立要件・方式
- 4) 手形の振出
- 5) 手形の裏書（裏書の意義・効力・善意取得・抗弁の制限）
- 6) 特殊な裏書
- 7) 手形の支払
- 8) 手形の不渡りと銀行取引停止処分
- 9) 遡求
- 10) 手形保証
- 11) 為替手形・小切手

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

新手法・小切手法（有斐閣双書）（上柳克郎・北沢正啓・鴻常夫編 有斐閣）

【参考文献・資料】

各授業の際に必要なに応じて指示する。

ビジネスと法

藤田修輔

【授業の概要】

現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法律的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

【授業の目標】

企業がビジネス上直面する法律分野である会社法、民法、商法、手形小切手法、民事執行法、労働基準法、独占禁止法、知的財産法などについての一般的な知識を、現実の取引やトラブル事例（裁判例）の検討を通じて身につける。

【授業計画】

- 1) ビジネスに関する法の概要（さまざまな法律と裁判の制度について）
- 2) 企業の形態（さまざまな企業の形と法律）
- 3) 株式会社
株式会社の設立、内部組織、資金の調達、株式会社の変動（営業の譲渡、合併、会社の清算など）
- 4) 企業の取引
契約の締結と効力、契約の解除、解約に基づく損害賠償請求
- 5) さまざまな契約
売買契約、賃貸借契約、消費貸借契約、その他の契約
- 6) 不法行為の責任
- 7) 債権の保全と回収
緊急時の回収、担保による回収、強制執行による回収
- 8) 企業の法的な整理手続
破産、民事再生、会社更生など
- 9) 労働関係に関する法
- 10) 経済法、独占禁止法
- 11) 知的財産の管理
特許権、実用新案権、商標権、著作権など
- 12) 紛争の解決方法
民事訴訟、調停など

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

書店で購入できるコンパクトな分量のものでよいので六法を準備すること。基本的なテキストは使用しないが、必要に応じて資料を授業の都度に配布することができる。

【参考文献・資料】

講義の対象がきわめて広範なので、各法律分野の講義に入る時に紹介する。

資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

上原 衛

【授業の概要】

現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンのお考え、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業の目標】

資本市場の役割、投資とリスク・リターンのお考え、株式・債券投資について理解し、実務面についての知識も習得すること。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 経済情報の捉え方
- (3) 経済成長と金融資本市場
- (4) 証券投資のリスク・リターンについて
- (5) ポートフォリオ・マネジメント
- (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識 1
- (7) 債券市場の役割と投資の基礎知識 2
- (8) 株式市場の役割と投資の基礎知識 1
- (9) 株式市場の役割と投資の基礎知識 2
- (10) 投資信託の役割とその仕組みについて 1
- (11) 投資信託の役割とその仕組みについて 2
- (12) 資本市場における投資家心理について
- (13) 資産運用とライフ・プランニング

※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

プレゼンテーション

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、資料・データなどによる演出について実践的に学習する。

【授業の目標】

対人関係において、自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝えることを基本レベルとし、さらに、相手から肯定的な意思決定を引き出すコミュニケーション力を言葉だけでなくパーソナリティと状況分析も含めて学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル自己紹介
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紙芦史・生産性出版)

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

SUTHONS, Philip BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. HAYE, Avril JOLLY, James A.

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・ブラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

異文化トレーニング

寺本史子

【授業の概要】

異文化コミュニケーションの分野における基本的な語彙や概念を理解すると共に、異なる文化をどうとらえどのように接するのが望ましいかについて、いくつかの今日的な事例を取り上げて考察する。また、さまざまなトレーニングやコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

【授業の目標】

- (1) これまでの異文化コミュニケーション分野での研究や調査結果から学ぶ。
- (2) さまざまなトレーニングを通して、異文化に対する望ましい態度を養成する。
- (3) グローバル化が進む中、異文化との接触の機会は確実に増加してきている。身近な事例から世界的な状況まで、D.I.E.法などを使い異文化コミュニケーションの視点で分析し理解を深める。

【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーション・スキル
4. コミュニケーションのメカニズム
5. 言葉によるコミュニケーション (1)
6. 言葉によるコミュニケーション (2)
7. 非言語コミュニケーション
8. 見えない文化
9. 価値観と文化的特徴
10. 異なる文化のとらえ方・接し方
11. 異文化理解
12. 異文化との出会い
13. 異文化適応能力
14. 学期末試験

【評価方法】

レスポンスペーパー、学期末試験の成績、授業態度出席状況などから総合的に判断する。

【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)
必要な関連資料については適宜授業中に配布

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)
Culture, Communication, and Conflict (Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

英語コミュニケーション2 (Listening I)

DUNKLEY, Daniel SUTHONS, Philip REINTSMA, Sharell JUNEJA, Indo WRINGER, Paul

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・ブラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

SUTHONS, Philip REINTSMA, Sharell DUNKLEY, Daniel WRINGER, Paul JUNEJA, Indo

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DYOUS, David C. 橋本美津紀 BROWNING, Jeremy S. 岡瀬京美 HARRIS, Richard S. 寺本史子 REINTSMA, Sharell PUDWILL, Larry A. STEPHENSON, Brett GAFFNEY, Sean STEPHENSON, 友貴 小沢 茂 McGOLDRICK, Gemma JUNEJA, Indo LACEY, Charles F. WACHOLTZ, Terry

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

BROWNING, Jeremy S. SUTHONS, Philip HAYE, Avril HARRIS, Richard S. JOLLY, James A.

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

HARRIS, Richard S. CAMERON, Leona R. SUTHONS, Philip SMITH, September STEPHENSON, Brett HAYE, Avril CHAMBERS, Tim GAFFNEY, Sean

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身につける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. SUTHONS, Philip STEPHENSON, Brett CAMERON, Leona R. SMITH, September HAYE, Avril REINTSMA, Sharell GAFFNEY, Sean McGOLDRICK, Gemma

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

言葉とコミュニケーション

野口朋香

【授業の概要】

他者とのコミュニケーションでは多くのメッセージがやりとりされており、それらのメッセージをどう発信し、どう受け止めるかは、それぞれの人の社会的・文化的背景と大きく結びついています。本講義では、コミュニケーションにおける「言葉」に焦点を絞り、私たちがどのように言葉を用いながらコミュニケーションを行っているのかを考察していきます。

【授業の目標】

言葉の持つ役割を知ることで、自分自身のコミュニケーション活動について分析する能力を身につける。

【授業計画】

- ことばとは？言語・社会・文化的側面からの考察
- 子供の言語習得とコミュニケーション
- 対人関係と会話
- 談話分析と会話のスタイル
- 対人関係から見た会話のスタイル
- 言語・非言語コミュニケーション
- サイバーコミュニケーションにおける「ことば」の役割

【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

英語コミュニケーション8 (Reading II)

横関美津紀 山田久美子 今井知子 寺本史子 相川由美 STEPHENSON, Brett SMITH, September 鈴木哲至 間瀬欣英 McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員或使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

コミュニケーション入門

野口朋香

【授業の概要】

本講義では、コミュニケーションの基礎概念を学びながら、コミュニケーションの色々な形態について考察します。私たちの身近に起こっている具体例を挙げながら、コミュニケーション全般に対する理解を深めることを目的とします。

【授業の目標】

コミュニケーションについての基本的な知識を習得し、実際のコミュニケーション活動について客観的に分析できる能力を養う。

【授業計画】

- コミュニケーションとは？
- 家族内におけるコミュニケーション
- 男女間におけるコミュニケーション
- 組織内におけるコミュニケーション
- 異文化間コミュニケーション
- 対人コンフリクト
- コミュニケーション・スキル (アクティブ・リスニング)
- 交渉・説得

【評価方法】

授業参加および試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

応用言語学概論

松本青也

【授業の概要】

応用言語学の主な研究分野について、最新の研究成果を概観する。特に外国語学習に関連のある第二言語習得理論と、母語である日本語の認識を深める日英対照言語学、更に外国語学習の意義を考える社会言語学について詳しく考察する。

【授業の目標】

現実的な問題解決のために、言語学とその周辺科学の研究成果がどのように応用されているのかについて理解を深める。

【授業計画】

1. 応用言語学とは
2. 心理言語学
- 3～5. 第二言語習得理論
- 6～12. 日英対照言語学
- 13～14. 社会言語学
15. まとめ

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作教材

Cyber-English I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

【Course description】

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

【Course objectives】

To learn different techniques for communicating using English on the Internet.

【Course schedule】

1. Introduction to the computers
2. Introduction to the Internet
3. Web pages and search engines
4. Email keypals
5. Blogs and Diaries

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

An English-language textbook may assigned.

English Interaction I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R. CHARLEBOIS, Justin WRINGER, Paul DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D.

【Course description】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in Japan when dealing with native speakers of English.

【Course schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

中国語入門

馮富榮 杜英起 陳惠貞 張玉玲 周素芬

【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と中国語の比較をしながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。

この授業と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文Ⅰ」、「中国語会話Ⅰ」と「中国語読解Ⅰ」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、中国語の発音のみでなく、中国語の基礎知識を身に付けることができるだけでなく、簡単な会話や簡単な文章も書けるようになる。

【授業計画】

本講義では、主として、中国語能力の基礎作り力を入れる。中国語の発音の基礎のみでなく、中国語コミュニケーションに使われている基礎的な語彙、基礎的な文型を講義する。「中国語読解入門Ⅰ」と同じように、自作教材を使用するが、学生たちの置かれている環境や、趣味などを考慮して作られたものである。さらに、教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、授業のみでなく、授業以外の時間でも、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して、発音の練習や宿題の提出ができる。授業は、下記のように展開される。

1. 日本語の発音との違いによる中国語の発音の難点を詳しく説明し、その難点を克服する方法を提示する。学生の一人一人が立派な発音を身に付けることができるように、発音を徹底的に訓練する。
2. 中国語表現の基本的、尚且つ重要な文型を中心にして説明する。習った単語や基本文型の使用練習を繰り返して行う。よって中国語の実際運用能力を高め、中国語の基礎を固める。
3. 日本語の基本文型との違いを比較することによって、中国語の基本文型への理解を深め、中国語表現の特色を掴める。
4. 本文の日本語訳を見ながら、中国語を言うことができる訓練をする。
5. 練習問題を宿題に出し、宿題に出た問題点について説明をする。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況を期末テストに加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

中国語入門 (出版社: マナハウス)
精選日中・中日辞典 (商務印書館出版 販売先: AS書店シーポー)

中国語読解 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 湯 海鵬

【授業の概要】

主として、「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。この講義と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文 I」と「中国語会話 I」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、中国語の簡単な文章を読んで理解できるように。また発音の基礎や基礎的な文型と語彙を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。説明の重点を日・中両言語の違いに置き、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素を配慮に入れながら作ったオリジナルの教材である。その教材をホームページにも載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができる。宿題の結果がメールで先生の所に届くようになっている。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 我是学生
2. 春天很暖和
3. 我家在名古屋
4. 鈴木早晨七点起床
5. 他去打排球了
6. 日本人和中国人
7. 田中会游泳
8. 鈴木和佐藤

授業は、2回で1つの話題をできるように展開される予定である。単語や本文の発音を徹底的に指導し、立派な発音を身に付けられるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況によって、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語読解入門（出版社：マナハウス）

中国語会話 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 張 玉玲

【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、自己紹介、家族紹介、大学の紹介及び大学の生活を紹介するなど、簡単な中国語の会話ができるようになる。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身に付けることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身に付けることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語会話入門（出版社：マナハウス）

中国語作文 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行う。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、簡単な中国語が書けるようになるだけでなく、中国語の発音基礎、基礎的な文型と語彙をマスターすることもできる。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われてるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について（1）
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をできるように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

平常点と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語作文入門（出版社：マナハウス）

中国語情報処理

葛 漢彬

【授業の概要】

本講義では、主として（1）日本語Windows環境で如何にして中国語ワープロを作るか；（2）如何にして中国語のメールを受送信するか；（3）如何にして中国語のホームページを利用するかの3点に力を入れて説明する予定である。要するに、本講義では、中国語の語学力とマルチIT知識を活用できる人材の育成とメディアによる中国語授業を実施するための基礎作りを目的としている。

【授業の目標】

本講義では日本語Windows環境における多言語システムの基本を理解するとともに、中国語を使用できる環境の設定、文字化け対策、中国語メールおよび文章の作成・送受信、中国語による情報検索の技能を習得することを目標としている。

【授業計画】

1. パソコン操作の専門用語の日中対照
2. パソコンの基本設定
日本語と中国語IMEの設定
多言語処理の時の条件
3. Wordによる文章の作成・編集
中国語の入力、日本語と中国語混在文の入力、印刷、文字化け時の対策、フォントの指定
4. 電子メール
エンコードの指定、フォント・サイズの選定、中国語メール（ワードファイルの添付形式を含む）の送受信
5. 通信ネットワーク
各種中国語ウェブサイトの紹介、インターネットの情報収集
6. 拼音（pinyin）を使わない中国語入力法

【評価方法】

出席状況、レポート及び期末テストで総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の時、指示する。

日本語論 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語の各論について基礎的な知識を学習する。言語類型論から膠着語としての日本語の特徴を知る。対照言語学から英語および中国語との異同について学ぶ。言語系統論から世界の言語にある日本語の位置を理解する。そして、広く応用言語学から、日本語学、日本語教育学、日本語コミュニケーションを論じる。

【授業の目標】

日本語を言語類型、対照言語、言語の系統など言語学の学問分野と日本語研究の立場から学び、世界の言語のひとつである日本語の理解を得る。

【授業計画】

次の項にしたがって講義を行う。

- 1 言語類型論
膠着と屈折 孤立言語と借用 発音と文法
- 2 対照言語学
英語と日本語 中国語と日本語 語彙と意味
- 3 言語の系統
日本語の祖先 日本語の起源 そもそも日本語とは
- 4 応用言語学
日本語学 言語教育 日本語コミュニケーション
世界の言語の中の日本語を学び知識を得て、国語を日本語の理解に高める。

【評価方法】

各論のクイズ、学期末レポート、出席など。
評点は100点換算で、クイズ60%、レポート20%、出席20%としておこなう。

【テキスト】

日本語論 I (予定)

【参考文献・資料】

言語学辞典 言語の辞典 日本語百科 日本国語大辞典

日本語教育入門 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の基本的なことから概観し、日本語学習者、日本語教師、日本語教材、日本語教育と能力試験などについて講義をおこなう。

【授業の目標】

日本語教育の実態を理解し言語教育の重要性を学ぶ。

【授業計画】

日本語教育とは日本語を学習する人たちのための教育である。いまは日本語を外国語として学習する第2言語教育をふくめて、コミュニケーションのための語学教育科目として日本語教育を捉えようとしている。

次の項について入門のための概説をおこなう。

- 1 日本語教育とは
- 2 日本語教育の学習者
- 3 日本語教師の資格と役割
- 4 日本語教材と教科書
- 5 日本語教育と能力試験
- 6 日本語と外国語教授法

【評価方法】

レポート提出30%、期末テスト50%、出席度20%で評価する。

【テキスト】

日本語教育入門 (予定)

【参考文献・資料】

日本語教育事典 日本語教育ハンドブック 応用言語学辞典

日本語表現演習 I

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

この演習は、学生の書いた小論文を毎回添削することに大きな特徴がある。それは、日本人として日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としているからである。そのために、学生は新聞や週刊誌などを主な教材として毎回提示されたテーマに従って自分の考えをまとめ、書く練習を繰り返して文章の完成を図る。そして、それを他学生の前で発表して、お互いがディスカッションを通じてテーマの内容を深めていくようにする。

【授業の目標】

作文練習を通じて論理的な思考、文章構成と表現法を学ぶ。

【授業計画】

- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
- 2 作文課題 大学に入学して 800字
- 3 小論文 最近のニュースから 1200字
- 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
- 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
- 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
- 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
- 8 小論文 政治と経済と 2000字
- 9 小論文 社会と国際と 2000字
- 10 小論文 教育と専門と 2000字
- 11 ディスカッション テーマについて
- 12 ディスカッション 文章について
- 13 ディスカッション 論文について
- 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

講義をそれぞれがクラスにわかれて担当する。
作文練習はクラス編成をして行う。

【評価方法】

作文・小論文による。出席を重視する。

【テキスト】

文章表現法 (樺島忠夫 角川選書)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

Sociolinguistics I

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Course Introduction
- 2
- 3 Language, Society, and Ethnicity
- 4
- 5 Concepts of Culture
- 6
- 7 Mind, Mass Media and Culture
- 8
- 9 Prisms of Perception
- 10
- 11 Cross-Cultural Applications
- 12

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

Sociolinguistics II

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of Sociolinguistics I. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Introduction
- 2
- 3 Multicultural Identities
- 4
- 5 Linguistic Profiling
- 6
- 7 Ethnicity, Power, and Society
- 8
- 9 Bilingual Dilemmas
- 10
- 11 Creativity and Culture
- 12

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

英語科教育法 II

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

小学校英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校へ繋がる小学校英語教育・アジア諸国の小学校英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

英語科教育法 III

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばいいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
Sunshine 1・2・3（松本青也他 開隆堂出版）
中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法Ⅳ

山森孝彦

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・ 高校生が各学年でどれだけの文法事項、語彙、英語力を身につけているかをある程度予想することができる。
- ・ 与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・ 考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）
第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義
第6～13回 模擬授業実習
- ・ 数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）
 - ・ 発表者以外の学生は生徒役もしくは授業分析ノートをつける。
 - ・ 毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
 - ・ 全員が授業評価シートを毎回提出する。
- 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

【評価方法】

出席状況・作成した教案や毎回の提出物・模擬授業・授業への貢献度を総合して評価する。

【テキスト】

Unicorn 英語I（文英堂）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

English Linguistics I

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

The purpose of this course is to introduce you to the field of linguistics. Students will learn how to analyze both the sound system and structure of the English language. This class will be taught mostly in English, however, translations of difficult concepts and terminology will be provided in Japanese.

【Course objectives】

- ・ To introduce students to some main areas of study within linguistics.
- ・ To enhance students' understanding of the classification, structure, and sound system of American English.
- ・ To provide practice in deciphering difficult sounds for Japanese learners of English.
- ・ To introduce students to some key issues in the field of applied linguistics.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

phonetics（音声学）
phonology（音韻論）
morphology（形態論）
syntax（統語論）

【Assessment】

Exams（2）

【Textbooks】

Not required

応用言語学海外研修

松本青也 CHARLEBOIS, Justin

【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

【授業の目標】

集中的な語学研修でコミュニケーション能力を高め、海外生活を体験することで、異文化理解を深める。

【授業計画】

米国の提携大学で実施。詳細は別の資料を参照のこと。

【評価方法】

提携大学での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

English Linguistics II

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

The main purpose of this course is to introduce students to the field of sociolinguistics（社会言語学）. The knowledge acquired from English Linguistics I will aid students as we look at the relationship between language and society in this course.

【Course objectives】

- ・ To introduce students to the field of sociolinguistics: the interaction between language and society.
- ・ Through the use of class activities, illustrate the applicability of sociolinguistics to everyday life.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

Linguistics and Sociolinguistics（言語学と社会言語学）
Speech Act Theory（言語行動論）
Language Variation（言語のバリエーション）
Language and Gender（言語とジェンダ）
Language and Identity（言語とアイデンティティ）
Politeness（ポライトネス）
Intercultural Communication（異文化コミュニケーション）
Discourse Analysis（談話分析）

【Assessment】

Exams（2）

【Textbooks】

社会言語学入門（東照二 研究社 2006）

【Reference】

社会言語学への招待（田中春美 2004 ミネルヴァ）
Sociolinguistics: A Reader and Coursebook. (Coupland, N. and Jaworski, A. (Eds.). (1997). London: Macmillan)
Sociolinguistics. (Spolsky, B. (1998). Oxford: Oxford)

English Linguistics III

CHARLEBOIS, Justin

[Course description]

This course will serve as an advanced introduction to the study the English language and to the more specific field of language and linguistics. Particular attention will be paid to the study of English pragmatics and variation.

[Course objectives]

- To provide an introduction to the field of second language acquisition (SLA).
- To familiarize students with seminal SLA research.
- To encourage students to reflect on their own language learning practices.
- To consider how SLA theory can be applied to language learning and teaching.

[Course schedule]

Topics to be considered may include:

Introduction
Key Issues in SLA
The role of first language
Individual learner differences and SLA
Input, interaction, and SLA
Learner strategies
Universal Grammar
The role of formal instruction in SLA

[Assessment]

- Attendance
- Class Participation/Effort
- Research Paper

[Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

[Reference]

Understanding SLA. Oxford: (Ellis, R. Oxford University Press. 1985.)
The Study of SLA. Oxford: (Ellis, R. Oxford University Press. 1995.)

English Literature II

EASLEY, Keith

[Course description]

Romanticism (1789-1832)

The many kinds of Romantic fiction will be considered, along with their relationship to the key themes of Romantic poetry. Selections will be made from Jane Austen, gothic romances, social satire, feminist fiction, historical romances and Mary Shelley's "Frankenstein."

[Course objectives]

1. To improve students' understanding of a key period in Western culture.
2. To develop students' language skills.

[Course schedule]

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today
Weeks 3 - 6 Individual writers
Weeks 7 Key themes
Weeks 8 -11 Individual writers
Week 12 Review

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

[Textbooks]

To be announced.

English Literature I

EASLEY, Keith

[Course description]

Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

[Course objectives]

1. To improve students' understanding of a key period in Western culture.
2. To develop students' language skills.

[Course schedule]

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today
Weeks 3 - 6 Individual writers
Weeks 7 Key themes
Weeks 8 -11 Individual writers
Week 12 Review

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

[Textbooks]

To be announced.

American Literature I

METCALF, Nicholas F.

[Course description]

This course will introduce students to some of the major figures of nineteenth century American literature. This was the time when American writers were beginning to promote a distinct national literature. During the semester selections will be made from the works of Emily Dickinson, Edgar Allan Poe, Walt Whitman and Mark Twain.

[Course objectives]

The course aims to introduce students to the lives and writings of well known nineteenth century American writers.

[Course schedule]

Weeks 1 - 2 Historical background.
Weeks 3 -11 Individual writers will be covered over a two or three week period.
Week 12 Review

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

[Textbooks]

A textbook may be announced.

American Literature II

METCALF, Nicholas F.

【Course description】

The twentieth century was a time of rapid social and economic change in the United States. In this course we will look at the lives and works of some of the major American writers of the twentieth century to see how they responded to the changing world around them. Ernest Hemingway, F. Scott Fitzgerald, John Steinbeck and Jack Kerouac are among the writers we will consider.

【Course objectives】

The course aims to introduce students to the lives and writings of well-known American writers of the twentieth century.

【Course schedule】

Weeks 1-2 Historical background.

Weeks 3-11 Individual writers will be covered over a two or three-week period.

Week 12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

【Textbooks】

A textbook may be announced.

Cyber-English II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

【Course description】

Cyber-English I の内容を更に発展させて、アメリカの学生とのやり取りも含め、コンピュータによる海外との交信を実習する。同時にインターネットについての文献や講義も取り入れ、例えば、コンピュータによってコミュニケーションが変化するか、すべてがインターネットに依存する社会はあるか、といった問題を考える。

【Course objectives】

To learn different techniques for communicating using English on the Internet.

【Course schedule】

1. Message boards
2. Mailing lists
3. Podcasts

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

An English-language textbook may be assigned.

English Interaction II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R. WRINGER, Paul DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D. CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course continues to aim to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in Japan when dealing with native speakers of English.

【Course schedule】

We will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Show and tell
2. Social encounters

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction III

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D.

【Course description】

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in homestays and travels abroad.

【Course schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction IV

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D.

[Course description]

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

[Course objectives]

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in homestays and travels abroad.

[Course schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

[Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction V

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

[Course description]

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

[Course objectives]

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in academic and professional settings.

[Course schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

[Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction VI

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

[Course description]

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

[Course objectives]

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in academic and professional settings.

[Course schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

Reading and Discussion I

DAVIES, Alun WRINGER, Paul METCALF, Nicholas F.

[Course description]

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory).

The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the article.

[Course objectives]

1. To improve students' ability to read and respond to texts in English.
2. To improve students' ability to discuss a variety of topics in groups.

[Course schedule]

Each week, students will be expected to have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Reading and Discussion II

DAVIES, Alun WRINGER, Paul METCALF, Nicholas F.

[Course description]

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory).

The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the article.

[Course objectives]

1. To improve students' ability to read and respond to texts in English.
2. To improve students' ability to discuss a variety of topics in groups.

[Course schedule]

Each week, students will be expected to have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Business English I

STEPHENSON, Brett

[Course description]

This course will serve to develop students' ability to communicate effectively in English on a variety of conversation and business topics. Throughout the course, students will be encouraged to participate in activities designed to stimulate genuine communication and discussion.

[Course objectives]

The major purpose of this course is to introduce students to specialized business vocabulary and concepts. The principles of marketing and management will be introduced and students will be asked to apply these concepts by completing practical case studies.

[Course schedule]

To be announced

[Assessment]

Students will be assessed on the basis of in-class participation and a final examination. Since this course has a practical focus, a large percentage of assessment will depend on students' ability to handle various business situations with appropriate vocabulary and expression.

[Textbooks]

To be announced.

Business English II

STEPHENSON, Brett

[Course description]

This course will serve to develop students' ability to communicate effectively in English on a variety of conversation and business topics. Throughout the course, students will be encouraged to participate in activities designed to stimulate genuine communication and discussion.

[Course objectives]

The major purpose of this course is to introduce students to specialized business vocabulary and concepts. The principles of marketing and management will be introduced and students will be asked to apply these concepts by completing practical case studies.

[Course schedule]

To be announced

[Assessment]

Students will be assessed on the basis of in-class participation and a final examination. Since this course has a practical focus, a large percentage of assessment will depend on students' ability to handle various business situations with appropriate vocabulary and expression.

[Textbooks]

To be announced.

Interpretation Practice I

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

[Course description]

The aim of this course is to introduce students to the field of translation studies, with a focus on interpreting. While some theoretical background will be provided, emphasis will be placed on practice. Through the use of various media students will develop their ability to interpret from English into Japanese.

[Course objectives]

- To introduce students to the field of translation studies.
- To introduce students to interpreting strategies.
- To provide students with practice interpreting.

[Course schedule]

Topics to be considered may include:

- Translation studies
- How are interpreting and translating different?
- Source language versus target language
- consecutive versus simultaneous interpreting
- Practical Training: English to Japanese

[Assessment]

- Exam
- Research Paper

Interpretation Practice II

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

[Course description]

This course will continue from where Interpretation Practice I left off. The main focus will be to refine students' ability to interpret from English into Japanese with some practice going from Japanese into English as well. Students will also be asked to examine various challenges and issues that interpreters face.

[Course objectives]

- To further develop the ability to interpret.
- To consider some issues facing interpreters.

[Course schedule]

Topics to be considered may include:

- Practical Training
 - phonemic shadowing
 - phrase shadowing
 - monitoring strategies
 - approximation strategies
 - sight translation
- Contemporary issues facing interpreters

[Assessment]

- Exam
- Research Paper

Communication Strategies I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

[Course description]

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

[Course objectives]

1. To introduce students to argument and debate.
2. To improve the students' ability to prepare and present arguments in a debate.

[Course schedule]

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

[Textbooks]

A textbook may be assigned

Writing and Presentation I・II

CHARLEBOIS, Justin DYCUS, David C.

[Course description]

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Course objectives]

1. To improve the students' ability to write academic papers.
2. To improve the students' ability to prepare and give presentations.

[Course schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Communication Strategies II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

[Course description]

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

[Course objectives]

1. To introduce students to argument and debate.
2. To improve the students' ability to prepare and present arguments in a debate.

[Course schedule]

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

[Textbooks]

A textbook may be assigned

Seminar Overseas

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R.

【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール通信などによって各自のテーマに沿った調査研究も行う。

【授業の目標】

1. To expose students to life in a university abroad.
2. To improve the students' use of English
3. To expose students to life in homes abroad.

【授業計画】

1. 目的
下記の大学での夏季授業とホームステイ、小旅行を通じて、米国文化とアメリカ英語を習得すること。
2. 期間（予定）
2003年夏期休暇中2001年7月31日～8月26日
3. 研修先
米国 West Virginia University
（予備調査での履習希望者数で決定します）
4. 費用（未定）
5. 渡航前 オリエンテーション
2003年5月から7月まで

【評価方法】

研修先での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

中国語作文Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、1000文字前後の中国語の文章が読めるようになるだけでなく、400文字前後の中国語が書けるようになる。またHSK基礎科目と平行して履修することによって、HSK基礎試験の3級を取ることが期待できる。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方（1）
5. 日記の書き方（2）
6. 四季について（2）
7. 一年の大学生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語作文入門（出版社：マナハウス）

【参考文献・資料】

基礎漢語写作（北京語言学院出版社）

中国語読解Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞 湯海鵬

【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

本講義と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文Ⅱ」と「中国語会話Ⅱ」及び言語活用科目の「HSK基礎A」と「HSK基礎B」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、800字前後の中国語の文章を読むことができるようになる。またHSK基礎科目と平行して履修することによってHSK基礎試験の3級を取ることが期待できる。

【授業計画】

中国語読解入門Ⅱは、中国語読解入門Ⅰと同じように、学生の中国語を読んでも理解する力を養成することを目的としているが、後期の全学の共通科目の中国語HSK基礎コースの授業と協力して、翌年の5月に本学で実施するHSK基礎能力試験の3級に合格するように授業を進めていく。ゆえに、検定試験の内容を配慮に入れながら作成されたオリジナルの教材である。さらにその教材をホームページに載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができ、宿題の結果がメールで先生の所に届くようになる。授業の内容は主として下記の通りである。

1. 高橋病了
2. 見面時的習慣
3. 终于把屋子收拾干净了
4. 我被老師批評了
5. 莉莉变了
6. 今天真倒?
7. 我該怎麼辦

主として部屋の掃除が嫌いなこと、先生に叱られたときのムツとした気持ち、そして女の子が年頃になると綺麗になること、またはとても運がっていないときのことなど、大学生に身近な笑い話を多く取り入れている。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語読解入門（出版社：マナハウス）

中国語会話Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞 張玉玲

【授業の概要】

この授業は中国語会話Ⅰの延長として考えている。中国人とコミュニケーションをするときの場面に教材に取り入れている。たとえば、家族や大学の紹介、趣味や専攻の紹介、そして夏休みや冬休みなどが主な素材となっている。要するに、実用性を最大限に重視し、本講義を履修することによって中国人と生きている会話ができるように期待している。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、大学での友だちや先生との日常会話、病院での医者さんとのやり取り、クラブ活動や趣味を紹介するなど簡単な中国語の会話ができるようになる。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容に関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語会話入門（出版社：マナハウス）

中国語表現 I

杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、HSK 試験の 4 級に合格することができることを目標としている。

【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2 回の授業で 1 課というペースで進み、専門クラスには、2 課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業の内容は、下記の通りである。

1. 南京師範大学の校園
2. 我的留学生活
3. 感謝信 (1)
4. 感謝信 (2)
5. 幸福与快樂
6. 自相矛盾
7. 師生情

本講義の目的は学生にとって身近な話題を提供することによって、中国語学習への意欲を引き出し、積極的に中国語でコミュニケーションする姿勢を養成することにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されている HSK 試験の問題に倣って作られているので、HSK の 4 級か 5 級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語表現 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国文学講読 I・II

杜英起 陳惠貞 周素芬

【授業の概要】

この授業の目的は、中国語の表現力を高めること、豊富な語彙を獲得させること、読む力を身に付けさせることにある。授業の内容は、主として故事物語になっているが、その狙いが普段話しやすい故事物語の学習を通して、中国語コミュニケーションにおける豊富な表現力を身に付けることにある。そのほかに、練習問題が HSK の出題方式に倣って作られているため、この授業を履修することによって HSK の合格率を高めることも期待できる。

【授業の目標】

中国の歴史、文化を深く理解し、HSK の 4 級試験に必要な表現を習得することができるとともに、中国語の会話表現を幅広く習得することもできることが本講義の目標である。

【授業計画】

前期:

1. 道听途説
2. 拔苗助長
3. 空中楼阁
4. 杯弓蛇影
5. 黔驢技窮
6. 囫圇吞棗
7. 呆若木鷄

後期:

1. 坐井觀天
2. 毛遂自荐
3. 守株待兔
4. 争先恐后
5. 伯樂識馬
6. 一鳴驚人
7. 熟能生巧

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国文学講読 (出版社: マナハウス)

中国語表現 II

杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、HSK 試験の 5 級に合格することができることを目標としている。

【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2 回の授業で 1 課というペースで進み、専門クラスには、2 課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業は前期の続きで、下記の内容となっている。

1. 中国的竜
2. 中国的茶
3. 孔子
4. 中秋節
5. 屈原
6. 新婚之喜
7. 中国的春節

前期と違って後期の内容は中国の文化の紹介に重点を置き、目的は中国語を学習すると共に、中国の文化への理解を深めることにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されている HSK 試験の問題に倣って作られているので、HSK の 5 級か 6 級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語表現 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国語会話 3

曹志偉 杜英起 楊衛平

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初等試験の 4 級に受かることにねらいを定め、1500~2000 前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家庭生活・大学生活などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話 2 を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
 2. 私達の中国語の先生
 3. 朝食を食べる
 4. タクシーに乗る
 5. 宿舎のおばさん
 6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

曹志偉 陳惠貞 楊衛平

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行こう
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語聴解 I

馮富榮 杜英起 陳惠貞 張玉玲

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスではオリジナルなメディア教材を使用し、非専門クラスでは市販のメディア教材を使用する。具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。そして習った表現を使って会話の練習を行う。内容は2年に開講される「中国語表現 I II」と「中国文学講読 I II」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKのよりよい成績が出せるように期待している。

非専門クラスは市販のメディア教材を使用し、実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。中国人の日常の簡単な会話が聞けることが目的である。

要するに、この中国語聴解 I という授業は、中国人の普通の会話が聞けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が聞けるようになることを本講義の最大の目標とする。

【授業の目標】

要するに、この中国語聴解 I という授業は、中国人の普通の会話が聞けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が聞けるようになることを本講義の最大の目標である。

【授業計画】

専門クラスでは一回の授業で一課の進度で、「中国語表現」及び「中国文学講読」と平行しながら授業を進めていく予定である。たとえば第1課と第2課はそれぞれ上記した2冊の教材の第1課の内容をブレンドしたものである。出題の方法はまったくHSKの聴解問題と同じである。いわゆるHSKに合格するための特訓と考えてもよい。

非専門クラスでは主として日常挨拶、友人の紹介、お客さんの招待、電話をかける、道を尋ねる、買い物という六つの場面を設定して聞く訓練と話す訓練を行う。実用性を重んずる授業である。

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

専門クラス：中文听力入門 (出版社：マナハウス)

非専門クラス：实用汉语会话 (北京塔博思科技發展有限責任公司制作 高等教育電子音像出版社出版)

中国語聴解 II

馮富榮 杜英起 陳惠貞 張玉玲

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスでは市販のメディア教材を使用し、HSKの聴解模擬試験の問題である。内容は3つの部分に分かれ、第一部分は短文を聞いて質問を答える問題であり、第2部分は会話を聞いて質問を答える問題である。そして第3部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

非専門クラスではオリジナルのメディア教材を使用し、5つの部分から構成される。第一部分は単語の発音を入力する問題であり、第2部分は短文を聞いてそれを書き取る練習である。第3部分は録音を聞いて質問を答える問題であり、第4部分は会話を聞いて質問を答える問題である。そして第5部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、中国人の一般的な会話を聞き取れるようになるだけでなく、専門クラスの学生はHSK初中等の5級、非専門クラスの学生はHSK初中等の4級が取れることが期待できる。

【授業計画】

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。使用するメディア教材はHSKの模擬試験の問題で、出題の方式や回答に所要する時間などがすべてHSKの試験に準ずる。いわばHSKの実践訓練である。この講義を履修することによってHSKの5級に合格することを期待している。

非専攻クラスは専攻クラスの前期に使用するオリジナルの教材を使う。内容は2年に開講される「中国語表現 I II」と「中国文学講読 I II」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKの4級に合格できるように期待している。

要するに、この中国語聴解 I という授業は、中国人の普通の会話が聞けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が聞けるようになることを本講義の最大の目標である。

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中文听力入門 (出版社：マナハウス)

中国語聴解 III

杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われているので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解IIIと聴解IVという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業の目標】

本講義の目標は、HSK試験の5級か6級に合格するのに必要な語彙量、表現、聴解の力を身につけてもらうことにある。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
 2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
 3. 映画などの内容についてのプリント(穴埋め問題式)を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
 4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。
- 以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解中級 (出版社：マナハウス)。

【参考文献・資料】

授業で指示する。

中国語聴解Ⅳ

杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解Ⅲと聴解Ⅳという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業の目標】

本講義の目標は、HSK試験の6級か7級に合格するのに必要な語彙量、表現、聴解の力を身につけてもらうことにある。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
 2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
 3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
 4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。
- 以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解中級（出版社：マナハウス）と愛情麻辣燙（凱希メディアサービス発売）。

【参考文献・資料】

授業で指示する。

ビジネス中国語Ⅰ

杜 英起

【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語Ⅱと共に中国語でのビジネスに必要となる全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面が各講義のテーマとなる。

【授業の目標】

対外貿易関係の基本的な知識と専門用語を習得し、日中ビジネスの相違点などをよく理解するとともに中国の経済に関する基本的な知識を身につけてもらうことが本講義の目標である。

【授業計画】

1. 招聘状
2. 訪日日程
3. 礼状
4. 値段交渉
5. パートナー探し
6. 引き合いとオファー
7. 決済について

【評価方法】

平均点に出席を加味し評価する。

【テキスト】

自作教材

中国文学Ⅰ・Ⅱ

陳 惠貞

【授業の概要】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として近代の有名な短編小説や散文である。たとえば朱自清、魯迅や巴金などの作品であり、いずれも代表的な作品である。作品の後に作品を鑑賞する文章があり、それらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。各課の後に、作品に関する課題を5つ設定し、それについてディスカッションを行うことが予定されている。要するに、本講義の目的は、先生の助けがなくても学生が自分で中国語の簡単な文学作品を読めるようになると同時に文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

【授業の目標】

1. 文学作品の朗読を通じて、中国語の発音を確認する。そして、文学作品を読むことで、読むテクニックを養成する。
 2. 各作品の後に作家の紹介と作品の鑑賞があり、文学作家の生い立ちや当時の時代背景を理解し、作品の鑑賞を通じて、内容をより深く理解することを目指す。
 3. 各課の後に、作品に関する課題を設定し、ディスカッションを通じて、文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成する。
- 以上のように、本授業の目標は、学生が自分で中国の簡単な文学作品を読む力と文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

【授業計画】

前期：

1. 海上日出
2. 匆匆
3. 春
4. 荷塘月色
5. 我的空中楼阁

後期：

1. 済南の冬天
2. 骆驼祥子
3. 一件小事
4. 讽刺论
5. 从百草园到三味书屋

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材

ビジネス中国語Ⅱ

杜 英起

【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語Ⅰと共に中国語でのビジネスに必要となる全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面が各講義のテーマとなる。

【授業の目標】

対外貿易関係の基本的な知識と専門用語を習得し、日中ビジネスの相違点などをよく理解するとともに中国の経済に関する基本的な知識を身につけてもらうことが本講義の目標である。

【授業計画】

8. 信用状
9. 商品の包装交渉
10. 保険条件の交渉
11. 商品検査
12. クレームと交渉について（一）
13. クレームと交渉について（二）
14. 中華人民共和国涉外経済契約法

【評価方法】

平均点に出席を加味して評価する。

【テキスト】

ビジネス中国語（出版社：マナハウス）

【参考文献・資料】

授業で指示する。

中国語作文1

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門1

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

同時通訳入門2

大森信徳

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語海外研修

馮 富榮 杜 英起

【授業の概要】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わないゼミへの準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いが最大の目的である。

この研修は、合計7週間（事前研修は1週間、現地研修は6週間）である。事前研修には、研修先の紹介や注意事項の説明及び簡単な中国語講習会などが含まれる。現地研修には、6週間の授業と日帰りの北京観光が含まれる。授業期間中、月曜日から金曜日まで毎日午前2コマの授業があるので、密度の高い研修内容となるので、高い教育効果が期待できると思われる。具体的に説明すると「中国語読解」と「中国語会話」の2本柱で進め、中国語の読解能力と中国語コミュニケーション能力を徹底的に伸ばす。そのほか、週に1回「中国文化講座」の授業がある。「主として中国の伝統的な音楽、中国文化、水墨絵、太極拳などを紹介する。

研修期間中、授業のほかは、1日のホームステイ体験も計画されている。そのほか、中国に到着した翌日に、中国の大学生との交流会を開き、対一の交流を展開し、中国人の大学生と対一の友だち作りができる。研修期間中、自分のパートナーと一緒に天津の町に行ったり、一緒に食事に行ったりすることができる。さらに天津市の市内観光や天津郊外の観光も行う計画である。最後には、送別会を開き、そこで、研修に参加している学生は自分の中国語学習の成果を歌や踊り、または寸劇などの形で発表し、中国人の大学生は踊りや日本語スピーチなどを披露することになる。

【授業の目標】

要するに、この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景も理解することができ、また自分から進んで中国語を発信し、そしてそれが理解されるとき楽しさを体験することもできる。

【授業計画】

【履修上の注意】

この授業の対象者は、言語コミュニケーション学科の2年次である。

【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

【テキスト】

学生のレベルにあった教科書を使用する。研修先で提供する。

日本語表現演習Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくい、少なくとも本演習では学生が自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるような文章力を養う。

【授業の目標】

本演習を通して文章作成の楽しさを実感してもらい、自主的に自由な発想で文章が書けるようにする。

【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて自由に考えたり討論したりして、それに対する感想レポートをまとめるようにする。学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員から直接指導を受けて、彼らは問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになる。

本演習は新聞や週刊誌の記事を中心に、有名な小説や評論や学術論文なども補助教材として使用する。文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力が自然につくことを目標としている。

1. ショート・ストーリー作成
2. 映画・演芸・文藝評論作成
3. 新聞や雑誌をもとにした広告文の作成
4. 短編小説の創作（資料：漱石の『夢十夜』）
5. 自伝のまとめ（資料：論吉『福翁自伝』、映画『福沢論吉』）
6. レジメの書き方（資料：論文）
7. レジメの作成（研究発表）
8. 課題文作成（レポート提出）

【評価方法】

毎回の発表、学期末のレポート、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

日本語論Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語とはどのような言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、日本語の体系などを概観する。特に日本人の話し言葉と書き言葉の違い、地域による違い、性別による違い、階層による違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて資料やデータを活用しながら言及していく。

【授業の目標】

日本語に関する基本的な知識を習得し、日本語や日本文化への関心を高める。

【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

〈日本語の世界に触れる〉

1. 日本語の特徴
2. 発音からみた日本語
3. 語彙からみた日本語
4. 表記法からみた日本語
5. 文法からみた日本語
6. 方言（名古屋弁）の魅力
7. 新しい日本語の特徴
8. 日本人の日本語表現

【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

自作プリントを配布する。

【参考文献・資料】

日本語（上・下）（金田一春彦著 岩波新書）

日本語表現演習Ⅲ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱにおいて、日本語にはさまざまな表現形式と内容があることを学んだが、それらの基礎的な知識や技術によって、さらに専門的な日本語表現についての分析と考察を進めていく。本演習では学生の自発的な参加を求めているが、学生自らの力で考える習慣を身につけ、それを口頭発表することによってディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていくように配慮する。

【授業の目標】

日本語の専門的な知識を得て、それが学生の文章表現に活用できるようにする。

【授業計画】

1. 動詞の基本的な体系を考える。
動詞の役割、動詞の変化、動詞の種類、補助動詞の役割、授受動詞、「する」と「なる」動詞など
2. 敬語表現の理論と実践
敬語の意義、敬語表現の現実、敬語体系の分析、常体と敬体、敬語行動、新しい敬語法など
3. プレゼンテーションの方法を学ぶ
口頭発表の準備、資料の収集と整理の仕方、テーマの絞り方、レジメの作成法、ディスカッションの進め方、全体討議（ディスカッション）の在り方の練習など

【評価方法】

授業中の発表内容や参加態度、提出課題の内容、学期末のレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を主な教材とするが、授業時に簡単なテキストを指示する予定である。

【参考文献・資料】

授業時に提示する。

日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

日本語表現演習で養われた口頭の発表技術を、議論と討論または対論における説得技術と、学会、企画会議、研修会等目的に応じたプレゼンテーション能力として養う。

【授業の目標】

ディベートのルールを知り、論証による口頭表現を学ぶ。プレゼンの主張を論理だてて構成できるようにする。

【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 未来塾改良型4人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた口頭発表をおこなう。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂（1996）講談社 BLUE BACKS）
定訳 菊と刀（R・ベネディクト著 長谷川松治訳（1972）社会思想社）

日本語学Ⅱ

阿部美枝子

【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から基本的、かつ重要なトピックを演習の形で取り上げ、言語学的、日本語学的手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

【授業の目標】

日本語話者として日頃話している日本語の成り立ちを客観的に理解し、親しむことを目標とする。

【授業計画】

現代日本語の文法現象を整理し、その体系を理解することをテーマとする。

1. 日本語の基本構造
2. 構造の階層性
3. 文：情報の単位として
4. 述語の型
5. 助詞
6. 自動詞と他動詞
7. 受動文
8. 使役文
9. テンスとアスペクト
10. 主題の「は」

以上のような項目について、言語学的、日本語学的に分析していく。
主に講義の形を取るが、随時課題を出す。

【評価方法】

学期末筆記試験、及び課題の結果で評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

1. 生成日本語学入門（1999年 大修館書店）
2. はじめての人の日本語文法（1991年 くろしお出版）

日本語学Ⅰ

阿部美枝子

【授業の概要】

言語の基本である音声を科学的、客観的に提示し、日本語がどのような音から構成されているかをみていく。

【授業の目標】

日本語話者として日頃無意識に話している日本語の音がどのようなものか客観的に理解することを目標とする。

【授業計画】

1. 文字と音声
2. 発音のメカニズム
3. 日本語の音
4. 韻律現象

以上の構成で主に講義の形で授業を進めるが、日本語話者としての受講者の直感、意見等も積極的に講義の中に取り入れていく。

随時、課題を出す。

【評価方法】

学期末試験、および課題を評価の対象とする。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

生成言語学入門（1999年 大修館書店）

日本語学Ⅲ

山内啓介

【授業の概要】

語彙についての概論的理解を得るために術語や理論を学習して言語研究の応用方法を解説する。また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示の意味、差異化、概念の外延と内包、関係の意味などの基本知識を得る。

【授業の目標】

語と語彙の違い、語彙論の基礎を学び、また、意味の研究について興味を持つようにする。

【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
 - 2 語彙論とは何か 語の単位・語彙調査・語彙表
 - 3 語の延べと異なり 資料体の総量・古典対照語彙
 - 4 基本語彙について 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
 - 5 語彙の構造 分類基準・意義・形態・語性・地域
 - 6 語誌の研究 語源・語義・本義・派生義・語構成
 - 7 語種 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
 - 8 語と意味 意味とは、意味の捉え方・語義反義語
 - 9 語の意味の研究 指示の意味・意味の基本三角形
 - 10 関係の意味 象徴記号・概念と用法・語義の差異
 - 11 意味分析の方法 文脈の意味・臨時的意味・比喻
 - 12 語の意味変化について 意味の変遷・辞書の記述
 - 13 日本語語彙の特徴 死語・流行語・若者語・造語
 - 14 語彙史と辞書史 字引き・索引・コンコーダンス
- 附 語彙研究の課題・意味研究の将来

【評価方法】

学期末試験による。出席を重視する。

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

語彙について各講座から文献を紹介する。

日本語教授法Ⅰ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語教授法は、外国人を対象に外国語として日本語を教えることであって、日本人を対象にした「国語教育」とは方法論も指導内容も異なっている。そこで、本講義ではまず外国語教授法の変遷をたどり、ついで日本語を外国語として教える日本語教授法について考えてみたい。

【授業の目標】

第二言語習得の一環として、学生に日本語教授法の基本的な方法論を学ばせる。

【授業計画】

外国人に日本語を教えるときには、国語教師が日本人に国語を教えるのと違い、言語、文化、コミュニケーションなど、さまざまな知識や経験が求められる。本講義ではそれらを幅広い視点から体系的に学ぶ。

1. 日本語教育と国語教育の概観
2. 外国語教授法の変遷と日本語教授法の方法論
文法直訳法、直訳法、オーディオ・リンガル法、段階的教授法、認知学習法、全身反応教授法、コミュニティ言語学習法、サイレント・ウェイ法、サジェストベディア法（暗示式）、コミュニケーション・アプローチ法など
3. 外国語として教える日本語の楽しさと難しさ
4. 模擬授業

【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

改定新版日本語教授法（石田敏子著 1995 大修館書店）

日本語教授法Ⅲ

窪田守弘

【授業の概要】

本講義では、日本語教授法の理論について実践を交えながら整理する。そして、特に中級レベルの日本語教授法を中心にさまざまな指導法を学ぶ。実際の日本語教授法にあたっては、日本語教育の分野での文法理論や教授法があるので、まずその体系や知識を明確にする。口頭練習や読解指導については、実際に教材を作成しながら授業内容を確認し、できれば模擬授業も実施したい。

【授業の目標】

日本語教授法の理論を十分に理解し、それを実践に活用する方法論を構築できるようにする。

【授業計画】

1. 日本語教授法の理論と実践
2. 日本語学習の中級レベルの教授法
中級の代表的な文型、基本的な文法事項、音声・文字・構文の指導法、品詞の扱い方、漢字教育の在り方、基本的なテキストの分析、メディアの活用など
3. 中級レベルの教材と教育方法論

【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を教材とする。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

日本語教授法Ⅱ

山内啓介

【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に中級、専門レベルの日本語教授法を中心に学習する。初級における口頭練習、読解指導の教案作成および模擬授業をふまえ、中級、専門また分野別レベルの日本語教育が日本語学習者の立場において体験できるようにする。

【授業の目標】

初級の教授綱目をふまえて、中級の段階の指導を学ぶ。専門分野の日本語について理解する。

【授業計画】

次の講義と教壇実習を行う。

- 1 初中級のとらえかた
- 2 中級のとらえかた
- 3 中級の教えかた
- 4 専門日本語とは
- 5 談話の分析
- 6 教案と授業の実際
- 7 シミュレーション
- 8 日本語学習者論
- 9 PAL法の実演（1）
- 10 PAL法の実演（2）
- 11 PAL法の実演（3）
- 12 日本語とコミュニケーション
- 13 日本語コミュニケーター

【評価方法】

授業参加30%、複数回のテスト60%、コミュニケーション10%で評価する。

【テキスト】

各種ある日本語の教科書について、ひとつを選び購入すること。

日本語教授法Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

日本語教師の役割、教材およびテストを日本語教育の現場を見据えた実践的な日本語教育用教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育における評価法について理解する。

【授業の目標】

日本語教育の現場で役立つ知識と実践能力を得るとともに、カリキュラム、シラバス、コースデザインについて論じる。

【授業計画】

次の講義と演習を行う

- 1 日本語教育の実際
- 2 日本語指導者と享受者
- 3 日本語教育とカリキュラム
- 4 コースデザインのとらえかた
- 5 ニーズアナリシス
- 6 シラバスデザイン
- 7 日本語学習とコーパス
- 8 教科書・教具の作成
- 9 テストと評価法
- 10 日本語教師の仕事 日本語と地域
- 11 日本語の専門性 語学教育現場
- 12 日本語ボランティア 第2言語教育
- 13 日本語教授法の課題
- 14 日本語教育の将来

【評価方法】

授業参加30%、シミュレーション60%、受講生のコミュニケーション10%で評価する。

【テキスト】

日本語教授法Ⅳ（予定）

【参考文献・資料】

日本語教育の方法 日本教育とコース・デザイン

日本語教育入門Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者がその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語コミュニケーションの実態を明かにする。そして、日常会話での典型的な文型を分類し、発話行為の実態を理解するために基本的な談話分析も試みていく。

【授業の目標】

日本語が日本社会の中で、コミュニケーションの手段としてどのような機能を果たしているかを学ぶ。

【授業計画】

人と人がコミュニケーションを円滑にするには、人間関係の中できちんとしたルールがある。それをいろいろな角度から観察し、分析してみるとおもしろい発見がある。

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実際と応用
4. 標準語と方言の関係
5. コミュニケーション行動
6. 日常会話の分類と分析
7. 発話行為と談話分析
8. 第二言語習得

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

日本語・日本文化講読Ⅱ

山内啓介

【授業の概要】

日本語文献を講読する。

日本文化を読み解き日本文化論の変容について受講生とともに考えたい。

そして日本語の背景にある日本語コミュニケーションと言語文化の諸問題を探究する。

【授業の目標】

現代の視点で、日本文化の捉え方を学習する。

【授業計画】

- 1 日本文化論とは
- 2 日本文化論の変容
- 3 菊と刀——文化人類学から
- 4 特殊性、歴史的相対性
- 5 日本文化の肯定的特殊性
- 6 日本人論と日本文化議論
- 7 日本文化議論のキーワード
 - ① ギリ
 - ② 甘え
 - ③ たて社会
 - ④ 間人主義
 - ⑤ グローバリズム
- 8 文化基盤
- 9 クール・アニメ・若者文化
- 10 日本文化論の流れ

【評価方法】

出席、レポートによる。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社（1990））

【参考文献・資料】

言語と文化についての文献を紹介する。

日本語・日本文化講読Ⅰ

窪田守弘

【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者がその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語のコミュニケーションの実態に併せて若者文化などの関連も理解できるようにする。

【授業の目標】

日本語の構造を歴史と文化の変遷の中でとらえ、各時代別の特色を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実際と応用
4. 標準語と方言の関係
5. 第二言語習得
6. コミュニケーション行動
7. カルチュラル・スタディーズ
8. 若者文化と映像素材（映画・アニメ・マンガなど）

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

日本語史・日本語教育史Ⅰ

山内啓介

【授業の概要】

日本語の歴史は1945年を画期に言語影響を変化させた。

日本語教育の歴史は1980年代に大きく転換期を得る。

日本語と日本語教育の歴史についての認識はわたしたちの日本語を捉える上で重要であることを論じた。

【授業の目標】

日本語および日本語教育の歴史をどう見るかについて学び、言語と教育の接点を理解する。

【授業計画】

次の項について講義し、受講生と議論を深める。

- 1 日本語の歴史
漢文と英語教育
- 2 日本語教育の歴史
戦後とアジア地域
- 3 日本語史と日本教育史
遣唐使派遣から留学生10万人受け入れ政策まで
- 4 歴史から得るもの
日本語教育の普遍性

【評価方法】

レポート60%、出席と参加度40%で評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

日本語教育史

日本語史・日本語教育史Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語の文章・文体は、大きく口語体と文語体に分けられるが、それは平安時代の漢文訓読の試みに始まり、明治の言文一致運動が大きな契機となった。近代では近隣のアジア諸国で行われた国語教育と現在の日本語教育がどのような関係にあったかを分析する。

【授業の目標】

口語文と文語文の歴史と背景を調べ、それが時代の変遷とどのような関係にあるかを学ぶ。

【授業計画】

日本語がどのような歴史的な背景で発展し、現在の日本語に至ったかを調べる。特に、日本語は口語体と文語体の相違が大きい、それはどのような理由によるものかを考える。また、日本語は戦前・戦中・戦後の社会的変動に大きな左右されたが、それが現在の若者の日本語にどのような影響を受けたのかについても歴史と教育の面から分析していきたい。

1. 漢文・漢文訓読法について
2. 和漢混淆文について
3. 談話調・口語体の文章
4. 戦前の国語教育と政策
5. 日本語教育の変遷と歴史
6. 口語文と文語文について
7. 現在の口語文の文法構造
8. 若者の口語文の特色

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

専門演習Ⅰ

松本青也

【授業の概要】

アメリカの言語とその背景文化について、様々な角度から理解を深める。

【授業の目標】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考える。アメリカで高い評価を受けている哲学者や評論家などの思想に触れ、人生、孤独、愛などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して、アメリカ人の基本的な価値観を探る。

【授業計画】

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- (3) 松本ゼミのホームページ作成

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

日本語教育海外研修

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

日本語教育海外研修を9月に、南京師範大学で行う。

日本語教育実習を実施する。

日本語を学ぶ南京師範大学外語学院大の日本語科学生に対して3週間行う。海外での異文化体験、旅行を含めて行われる。

【授業の目標】

日本語教育実習として授業の見学参加、教壇実習する実際に教えることを実践体験する。異文化の中での生活を通して視野を広める。

【授業計画】

日本語教育実習説明会で具体的に通知する。

説明会は3回行い、参加者は説明会で登録届けをする。

【評価方法】

実習指導者の評点と授業記録、教育指導案、そして教壇実習の成果を総合的に評価する。

【テキスト】

日本語教育実習のために

【参考文献・資料】

説明会会場で指示する。

専門演習Ⅰ

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar will examine how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, the students' interests. Each student will be expected to identify a particular context of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

【Course objectives】

- Increase student awareness of globalization
- Provide an understanding of the role of culture in daily life
- Examine the intersection of culture and communication
- Foster an appreciation for international diversity

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

【Assessment】

Class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation each term relating to the selected context of interest will be used to evaluate student progress. During the third year, students will concentrate on writing their senior thesis.

【Textbooks】

A textbook may be assigned in the second year.

専門演習 I

山内啓介

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を学びながら演習受講生の理解と関心を深める。

【授業の目標】

実践的な知識を学ぶ。

【授業計画】

次の項について講義を行う。

- 1 日本語学 (1) コミュニケーションと音声科学
- 2 日本語学 (2) コミュニケーションと音韻論
- 3 日本語学 (3) コミュニケーションと文法・形態論
- 4 日本語学 (4) コミュニケーションと文法・統語論
- 5 日本語学 (5) 日本語と語彙について
- 6 日本語学 (6) 日本語意味論について

次のテーマで受講生と演習を行う。

- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
- 8 日本語コミュニケーションのケース・スタディ
- 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
- 10 日本語学の理論
- 11 日本語教育の実践
- 12 日本語と文化
- 13 インターネット日本語
- 14 日本語研究

【評価方法】

演習におけるプレゼンテーションを評価する。
議論の参加と発言を参考とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目 (三省堂 第2巻世界言語編 1569ページ-1791ページ)

専門演習 I

窪田守弘

【授業の概要】

日本語コミュニケーションについて、特に「談話分析」などの先行研究を概観し、日常生活における日本語の基本的な文型や表現形式をまとめる。その際に、日本映画 (アニメを含む) やテレビ・ドラマのシナリオや字幕などを主な資料として分析を試みる。

また、本ゼミでは「談話分析」という新しい理論を習得し、それを応用して日本語コミュニケーションの教材開発の可能性も研究する。

【授業の目標】

日本語の「談話分析」の基礎的な理論を習得し、コミュニケーションにどう活用できるかを学ぶ。

【授業計画】

日本人の日常生活は自然に行なわれているようであるが、実はそこには多様な必然的なルールがある。その実態を詳しく調べるため多くの会話場面のサンプルを集め、「談話分析」という方法論で考察を進めていく。なお、分析は日本語の文献だけでなくアニメやマンガなども素材として調べていく予定である。

<基礎的な会話分析>

1. 会話とは何か。
2. 会話の順番取りとシステム
3. 会話とトピックの組織化
4. 会話の制度的状況とは何か。
5. 制度的状況と会話分析
6. 会話分析と日本語記述の種類

【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に判断する。

【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

【参考文献・資料】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

馮富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業の目標】

2年生前期の目標は、中国語聴解能力を集中的に伸ばすと同時に、HSK試験の4級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第二冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習 I

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習 I

WRINGER, Paul

【Course description】

This course will attempt to cover some of the many aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and information on the aspects of life in Britain shown below.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. This course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and group work, interviews, and presentations.

【Course objectives】

- To increase student's knowledge and awareness of all aspects of British and Japanese culture.
- To raise student's English language ability levels by practicing the four skills of reading, writing, listening and speaking, as well as improving pronunciation and building vocabulary.

【Course schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period

- WHAT IS BRITAIN?
- CULTURAL DIVERSITY
- CUSTOMS AND HABITS
- EDUCATION
- THE MEDIA

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ATTENDANCE
- HOMEWORK ASSIGNMENTS
- PRESENTATIONS
- PARTICIPATION IN PAIR/GROUP WORK
- SHORT END OF SEMESTER REPORTS

【Textbooks】

No set text. Handouts will be prepared and made available.

専門演習 I

杜英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすこと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業の目標】

2年生前期の目標は、中国語聴解能力を集中的に伸ばすと同時には、HSK試験の4級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用力の養成に重点を移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第二冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

The focus of this course will be to give you a basic introduction to some concepts within sociolinguistics. The emphasis will mainly be on English; however, Japanese will be studied as well. Both English and Japanese will be used in this class.

【Course objectives】

- To provide an introduction to the study of language and society that will serve as the foundation for our later study of discourse analysis.
- To investigate the factors that influence language variation across various contexts.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- introduction to sociolinguistics
- language choice
- code-switching
- language death
- language birth (Pidgins and Creoles)
- dialects
- gender and language
- intercultural communication
- politeness
- "The Hours"

【Assessment】

- Midterm Paper
- Term Paper

【Textbooks】

社会言語学への招待 (田中春美 ミネルヴァ 2004)

【Reference】

社会言語学入門 (東照二 研究社 2006)

専門演習 I

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This seminar will examine Australian language and culture, along with the main situations and events which have influenced it. The emphasis will be on understanding the language and culture of modern Australia.

【Course objectives】

By developing a better appreciation of Australian language and culture it is hoped that the students will have more affinity for Australia and Australian people.

【Course schedule】

A wide range of magazines, newspaper articles, TV shows, DVD documentaries / movies etc. will be used to help the students become acquainted with the language and culture which is uniquely Australian.

Topics to be covered: Australian-Food / Shopping / Facts and Figures / Famous people / Leisure activities etc.

【Assessment】

Students will be required to keep a detailed record (and commentary) of the things that they have learnt (from classes AND their own research). In addition, they will need to discuss / record their opinions.

【Textbooks】

No text required

専門演習 II

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar will examine how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, the students' interests. Each student will be expected to identify a particular context of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

【Course objectives】

- Increase student awareness of globalization
- Provide an understanding of the role of culture in daily life
- Examine the intersection of culture and communication
- Foster an appreciation for international diversity

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

【Assessment】

Class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation each term relating to the selected context of interest will be used to evaluate student progress. During the third year, students will concentrate on writing their senior thesis.

【Textbooks】

A textbook may be assigned in the second term.

専門演習 II

松本青也

【授業の概要】

アメリカの言語とその背景文化について、様々な角度から理解を深める。

【授業の目標】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考える。アメリカで高い評価を受けているジャーナリストや学者などの思想に触れ、職業観、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して、アメリカ人の基本的な価値観を探る。

【授業計画】

2年次後期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) 各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
- (3) 研究小論文の執筆

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習 II

山内啓介

【授業の概要】

専門的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業の目標】

日本語学の各分野、日本語教育の諸問題、日本文化論、日本語コミュニケーションについて各自のテーマを立てて問題追求を行う。

【授業計画】

専門演習Iにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

次の演習を行う。

文献解題

問題点と調査・実験

演習は2回を担当する

プレゼンテーションにはそれぞれ、レジユメを用意する

1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起

2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

【評価方法】

プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特になし。

各自の発表用レジユメ

【参考文献・資料】

授業時に示される。

専門演習Ⅱ

馮 富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすこと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業の目標】

2年生後期の目標は、中国語の会話能力を集中的に伸ばすと同時にHSK試験の5級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習Ⅱ

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

「談話分析」に関する論文の主要なものを資料とし、日本語コミュニケーションの実態を整理する。そして、今日の課題があればそれを分類しながら、学生自らの課題として考察を進めていく。日常会話では無意識に取り上げるトピックや選択手順などが、一定の条件下では、かなり限定的、かつ複雑な言語行動となっている。学生はその現象を的確に把握するために、さまざまな場面を明確に顕在化させるための分析方法論が学べるようにする。演習は学生が主体となり、十分時間をかけて議論や発表ができるように配慮する。

【授業の目標】

実際のコミュニケーションの中で、談話の構造や理論がいかに応用されているかを調べる。その際、映画やアニメといった映像を素材としての分析も試みる。

【授業計画】

日本語コミュニケーションの概念を明確にするため、「談話分析」に関して基礎から応用まで、主な理論と方法論に理解を学ぶ。その際に、外国の文献のみならず日本のマスメディアの資料も参考にしながら、詳しく調べていく。

<発話と行動の分析について>

1. 発話の構成単位と機能
2. 発話行為と展開
3. 発話の基本的スタイル
4. 談話構造
5. 形式と機能
6. 談話分析の方法論上の考察

【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

【参考文献・資料】

演習時に随時紹介する。

専門演習Ⅱ

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習Ⅱ

杜 英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業の目標】

2年生後期の目標は、中国語の会話能力を集中的に伸ばすと同時にHSK試験の5級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習Ⅱ

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

This seminar will focus on introducing you to the field of discourse analysis (談話分析): the study of both written and spoken "text." We will examine how factors beyond language (e.g. culture, gender, ethnicity) influence interlocutors' speech. The class will combine the reading of actual studies (論文), having class discussions, doing class activities, and occasionally viewing films.

【Course objectives】

- To provide an introduction to the field of discourse analysis.
- To acquaint students with different discourse analytic perspectives such as interactional sociolinguistics and Critical Discourse Analysis (CDA).
- To introduce students to some seminal studies in discourse analysis.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- introduction to discourse analysis
- interpreting interruption in conversation
- language and identity
- "The Color Purple"

【Assessment】

- Midterm Paper
- Final Paper

【Textbooks】

None. Just the prints that I distribute.

専門演習Ⅱ

WRINGER, Paul

【Course description】

This course will attempt to cover some of the many aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and information on the aspects of life in Britain shown below.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. This course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and group work, interviews, and presentations.

【Course objectives】

- To increase student's knowledge and awareness of all aspects of British and Japanese culture.
- To raise student's English language ability levels by practicing the four skills of reading, writing, listening and speaking, as well as improving pronunciation and building vocabulary.

【Course schedule】

<Each topic will be covered over a two to three week period>

- THE MONARCHY
- YOUTH CULTURE
- FASHION
- MUSIC
- RELIGION

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ATTENDANCE
- HOMEWORK ASSIGNMENTS
- PRESENTATIONS
- PARTICIPATION IN PAIR/GROUP WORK
- SHORT END OF SEMESTER REPORTS

【Textbooks】

No set text. Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅱ

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This seminar will examine the main situations and events which have influenced the development of Australian language and culture. The emphasis will be on understanding the impact of historical events and people.

【Course objectives】

With the ever-increasing economic links between Japan and Australia, mutual empathy is going to be of even more importance in the future. Students will be encouraged to explore the reasons why Australians think and act as they do.

【Course schedule】

A number of DVD documentaries / movies etc. will be used to help the students become acquainted with the people and events that have historical significance in the evolution of Australia's language and culture.

Topics will include: -The Early Years / The "golden" Age / The Wars / Shameful Times / Unbelievable events.

【Assessment】

Students will be required to keep a detailed record (and commentary) of the things that they have learnt (from classes AND their own research). In addition, they will need to discuss / record their opinions.

【Textbooks】

No text required

専門演習Ⅲ

松本青也

【授業の概要】

アメリカの言語とその背景文化の多様な課題について、学生による研究発表と討議を中心に進めます。

【授業の目標】

アメリカで発表された優秀な論文やTV番組などを通して様々な課題について考察し、調査・研究・発表方法を習得する。

【授業計画】

アメリカで製作されたTV番組や新聞雑誌記事などの英語を資料として分析しながら、その背景にあるアメリカ思想を歴史的な形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から深く掘り下げます。またそうした作業の課程で、インターネットとパソコンを駆使して、さまざまな情報の収集と分析の方法を学び、各自のテーマに沿った研究成果を発表することで、説得力のあるプレゼンテーションの方法も学びます。

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅲ

山内啓介

【授業の概要】

自らのテーマについて演習発表を行う。
プレゼンによる発表と議論をおこなう。
演習Ⅱに続いてテーマを探究する。

【授業の目標】

演習参加者と議論を通して問題解決を知る。

【授業計画】

プレゼンテーションの当番を決めて発表を行う。

【評価方法】

出席、プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特に定めない。
プリント資料配布。

【参考文献・資料】

プレゼンに応じて紹介する。

専門演習Ⅲ

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar examines how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, student interests. Each student will be expected to identify a particular area of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

【Course objectives】

- Provide a broad appreciation of what culture is and how it influences daily life.
- Examine the interaction between culture and communication
- Explore cultural differences in different contexts.
- Gain skills to become a competent intercultural communicator

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

【Assessment】

Class attendance, class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation relating to the selected area of interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

専門演習Ⅲ

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含めいろいろな問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ①学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
- ②人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
- ③各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
- ④先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリントと自作教材

専門演習Ⅲ

窪田守弘

【授業の概要】

学生による課題発表や討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。発表時のレジュメ作成を積極的に進める。

【授業の目標】

学生が言語と文化について総合的な知識が得られるように、「カルチュラル・スタディーズ」の理論と実践行動を体系的に学ばせる。

【授業計画】

日本語やコミュニケーションのさまざまな資料を通して、日本人の言語行動のパターンを学ぶ。特にカルチュラル・スタディーズという観点から、サブカルチャーの受容についてしらべて、各自が発表と討論を通じて日本人の言語と文化観を分析する。

【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

カルチュラル・スタディーズ (上野俊哉・毛利嘉孝著 ちくま新書)

【参考文献・資料】

演習時に随時紹介する。

専門演習Ⅲ

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習Ⅲ

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅲ

杜 英起

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含め様々な問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ①学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
- ②人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それによって学生をいくつかのグループに分ける。
- ③各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
- ④先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学)

専門演習Ⅲ

WRINGER, Paul

【Course description】

Review and further in depth study of various aspects of British language and culture with a comparison to similar aspects of Japanese culture.

【Course objectives】

- To consolidate and review previous topics.
- To further introduce students to different aspects of British and Japanese culture.
- To develop and practice the four skills of reading, writing, listening and speaking.

【Course schedule】

The following topics will be covered over a two to three week period :

- Multicultural faiths
- British and Japanese fashion
- The British Royal family and Japanese Imperial family
- English language

【Assessment】

Grades will be determined from the following :

- Attendance
- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair/group/whole class activities

【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅳ

松本青也

【授業の概要】

グループによる研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考える。

【授業の目標】

様々な課題について考察しながら、研究テーマを発見し、英語による発表能力を高める。

【授業計画】

各自の研究テーマについて、英語による研究発表（メディアを駆使した本格的なプレゼンテーション）を中心に、現代アメリカ英語と文化のさまざまな課題を取り上げます。

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅲ

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

This seminar will continue to focus on discourse analysis, however, we will gradually turn our focus to the study of narrative: personal accounts/"stories" that people tell. While we be adopting a linguistic perspective, non-linguistic factors such as gender and culture will also inform our analysis.

【Course objectives】

- To introduce the concept of narrative.
- To investigate the various factors that influence people's narratives.
- To investigate the discursive construction of identity in Holocaust narratives.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- narrative analysis
- Holocaust narratives
- "The Story of Us"

【Assessment】

- Midterm Paper
- Term Paper

専門演習Ⅳ

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar examines how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, student interests. Each student will be expected to identify a particular area of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

【Course objectives】

- Provide a broad appreciation of what culture is and how it influences daily life.
- Examine the interaction between culture and communication
- Explore cultural differences in different contexts.
- Gain skills to become a competent intercultural communicator

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

【Assessment】

Class attendance, class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation relating to the selected area of interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

専門演習Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業の目標】

演習参加者と議論を通して問題解決を知る。

【授業計画】

専門演習Ⅲにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて、自らの研究テーマを探究する。次の演習を行う。

プレゼンテーション
レポート・論文を作成する。

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をみて、総合的に評価を行う。

【テキスト】

発表用資料。
日本語学・日本語教育の論文、専門書。

【参考文献・資料】

プレゼンに応じて紹介する。

専門演習Ⅳ

窪田守弘

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。レジメ作成から論文の原稿への導入を図るため、資料を十分に読みこなす力を養う。

【授業の目標】

次年度プロジェクトに向けて、毎時間学生の発表に教員が指導する中で、自分の研究テーマを絞り準備していく。

【授業計画】

プロジェクト作品を作成する中から疑問点をいくつか選び、それが完成するまでの過程を計画的に実行する。そして、各自が設定したテーマについて個人発表して、内容を充実させる。

1. 日本語の文法
2. 日本語の文章
3. 日本語の構造
4. 日本人の発想と国際感覚
5. 日本人の言語観と伝統文化
6. 言語行動とコミュニケーション

【評価方法】

提出レポート、出席状況などで評価する。

【テキスト】

日本語練習帳（大野晋著 岩波新書）

専門演習Ⅳ

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含めいろんな問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。また HSK 初中等試験の 6 級か 7 級を取ることも狙っている。

【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取り組んでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

- ①各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
- ②研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
- ③各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリントと自作教材

専門演習Ⅳ

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric. Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅳ

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習Ⅳ

WRINGER, Paul

【Course description】

In this section of the course, topics already studied will be reviewed through group discussions, short reports, and presentations. In addition there will be further in depth study of different aspects of British and Japanese culture.

【Course objectives】

- To consolidate and review previous topics.
- To further introduce students to different aspects of British and Japanese culture.
- To develop and practice the four skills of reading, writing, listening and speaking.

【Course schedule】

The following topics will be covered over a two to three week period :

- The British way of life today
- Health and welfare
- Occupations and the economy
- Britain and the wider world

【Assessment】

Grades will be determined from the following :

- Attendance
- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair/group work and whole class activities

【Textbooks】

No set text.

Handouts will be provided and made available.

専門演習Ⅳ

杜 英起

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含めいろいろな問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。またHSK初中等試験の6級か7級を取ることも狙っている。

【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取り組んでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

- ①各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
- ②研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
- ③各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学)
自作教材

専門演習Ⅳ

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

This course will continue to focus on discourse and narrative analysis. Through the reading and discussion of Tannen's "You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation," we will consider the influence of conversational styles on communication.

【Course objectives】

- To introduce the concept of "conversational style" (Tannen, 2005).
- To critically analyze conversational style's affect on communication.
- To investigate the interrelationship between conversational style and other factors such as gender and ethnicity.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- men and report talk
- women and rapport talk
- conversational style and ethnicity
- "My Cousin Vinny"

【Assessment】

- Midterm Paper
- Final Paper

【Textbooks】

You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation. Harper : (Tannen, D. New York. 2001.)

【Reference】

Conversational Style: Analyzing Talk Among Friends. Oxford : (Tannen, D. Oxford University Press. 2005.)

異文化コミュニケーション

高井次郎

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業の目標】

授業目標は、1) コミュニケーションの過程における文化の影響の理解、2) 言語および非言語コミュニケーションの役割と文化的相違性の理解、3) 異文化接触を通じて獲得できる自己成長要因の理解、4) 異文化接触がもたらす弊害の理解、5) 自文化中心性の仕組みの理解とその解消、および6) 異文化コミュニケーション能力の獲得である。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

比較文化論Ⅱ (日・欧)

山井徳行

【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。2005年度はトルコ加盟に関して議論があった。

【授業の目標】

ヨーロッパの多様性に内在する共通性を把握し、日本と比較することによって世界を見る複眼的視点を獲得すること。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 第1週 | 授業のやり方や準備の仕方を説明する。 |
| 第2～4週 | 日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。 |
| 第5～7週 | ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。 |
| 第8～10週 | 具体的なヨーロッパの国々と生活。 |
| 第11～12週 | 日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。 |
| 第13～15週 | 整理とまとめ。 |
- 2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。2005年度は特になかったが、もし今年度、関連する事件が起こればその時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Point を使って授業をする予定です。

【評価方法】

発表（またはレポート）と定期試験の結果で行う。

【テキスト】

特になし。プリントを配布。

【参考文献・資料】

- 沈黙のこぼれ (エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)])
英語と日本人 (太田雄三著 講談社学術文庫)
「ことばと文化」「教養としての言語学」(鈴木孝夫著 岩波新書)
福翁自伝 (福沢諭吉)

比較文化論Ⅰ (日・米)

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識し、異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

比較文化論Ⅲ (日・アジア)

尹大辰

【授業の概要】

(概要) アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治 までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

前半は日本と中国、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業の目標】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、韓国や中国の文化習慣を多面的に紹介する。

【授業計画】

1. 中国大陸、朝鮮半島、日本列島の地理的關係
2. 韓国と中国の祝日と風俗習慣
3. 日・韓・中漢字比較
4. 言語表現から見た文化比較
5. 朝鮮半島の自然と文化・風土
6. 韓国の家族制度と姓・本貫
7. 韓国の社会生活から見た文化比較
8. 日本の中の渡来文化
9. 陶磁器文化の礎
10. 江戸時代の朝鮮通信使から見た文化交流の意義
11. 雨森芳洲から学ぶ文化交流の意義
12. 日韓文化交流の意義
13. まとめ

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金兩基監修図説「韓国の歴史」(河出書房新社)

比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解することが不可欠な存在となっている中東イスラーム世界について、イスラームの教義や政治社会の成り立ち、現代のイスラーム復興、国際政治という多角的側面からアプローチする。事例としては前近代において西洋世界を凌駕する文明を築いたオスマン帝国と現代中東の地域大国であるトルコを中心に取り上げる。

【授業の目標】

現代のイスラーム世界に関する情報やイメージはテロや抑圧に関するものが圧倒的であり、それがイスラームやムスリムに対する偏見やステレオタイプを増殖させている。この授業では、現実のイスラーム世界で生じているダイナミズムの多様な意味や可能性を学び、一面的情報に接した際にも、その背後のダイナミズムを読み解く力をつけることを目指す。

【授業計画】

1. イスラーム世界を見る目
*我々に潜むオリエンタリズム
2. イスラームの教義と文明
*イスラームとは何か
*オスマン帝国の繁栄：多民族多宗教の共存システム
*西洋近代の台頭とオスマン帝国の崩壊：世俗化と国民国家化
*近代日本とオスマン帝国
3. 現代のイスラーム復興
*イスラーム復興運動とは何か
*イスラーム復興と女性
4. 国際政治とイスラーム
*ヨーロッパとイスラーム
*冷戦後のイスラーム世界とアメリカ

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

オスマン帝国・イスラーム世界の「柔らかな専制」（鈴木董 講談社現代新書 1992年）
イスラームとは何か（小杉泰 講談社現代新書 1994年）
イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書 1991年）
その他、授業中に適宜指示する。

ビジュアルコミュニケーション

後藤倬男

【授業の概要】

視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まってきている。本講では、人の視覚が「いかに人の側の条件に依存しているか」を論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

【授業の目標】

「ビジュアルコミュニケーション（VC；視覚情報伝達）」の様々な現象を通して、「形」と「色」が「VC」の重要な担い手になっていることを詳しく解説し、「VC」の理解が、われわれの心理的なコミュニケーションにきわめて有効な知見をもたらすことを実証する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション（授業内容の説明）
- 2 ビジュアルコミュニケーションの意味について
- 3 視覚情報受容（視覚）の生理的基礎
- 4 視環境（視覚情報の発信・受信空間）の成立
- 5 視環境の基点（輪郭）
- 6 視環境の反転（図と地）
- 7 視環境のまとまり（形）
- 8 視環境の広がり（奥行き）
- 9 視環境の安定性（恒常現象）
- 10 視環境の振れ-1（形の錯視）
- 11 視環境の振れ-2（色の錯視）
- 12 視覚情報の統合（視覚モデル）
- 13 ビジュアルコミュニケーションの意義と利用

【評価方法】

期末には、ペーパーテストを行う。また、授業への意欲的な出席を重視し、授業時間に行ったショートレポートを評価に加える。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

ビジュアルコミュニケーション（藤沢英昭他著 ダヴィッド社）
ビジュアル・コミュニケーション（R.A.ワイルマン他著 北大路書房）

比較文化論Ⅴ（日・中）

杜英起

【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化（民居、庭園）、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探究する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

【授業の目標】

日中文化の共通点と相違点をよりよく理解し、違いを乗り越えて真の友好関係を築くために自分が何をすればよいかを考える力を身につけてもらうことが目標である。

【授業計画】

1. 花の文化について
2. 色の文化について
3. 動物の文化について
4. 数字の文化について
5. 建築の文化について
(1) 北京の民居・胡同
(2) 中国の四大名園の紹介（主として頤和園と拙政園を紹介する）
(3) 万里の長城
(4) 日本の建築
6. 漢字と文化
7. 中国の儒教、儒教による日本への影響

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

日中比較文化論（出版社 マナハウス）

マスメディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

新しい情報メディアが次々出現してくる状況のなかで、「もうマスメディアの役割は終わった」という声も聞かれるが、現実の社会生活のなかでのマスメディアの世論への影響力はむしろ強まっているように思われる。一方で、マスメディアは政治や経済と同じようにグローバル化の波に飲み込まれつつある。この講義はそうした現在のマスメディアの状況のなかでも、ジャーナリズム性という点に焦点を当てて、歴史的な考察もまじえながら、現在、未来のマスメディアのあり方について具体的に考える。

【授業の目標】

放送と通信の融合という現状をふまえ、既存のマスメディアにおけるジャーナリズムの動向を探る。

【授業計画】

- (1) 「ジャーナリズムとは何か」について歴史的に考える
- (2) マスメディア（マスコミ）とジャーナリズムの関係について
- (3) 世論とは何か、世論とマスメディア、ジャーナリズムとの関係
- (4) マスメディア、ジャーナリズムと民主主義
- (5) マスメディアはなくなってもいい、という議論について
- (6) 各国で現れてきているオルターナティブ（対抗的）メディアとはどんなものか
- (7) グローバル化はマスメディアにどんな影響を及ぼしているか
- (8) マスメディアの将来を考える

【評価方法】

数回出題するレポートと期末のテスト結果で判定する。出欠は受講者の人数に応じて考える。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業のなかで適宜資料を配付し、参考文献も紹介する。

リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク（事故・災害・犯罪・環境・食・医療）に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学からの視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

【授業の目標】

将来、自分の生活の中で大きなリスクが降りかかってきたときに困らないように、現代社会におけるリスクの特徴を理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. まとめ

【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

コミュニケーション障害論

西村辨作

【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となって合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連付けて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

【授業の目標】

1. コミュニケーションの障害について理解する。
2. コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考える。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------|
| 第1回 | コミュニケーションについて |
| 第2回 | 人間の言語行動の特徴 |
| 第3回 | 子どもの発達障害 |
| 第4回 | 認知発達のみちすじ |
| 第5回 | 心理社会的な成長 |
| 第6回 | 知的障害 |
| 第7回 | 自閉症 |
| 第8回 | 障害児を持つ家族 |
| 第9回 | 軽度発達障害 |
| 第10回 | 構音障害 |
| 第11回 | 失語症 |
| 第12回 | 聴力障害 |
| 第13回 | 記憶障害 |
| 第14回 | 補助代替コミュニケーション |
| 第15回 | 予備日 |

【評価方法】

障害児・者が主人公の映画（ビデオ）の鑑賞感想文。指定ビデオは授業の中で通知する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜配布する

言語への認知的アプローチ

増田尚史

【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、認知科学のおよび認知心理学的な観点から検討を加える。特に、言語行動を支える脳と心的表象（mental representation）について考察する。さらに、言語行動の社会的意味についても考える。なお、方言や敬語に関する社会学的および社会言語学的考察については、本講義の対象としないので、履修にあたっては考慮されたい。

【授業の目標】

本講義の目標は、われわれ一人一人の日々の言語活動がどのようなモノ（脳）とコト（心的表象）とに支えられているかを修得し、われわれをとりまく言語環境がいかなるものであるのかを再発見してもらうことにある。

【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語の獲得
3. 言語行動と記憶活動
4. 言語行動を支える脳部位と失語症
5. 心的辞書
6. 言語とコミュニケーション
7. われわれをとりまく言語環境

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

【評価方法】

レポートの成績（80%）と、授業への出席および調査等への参加協力の程度（20%）とによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

比較文化特論

山井徳行

【授業の概要】

日本とフランスを比較する。日本人とフランス人の一生を比較しながら展開する。出生・子供時代・教育・退職後の生活などなど、人生の具体的な一こま一こまを通して日本文化とフランス文化を比較してゆく。また、フランスの社会・地理・文化的多様性を語ることも、おのずと日本との比較になると考えるので、具体的なフランスの生活風景を提示して考察したい。

【授業の目標】

具体的な生活のなかに文化的な相違を見つけて、抽象的な文化比較をする能力を涵養すること。

【授業計画】

パワーポイントを使った授業になります。フランスのテレビニュースをビデオで紹介しながら、フランスの現在も紹介する。

1. 授業のやり方や準備の仕方を説明する。
2. 誕生・出生率・国籍・子供時代
3. 大学生活・友情・愛情
4. 仕事・余暇
5. 同棲生活・結婚・離婚
6. 家族・社交・人生の楽しみ
7. 社会問題
8. 衣食住に見る文化財・芸術
9. 第二の人生・人生の幕
10. 地方の風土と文化
11. 総括・人生を豊かにするために

【評価方法】

レポートと定期試験で行う。

【テキスト】

特になし。プリント配布。

【参考文献・資料】

ビゴーが見た日本人（清水勲著 講談社学術文庫）
コレアン・ドライバーはノリで眠らない（洪世和（ホンセファ））
フランス語で広がる世界（日本フランス語教育学会編）

ノンバーバル・コミュニケーションⅠ

野口朋香

【授業の概要】

この授業では、私達が意識的・無意識的に行うコミュニケーションのプロセスの中で、非言語コミュニケーションがどのような役割を果たしているかについて具体的な例を挙げながら考察します。

【授業の目標】

非言語コミュニケーションの基礎知識を習得し、その重要性を理解する。

【授業計画】

Introduction：ノンバーバル・コミュニケーションとは
Aspects of nonverbal communication
Body movements and gestures
Facial expression & eye behavior
Territoriality & personal space
Touching behavior
Time
The voice and vocal expression
Clothing as Communication & Personal Artifacts as communication
Environmental influences on communication

【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

中国語科教育法Ⅰ

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業の目標】

中国語科教育の歴史、現状、課題などを総合的に学習することによって、中国語科教育について理解を深める。

【授業計画】

- 1、中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
- 2、中国語科教育の目標を設定する。
- 3、中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）
 - (3) 各学習期間区分の到達度
- 4、教育方法について
 - (1) 教授法の歴史（中国）
 - (2) 教授法の歴史（日本）
- 5、問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
- 6、改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

ノンバーバル・コミュニケーションⅡ

野口朋香

【授業の概要】

この授業では、私達の日常の対人コミュニケーションのしくみを学び、その中で重要な機能を果たしている非言語コミュニケーションの諸相を探ります。

また、分担発表により基本的な文献や論文を読みながら、ノンバーバルコミュニケーションに関する理解を深めていきます。

【授業の目標】

課題としてのプロジェクトに取り組みながら、身近なノンバーバルコミュニケーションについて理解するだけでなく、リサーチの意義やリサーチ方法をも学ぶ。

【授業計画】

この授業では、授業中の実験や課題を通じて、自分で実際に観察、経験することを重視し、授業への貢献を期待します。

また、音調学 (vocalics)、対物学 (objectics)、接触学 (haptics)、動作学 (kinesics)、嗅覚学 (olfactics)、近接学 (proxemics)、時間学 (chronemics) などの見地から、私達をとりまくノンバーバルコミュニケーションについてグループでリサーチし、その結果についてディスカッションを行います。

【評価方法】

授業参加および発表・レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

中国語科教育法Ⅱ

王麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

中国語の特徴、指導方法などを理解した上で、各自で指導案を作成し、模擬授業をして、中国語教育の在り方を模索する。

【授業計画】

- 1、外国語の教育理論
- 2、外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
- 3、中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 4、高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 5、指導案の構成
- 6、指導案の作成指導
- 7、各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅲ

馮 富榮

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、どういった内容の教材を使えばよいのか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本の大学における中国語教育のあるべき姿について考える力を身に付けることが期待される。

【授業計画】

1. 従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
2. 会話能力を高めるための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
3. 学習意欲を燃やすための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 学生を認めるための工夫
4. 上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
5. グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
6. 授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

中国現代事情

杜 英起

【授業の概要】

80年代に、中国は、経済改革、開放路線を打ち出して以来、大きな社会的な変貌を見せてきている。とくに、教育制度、教育のあり方、そして現代の生活様式、消費観念、及び政治と経済など多面にわたって、画期的な変化が起こっている。しかし、日本は中国の隣国でありながら、中国のそうした激しい変化が一般的な日本人にあまり知られていないようである。本講義では、主として中国の現代教育、経済と政治などの現状を紹介する。

【授業の目標】

中国の政治、経済及び中国人の生活など、中国の現代社会に関する幅広い得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 中国の教育
 - (1) 教育制度
 - (2) 教育の現状(新しい試みと問題点)
 - (3) 教育改革の行方
2. 中国の経済
 - (1) 国営企業の現状
 - (2) 個人企業の現状
 - (3) これからの中国経済に関する展望
3. 中国の政治
 - (1) 政治制度
 - (2) 行政区分
4. 中国現代社会
 - (1) 現代中国人の生活状況
 - (2) 消費観念の変化
 - (3) 現代中国人の価値観

【評価方法】

レポートと出席率で評価する

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅳ

馮 富榮

【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新的な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、学生の視点に基づき、また学生のアイデアを生かすことのできる斬新的な中国語のメディア教材が誕生することが期待される。

【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なのか、またどんなものがよいのかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自で作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

研究方法論

高井次郎

【授業の概要】

言語コミュニケーションのテーマにおける研究を実施するための基礎的な知識と、さまざまな研究手法を取り上げる。コミュニケーション・スタイルの性差の検討法、非言語コミュニケーションの実験観察法、集団作業におけるコミュニケーション・パターンの検討法、テレビ番組の内容分析法などの具体例を紹介しながら、受講者の卒論に向けて必要な研究ツールの獲得を目指す。さらにレポートや研究報告の書き方についての指導も行う。

【授業の目標】

授業目標は、1) 研究を実施するための基礎的な知識の獲得、2) 研究目的および仮説の設定法の理解、3) さまざまな研究方法の紹介とその実施法についての教授、4) データのまとめ方と研究報告書の書き方の指導である。

【授業計画】

1. 研究とは何か
2. 研究の企画および計画の立て方
3. 研究法の種類とそれぞれのメリット・デメリット
4. 実験法
5. 観察法
6. 調査法
7. 内容分析法
8. データのまとめ方
9. 報告書の書き方
10. 研究実施のための倫理的配慮

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

社会心理学研究入門(末永俊郎著 東京大学出版)

統計学Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、確率論および統計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

【授業の目標】

統計学の応用能力の習得

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的および授業計画の提示
 - 第2回～第6回 確率論
 - 第7回～第11回 統計学の基礎的概念の解説
 - 第12回 補足とまとめ
- また、随時Excelの利用訓練を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

統計学Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学および推計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

【授業の目標】

統計学の応用能力の習得

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的および授業計画の提示
- 第2回～第4回 統計学の基礎的概念の解説
- 第5回～第8回 推計学の基礎的概念の解説
- 第9回～第11回 言語コミュニケーション学に関係の深い統計学、推計学の応用問題の解説
- 第12回 補足とまとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

応用言語学特殊講義Ⅰ

外池俊幸

【授業の概要】

この講義では、脳科学、計算機科学、哲学、数学、心理学などとの学際的な研究領域としての認知科学、その一部としての言語研究を、関連する領域の成果と共に学ぶ。Ⅰでは、認知科学の観点からの言語研究の歴史をたどる。

【授業の目標】

1950年代以降研究が行われてきた広い意味での認知科学の中に言語学がどう位置付けられるかの要点を理解すること。

【授業計画】

- 1 言語学がどういう研究領域であるかを概観する
- 2 認知科学の歴史を概観する

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を通読してから受講することが望ましい。

【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 (中島平三・外池滋生編著 大修館書店)
- 2 認知心理学 (守一雄著 岩波書店)
- 3 認知心理学 全5巻 (東京大学出版会)
 - 1 知覚と運動
 - 2 記憶
 - 3 言語
 - 4 思考
 - 5 学習と発達

応用言語学特殊講義Ⅱ

外池俊幸

【授業の概要】

この講義では、Ⅰと内容を分け、認知科学の言語に関する領域の研究の歴史を概観し、その後、認知科学的な言語研究の最新の成果・動向を取り上げて、その問題点、今後の課題だと考えられる事柄を論じる。

【授業の目標】

私たちが情報をどのように処理しているのかを、言語を中心に具体例からその要点を学ぶこと。

【授業計画】

応用言語学特殊講義Ⅰを受講していることを前提に、それに引き続き、次の順に講義を行う。

- 1 認知科学としての言語研究がどういうものなのかを、いくつか具体的なトピックを取り上げて考える
- 2 言語だけでなくひろく人間に関する研究の将来について考える

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を読んでおくこと。さらに興味のある人は、文献3の各巻の目次をみて、興味のあるところを読んでみるとよい。

【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 (中島平三・外池滋生編著 大修館書店)
- 2 認知心理学 (守一雄著 岩波書店)
- 3 認知心理学 全5巻 (東京大学出版会)
 - 1 知覚と運動
 - 2 記憶
 - 3 言語
 - 4 思考
 - 5 学習と発達

Writing and Presentation III・IV

GREENE, Scott R.

【Course description】

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

【Course objectives】

This class aims to improve students' ability to research, organize and write academic articles and their ability to give presentations.

【Course schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Communication Strategies IV

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to argument and debate.
2. To improve the students' ability to prepare and present arguments in a debate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

Communication Strategies III

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to argument and debate.
2. To improve the students' ability to prepare and present arguments in a debate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

中国語学 I

周 素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

【授業の目標】

中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルールまたは、中国語学の基礎知識を身につけること。（詳細は授業にて解説する）

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。授業は、学生による輪読という形式であるので、学生を主体とする展開となる。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点と出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

中国語学Ⅱ

周素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。さらに、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

【授業の目標】

中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点について分析して、一人一人にいろいろな疑問にぶつかって討論して、少しでも役に立つすること。(詳細は授業にて解説する)

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。さらに、日本人が中国語を学習するとき、どこで、どのような問題を抱えるのか、それを解決するためには、どのような教授法を取ればよいのかなどについても議論する予定である。よって、卒論が書きたい学生にぜひ薦める授業である。

【評価方法】

学年末にレポートに平常点を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

日本語特殊講義Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

最近、日本人でありながら過去の時代古い文献が読めなくなっている。そこで、明治の著名な作品のを通して、生の原文に触れるようにする。明治や明治以前のもは漢文力がなければ、なかなか原書で読めるものではない。そこで、ときには現代語訳によってその著者の凡その考えを理解するようにするが、学生が特に苦手とする漢文の読解力を身につけるようにしたい。

【授業の目標】

日本語の文献で学生の関心のある資料に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。特に、漢文の資料は、少なくとも分担した部分が原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

日本語の漢文の資料を中心に読解を心がける。本講義はこれまでの日本語関連の知識をもとに、日本人の弱点となっている漢文読解力をつけるために、いくつかの資料をじっくり時間をかけて読むようにする。

【評価方法】

授業時の発表、レポートの内容、出席状況などで評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

日本語特殊講義Ⅰ

山内啓介

【授業の概要】

日本語教材の研究をすすめる
インターネット上の日本語教育用資料を活用し、ホームページに学習用、研究用のサイトを公開する

【授業の目標】

ホームページを作りながら日本語の新研究について実践する。

【授業計画】

インターネットの基礎
ウェブサイトの作り方
ホームページ利用の日本語学習
日本語教材の新研究を実践

【評価方法】

日本語教材の作成を評価する。

【テキスト】

ウェブサイトにあるコンテンツなど。

【参考文献・資料】

ホームページを作る材料などを資料とする。

日本語教育実習

山内啓介

【授業の概要】

具体的な日本語の授業を見学参加して、教育指導案に基づいて授業実習を行なう。

【授業の目標】

日本語教育の現場で見学参加を行う。
必要に応じて、教壇実習を実践する。

【授業計画】

本年は教育実習を留学生別科にて実施する。
授業実習講義を10月第2週に予定する。
(掲示で日時を指示)
実施時期は10月第4週から11月第2週までの間に行う。
(具体的に予定を組む)
実習にあたっては事前の準備を始め、見学・参加・実習のステップを通して学習する事柄が多いので、受講生は真剣に取り組んで欲しい。

【評価方法】

事前・事後の学習の態度、実習の参加度を評価する。
レポートを課す。

【テキスト】

みんなの日本語(スリーエネットワーク)

【参考文献・資料】

教科書に基づいた参考書、練習問題、辞書など。

ビジネス・コミュニケーション

小池弘道 大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスとは何かということについての基礎的内容とコミュニケーションがビジネス社会でいかに重要なかを解説する。そして、コミュニケーションの不充分さから起きたトラブルの事例を踏まえ、コミュニケーション能力・知識を高めるための具体的内容について説明する。

【授業の目標】

ビジネスとは何かということについての基礎知識を持ってもらうと共に、コミュニケーションの大切さと必要とされる能力・知識を理解する。

【授業計画】

12回のうち6回を小池弘道、残り6回を大塚英揮が担当する。

小池弘道担当：

コミュニケーションの不足で起きるトラブル

コミュニケーションの取り方と限界

ビジネス社会でのコミュニケーション

国際社会でのチャレンジの仕方～郷に入って、郷に従う

大塚英揮担当：

企業間のコミュニケーション～流通を例にして

企業と消費者のコミュニケーション～マーケティング・コミュニケーション

企業と社会のコミュニケーション～エコマーケティング

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない（必要に応じて資料配付）

【参考文献・資料】

日本の常識はどこまで通じるか（ジョリー佐々木幸子、小池弘道 風媒社）

モジュール

福本明子 藤井正志 三浦克人 森下允之 諸上茂光 吉村文雄

【授業の概要】

ビジネスに関する基本概念、仕組を学習し、受講者相互のコミュニケーションを通して、自己の考えを自発的、創造的にまとめ、効果的に発表する態度を育成する。

【授業の目標】

ビジネスに欠かせない経済・金融・会計を含む幅広い分野についての関心を高め、新聞・雑誌などを読むように仕向け、ビジネス学部の学生としての自覚をもたす。

【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野についての全体的な理解を得られるように、担当教員が基本的なことから説明する。

【評価方法】

出席状況および理解度テストによる。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

ビジネスマナー

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

【授業の目標】

企業活動におけるビジネスマナーの意味を理解し、組織人としてのコミュニケーションスキルを実践的に獲得する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 職業とビジネスマナー

第2回 企業の存立意義

第3回 経営組織について

第4回 仕事の基本原則とすすめ方 ～マネジメント・サイクル～

第5回 職場の人間関係とコミュニケーションの理解

第6回 職場における話し方、言葉づかい

第7回 対人接遇の基礎（1） ビジネス基本行動、来客対応

第8回 対人接遇の基礎（2） 訪問のマナー、紹介の原則

第9回 対人接遇の基礎（3） ビジネス電話のマナーと実際

第10回 ビジネス文書の作成（1） 文書作成のポイント、社内文書

第11回 ビジネス文書の作成（2） 社外文書、E-mail

第12回 ファイリングの基礎知識

第13回 会議の知識

第14回 慶弔と贈答の心得

第15回 試験

【評価方法】

出席状況・課題・期末試験などによって総合的に評価する。

【テキスト】

社会人のパスポート（東福賢監修 嵯峨野書院）

異文化トレーニング

福本明子

【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々が共に生活し、問題を解決するために必要な知識・態度・コミュニケーションの習得の為にどのような訓練が有効か、ロールプレイやシミュレーション等を体験しながら任意のトレーニングを立案・実施できるよう訓練する。異文化コミュニケーションⅠを履修又は同程度の知識を有すること。

【授業の目標】

トレーニングの立案・実施を学習することを目的とします。

【授業計画】

異文化コミュニケーションⅠで学習する基礎概念を元に、以下のテーマに沿って異文化トレーニングについて学習します。

1. 異文化コミュニケーションの発展と前提
2. 「文化」「トレーニング」とは
3. 「大人の学習者」「学習スタイル」
4. トレーニングの立案
5. トレーニング技術、聴衆分析
6. トレーニングの評価
7. トレーニングの実施

【評価方法】

出席率、課題、授業中のディスカッションへの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子、町恵理子、小池浩子、磯貝友子 三修社）

異文化間コミュニケーション入門（西田ひろ子 編 創元社）

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子 監修 三修社）

異文化コミュニケーション I

ジョリー幸子

【授業の概要】

日本は21世紀のボーダレス社会において、工業大国と呼ばれながらも、外交や貿易取引、あるいは海外への多額の経済援助にも拘わらず、コミュニケーションの分野でややもすると誤解を受けたり、「顔」が見えないなどの批判を受けている。日本はなぜ世界から理解されないのか？ 当コースでは「多文化共生時代」を生きる学生と共に、異文化間でのコミュニケーションのあり方を模索、探求することを目的とする。

【授業の目標】

海外に在住する多文化を生きる人々の生活習慣、価値観、日常の行動で特に日本人学生に理解し難い要素を、日英両語の資料を使い国際感覚を育成する。

【授業計画】

- 1週 Orientation
- 2週 Greeting
- 3週 Making Contact
- 4週 Dressing
- 5週 Moving and Touching
- 6週 Chatting
- 7週 Choosing Your Language
- 8週 Midterm Exam
- 9週 Eating and Drinking
- 10週 Gift-giving
- 11週 Time-keeping
- 12週 Working Together
- 13週 Visiting Homes
- 14週 Final Exam
- 15週 Extra class

【評価方法】

中間、期末試験、出席率、授業への参加状況などを総合的に評価判断する。

【テキスト】

Kiss, Bow, or Shake Hands (Richard Powell, Macmillan LanguageHouse, 1994.)

【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子他 三修社 1998.）

モジュールIII・IV

吉村文雄 林 誠 三浦克人 諸上茂光

【授業の概要】

モジュールI IIを踏まえて、ビジネス分野の基本知識習得をさらに高め、意欲的に、自ら進んで課題に取り組む態度を育成する。

【授業の目標】

ビジネスに欠かせない経済・金融・会計を含む幅広い分野についての関心を高め、新聞・雑誌などを読むように仕向け、ビジネス学部としての自覚をもたす。

【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野について担当教員がそれぞれの視点からさまざまなテーマを取り上げる。

【評価方法】

出席状況および理解度テストによる。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

比較文化論 I (日・米)

鈴木哲至

【授業の概要】

日本とアメリカの文化を比較をするとき、表層のみならず深層文化へ思いをめぐらし考察することにより、日米の人々の意識の違いが浮き彫りになってくるに違いない。この授業では日本とアメリカの文化の中で、変化しつつあるものとそうでないものを見つめながら、深層にある隠れた文化をつきとめる試みをする。

【授業の目標】

様々な文化人類学的切り口を通して日米文化を比較することにより、内と外から見た日米深層文化の客観的な捉え方を認識することを目標とする。また課題を通して新聞の批判的な読み方、文章の要約の仕方にも身に付ける。

【授業計画】

アメリカ文化関連新聞記事の切り抜きの発表、課題の文献（英語）の要約の発表の後、講義、討論などにより、毎回のテーマの考察をする。また、美しいビデオ映像などにより、視覚的にも日米文化の比較を楽しみながら授業を進める。

パート 1 文化の基盤

1. 文化の型
2. 自然環境
3. 宗教
4. 政治

パート 2 文化のスナップショット

5. 権力
6. 時間
7. 多様性
8. 性意識
9. 新聞

パート 3 変わりゆく価値観

10. 買い物とビジネス
11. 新しい家族
12. 新しい学生
13. 新しい働き手

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、その他を総合的に評価する。

【テキスト】

日本とアメリカー深層文化へのアプローチ (Paul Stapleton 著 金星堂)
夢のアメリカ合衆国探訪 (Timothy Kiggell 著 マクミラン・ランゲージハウス)

経済学概論

石坂綾子

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業の目標】

経済のしくみや市場の本質を知ることによって、社会とのかかわりや世の中の動きについて理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 市場経済システム
3. マーケットメカニズム
(1) 需要と供給
(2) 規制と保護による損失
4. 社会主義の失敗
5. 金融仲介機能
6. 株式会社
7. 競争社会の光と影
8. 所得の決定
9. 市場の失敗
10. 大不況を克服する方法
11. グローバルエコノミー
12. 貿易黒字の発生
13. 日本型システムの崩壊

【評価方法】

中間試験と期末試験の成績によって評価する。2つの試験の評価比率は、50%ずつである。

【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

【参考文献・資料】

痛快!経済学 (中谷 巖著 集英社インターナショナル/集英社文庫)

マクロ経済学

村上敬進

【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

【授業の目標】

本講義は、入門科目として、マクロ経済学の基礎を理解し専門科目のマクロ経済学を勉強する準備をすることを目標とする。

【授業計画】

1. マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
2. マクロ経済学と日本経済
3. GDP
4. 消費と貯蓄
5. 企業の投資
6. 政府の支出
7. 総需要の経済学

【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学 (家森信善著 中央経済社)

【参考文献・資料】

基礎からわかるミクロ経済学 (家森信善・小川光著 中央経済社)

ビジネス概論Ⅰ

市古 勲

【授業の概要】

我々の生活は企業無しではもはや成り立たない程、企業と深い関係がある。本講義では、ビジネスの中心である企業および企業が抱える問題の全体像を理解することを目的とする。まず企業とはどのようなもので、どのような活動をしており、各々の企業が、どのような構造・形態をしているのかを取り上げる。次に企業は誰のため、何のためにあるのかという、コーポレートガバナンス（企業統治）の視点から企業を分析した上で、企業の社会的責任や社会貢献の問題についても取り上げる。

【授業の目標】

現代社会における企業の現実を分析するための枠組みを受講生に提供することが、本講義の目標である。これによって、企業の諸活動とその社会に及ぼす影響を、各受講生が自分自身の問題としてリアルに知覚できるようになることを望んでいる。

【授業計画】

1. ガイダンス—講義の進め方、企業とは何か—
2. 企業観—企業の見方—
3. 企業の分類（1）—企業規模、公企業と私企業—
4. 企業の分類（2）—私企業（旧法）—
5. 企業の分類（3）—私企業（新法）—
6. 株式会社の特徴と仕組み
7. ケース分析—個人企業が会社になること—
8. 企業の分類（4）—公開・非公開会社、その他の形態—
9. 所有と経営の分離
10. 株主と企業の関係—M&Aに関わる問題—
11. ケース分析—会社は誰のものか—
12. コーポレート・ガバナンス（1）—制度的考察—
13. コーポレート・ガバナンス（2）—理論的考察—
14. 総復習
15. テスト

【評価方法】

分析レポート（40%）、試験（60%）の比率で総得点を算出し、評価付けを行う。

【テキスト】

講師の自作レジュメ（以下の参考文献を基礎に作成されている）

【参考文献・資料】

テキスト経営学 [増補版] (井原久光 ミネルヴァ書房)
経営学再入門 (手塚公彦・小山明宏・上田泰 同友館)
ベンチャー会社入門 (穴戸善一 日本経済新聞社)
ゼミナール会社入門 (岸田雅雄 日本経済新聞社)
企業論 (三戸浩・池内秀己・勝部伸夫 有斐閣アルマ)
テキスト現代企業論 (坂本恒夫・大坂良宏 同文館出版)
企業形態論 (小松章 新書社)
コーポレート・ガバナンス入門 (原尾光洋 ちくま新書)
日本型コーポレートガバナンス (伊丹敬之 日本経済新聞社)
コーポレートガバナンスの経済学 (小佐野広 日本経済新聞社)

ビジネス概論Ⅱ

浅井敬一郎

【授業の概要】

ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（3）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら3つのについての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

【授業の目標】

ビジネス戦略につなげる基礎的な科目として、経営戦略論の基礎を学ぶとともに、基本的な組織形態について学習する。

実際の企業ケースにおける簡単な戦略分析ができることを目標とする。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2～10回 | 企業の経営戦略
・ 経営戦略の体系
・ 企業ドメイン
・ 成長戦略
・ 競争戦略 |
| 第11～13回 | 企業の組織形態 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | テスト |

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

わかりやすいマーケティング戦略 (沼上幹著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

経営戦略 (大滝精一他著 有斐閣アルマ)
経営管理 (塩次喜代明他著 有斐閣アルマ)

統計基礎

元吉忠寛

【授業の概要】

本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、表計算ソフトExcelや社会科学用統計パッケージSPSSを利用しながら学びます。

【授業の目標】

統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス・統計学とは
2. 統計データとその分布
3. 分布の特徴をあらわす指標
4. Excelを用いた統計処理（1）
5. SPSSによる統計処理（1）
6. 相関係数
7. Excelを用いた統計処理（2）
8. 推測統計とは
9. 平均値の差の検定
10. SPSSによる統計処理（2）
11. 回帰分析
12. SPSSによる統計処理（3）
13. カテゴリー変数の関連分析

【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

情報処理概論 I

奥村文徳 MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

【授業の目標】

Windowsの基本操作を理解し、OSの体系を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 コンピュータの基礎知識
 - 第3回 エンドユーザーコンピューティングとは
 - 第4回 コンピュータの5大装置
 - 第5回 コンピュータの情報表現
 - 第6回 論理演算と論理回路
 - 第7回 コンピュータの基礎知識のまとめ
 - 第8回 ハードウェアの基礎
 - 第9回 補助記憶装置
 - 第10回 入出力装置
 - 第11回 ソフトウェアの基礎
 - 第12回 オペレーティング・システムの役割
 - 第13回 データ管理と記憶管理
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 テスト
- (毎回、授業中にパソコン演習を含む)

【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング (ウイネット)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

金融論

藤井正志

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要なマクロ経済・金融の基礎知識を修得すること(詳細は授業にて解説する)。

【授業計画】

- 第1講 日本経済の現状と問題点
- 第2講 デフレ経済の問題点
- 第3講 資金の循環
- 第4講 銀行・証券の機能
- 第5講 金利の基本概念
- 第6講 金融市場
- 第7講 マクロ金融政策の課題
- 第8講 金融政策 (IS-LM分析)
- 第9講 金融政策・企業金融計算問題
- 第10講 金融商品
- 第11講 ブルーデンス政策
- 第12講 金融規制の日米比較
- 第13講 今後の金融監督手法の展望

【評価方法】

期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する(評価の詳細については授業にて説明する)。

【テキスト】

レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

情報処理概論 II

MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システム環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

【授業の目標】

様々な職場において、現状業務の分析、コンピュータを有効利用した業務改善案の提案、業務用システムの企画立案、情報システム利用環境の整備やシステム運用管理などの仕事に従事できる基礎力を身に付ける。

【授業計画】

1. システム開発技法
2. ヒューマンインターフェースの設計
3. テスト技法
4. システムの運用と管理
5. プログラム言語と言語処理系
6. CPUの性能計算
7. ネットワークの性能計算
8. システムの構成と評価
9. システムの信頼性
10. コンピュータウイルスとワクチンソフト
11. セキュリティ対策
12. 開発と取引の標準化
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

システムの運用と管理 (ウイネット)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

国際金融論

藤井正志

【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用方法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要な国際金融の基礎知識を修得すること(詳細は授業にて解説する)。

【授業計画】

- 第1講 外国為替のしくみと貿易取引
- 第2講 国際収支
- 第3講 経常収支の不均衡と国際金融
- 第4講 シンジケート・ローン
- 第5講 アジアの通貨・金融危機
- 第6講 アメリカの対外累積債務
- 第7講 累積債務問題
- 第8講 国際資本市場
- 第9講 外国為替相場
- 第10講 デリバティブ取引 I
- 第11講 デリバティブ取引 II
- 第12講 デリバティブ計算問題
- 第13講 国際金融まとめ

【評価方法】

期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する(評価の詳細については授業にて説明する)。

【テキスト】

レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

現代ビジネス事情 I

森下允之

【授業の概要】

世界に独立国 (independent) はなく、みな相互依存国 (interdependent) である。国内ですべての取引が完結し、海外との接点が全くない、あるいは影響を受けないビジネスはない。現代のビジネスにとり国境の壁は低くなっており、企業は全世界で調達生産・販売している。この実態を企業の海外拡張の側面を有する海外直接投資の視点から分析し、主要投資先国のビジネス環境を紹介し、空洞化問題など、国内産業に与える影響を論ずる。

【授業の目標】

国境を越える企業の動きと意義を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 世界貿易の大潮流
 - 第2回 ビジネスの国際化 (生産・調達の海外依存度の高まり)
 - 第3回 国際投資の目的と形態 (直接投資、証券投資)
 - 第4回 証券投資の急増とその功罪
 - 第5回 マルチ企業による超大型企業買収合戦の功罪
 - 第6回 日本の対外直接投資 (本邦企業の海外進出とグローバル戦略)
 - 第7回 対外直接投資が国内産業に与える影響 (産業空洞化問題)
 - 第8回 日本への対内直接投資 (日本の優良企業も外資に狙われる)
 - 第9回 WTOと自由貿易協定 (日本の対応方針)
 - 第10回 カントリー・リスクとビジネス・リスク
 - 第11回 東南アジア諸国の投資環境
 - 第12回 NIES (韓国、台湾、香港) の投資環境
 - 第13回 中国の投資環境
- ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを適時配布する。

【参考文献・資料】

2005年版ジェトロ貿易投資白書 (日本貿易振興会)

銀行ビジネス論

森下允之

【授業の概要】

日本の銀行界は未曾有の危機、再編の繰り返しを経験し、日本経済不振の元凶とも非難されてきた。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。ようやく日本経済に明るさが見え始めた現在、金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

【授業の目標】

銀行経営、ビジネス環境を理解すること。

【授業計画】

- 第1講 金融システムの基礎知識
- 第2講 金融システムにおける銀行
- 第3講 バブル崩壊と不良資産
- 第4講 間接償却と直接償却
- 第5講 金融再編成
- 第6講 日本の銀行の特徴 (なぜ儲からないか)
- 第7講 ベイオフ問題と中小金融機関
- 第8講 郵政民営化
- 第9講 政府系金融機関の功罪
- 第10講 日本の資金需給の大変化
- 第11講 郵政民営化、政府系金融機関統合後の地方銀行の生きる道
- 第12講 メガバンクが世界トップ銀行と互角に渡り合うために
- 第13講 単位認定試験

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ、プリントを配布

【参考文献・資料】

図説 わが国の銀行 (全国銀行協会調査部編 財経詳報社)
日経文庫 ベーシック金融自由化入門 (円居総一著 日本経済新聞社)
21世紀日本の金融産業革命 (植田、川北、高月著 東洋経済新報社)
銀行収益革命 (川本裕子著 東洋経済新報社)

外国為替論

森下允之

【授業の概要】

「国際金融」のExchange (交換、為替) の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

【授業の目標】

毎日、ニュースで報道される外国為替に関する総合的な知識を身につけさせる。

【授業計画】

- 第1講 外国為替の仕組み
- 第2講 外国為替相場の種類
- 第3講 スワップとアウトライ
- 第4講 外国為替リスクと回避方法
- 第5講 外国為替相場と経済の関係
- 第6講 外国為替相場と国際収支
- 第7講 オプション取引
- 第8講 外国為替相場の決定理論
- 第9講 国際通貨制度
- 第10講 ユーロ
- 第11講 人民元
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

日経文庫 外国為替の知識 (国際通貨研究所編 日経新聞社)

【参考文献・資料】

国際金融・外為市場 (佐久間潮著 財経詳報社)

保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営と日常生活にとって不可欠な生命保険・損害保険の意義と役割についての理解を深める。特に保険業法の法的解釈よりも、日常の経済活動を通じての保険の現状とその仕組みの解説を中心に、その法的根拠としての保険業法の基本を理解する。

【授業の目標】

- ① 身近な生命保険・損害保険とは何か、保険の基礎知識の習得
- ② 同時に、生命保険・損害保険に関する保険業法の概要の習得
- ③ 以上を通じて、社会人として必要となる「リスク管理」と「生きること・生命の大切さ」を身につける

【授業計画】

- 第1講 保険と保険業法の概要と授業のすすめ方
- 第2講 身近な保険を考える①
* 米国同時多発テロと海外旅行傷害保険
- 第3講 損害保険の基礎知識①
* 自動車保険と自賠責保険
- 第4講 損害保険の基礎知識②
* 自動車事故を素材に自動車保険と自賠責保険
- 第5講 損害保険の基礎知識③
* 損保の原型=火災保険と地震・台風
- 第6講 保険会社と保険業法
- 第7講 生命保険の基礎知識①
* 生命保険とは何か
- 第8講 生命保険の基礎知識②
- 第9講 身近な保険を考える②
* 損害保険と生命保険の違いと保険業法
- 第10講 身近な保険を考える③
* 最近の保険犯罪と保険募集のあり方
- 第11講 身近な保険を考える④
* 保険の思想と保険業法
- 第12講 身近な保険を考える⑤
* リスクと保険・授業のまとめ

【評価方法】

1 出席状況と 2 単位認定試験の成績 により、総合的に評価する

【テキスト】

特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジメを配布する

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

証券ビジネス論

島田 舒一

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていか、その背景と方向性についても考察する。

【授業の目標】

近年変化の著しい証券、金融とビジネスの動向を学習することにより、今後の経済、社会の方向を金融面から理解する力をつけさせる。

【授業計画】

- 第1講 証券市場の機能と役割
- 第2講 証券の種類と内容
- 第3講 証券市場の仕組み
- 第4講 証券会社の業務1 株式業務
- 第5講 証券会社の業務2 債券業務ほか
- 第6講 銀行の証券業務
- 第7講 投資信託業務
- 第8講 資産運用業務と投資計算
- 第9講 証券流通市場関連業務
- 第10講 国際証券業務
- 第11講 日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
- 第12講 規制緩和と新しい証券ビジネス

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

- 証券業務の基礎（住友信託銀行著 経済法令研究会）
証券市場2005（証券広報センター 中央経済社）

ファイナンス特論

細野 義晴

【授業の概要】

資金の需要者と供給者との間には、現在、多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

【授業の目標】

家計・企業といった経済主体の金融行動が、どう行われているかを、理論的・実証的にみて理解したうえで、その中で日本の金融機関の金融行動と金融構造・金融行政がどう変化して、経済社会の発展を支えているかを理解する。（詳細は授業にて説明）

【授業計画】

1. 日本の資金循環と各経済主体の金融行動
貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2. わが国の金融機関とその変化
近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化、など。
3. 金融機関の業務とその変貌
中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化、など。
4. わが国の金融構造と金融機関行政の変化
高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこの金融機関経営、など。
5. 金融ビッグバンと金融機関の将来像
金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

1. 金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著 東洋経済新報社）
2. 図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著 財経詳報社）

金融システム論

石坂 綾子

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業の目標】

バブル期以降、日本の金融界は変遷の最中にある。日本の金融システムの整備と金融自由化の進展について学ぶとともに、アメリカ・ヨーロッパ諸国が日本の金融システムにどのような影響を与えたのかを理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 日本の金融システム
(1) 金融システムの発展とその特徴
(2) 日本銀行と金融政策
(3) 金融業務についての規制・慣行と変化
(4) 金融自由化 ー日本版ビッグバンー
3. アメリカの金融システム
(1) 大恐慌の教訓
(2) 金融システムの発展とその特徴
(3) アメリカ金融革命
4. ヨーロッパの金融システム
(1) イギリス ー国際金融市場とビッグバンー
(2) フランス ー国有化と公的金融ー
(3) ドイツ ーユニバーサルバンキングの展開ー
5. 国際通貨体制
(1) 国際通貨制度の変遷
(2) 現在の国際通貨体制
6. 1980・1990年代の金融世界
(1) バブルの陶酔と清算（1985～1994年）
(2) ボーダーレスマネー（1994年）
(3) 金融異変（メルトダウン）
7. 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ゼミナール現代金融入門（斎藤 精一郎著 日本経済新聞社）
金融システム（酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣）
金融政策（酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣）

会計学概論

石川 雅之

【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基いて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

【授業の目標】

現代財務会計制度の仕組みについての基礎的な知識を身に付けるとともに、制度の背後にある基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

- 1) 財務会計の意義と役割
- 2) 企業会計の技術的構造
- 3) 企業会計の理論的構造
- 4) 企業会計制度
- 5) 会計基準
- 6) 財務諸表の様式
- 7) 資産の概念
- 8) 資産の評価
- 9) 流動資産 I
- 10) 有形固定資産
- 11) 無形固定資産
- 12) 繰延資産
- 13) 資産会計のまとめ

【評価方法】

筆記試験による

【テキスト】

新版財務会計論 第7版（新井清光・加古宜士）（法令の改正に伴い変更する場合もある）

工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1) 日商簿記検定2級(工業簿記)の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2) 関連科目である原価計算や管理会計の履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記とは
2. 工業簿記と原価計算
3. 工業簿記の構造
4. 材料費・労務費・経費の計算
5. 製造間接費の計算と処理(1)
6. 製造間接費の計算と処理(2)
7. 部門費の計算
8. 個別原価計算(1)
9. 個別原価計算(2)
10. 個別原価計算(3)
11. 総合原価計算(1)
12. 総合原価計算(2)
13. 総合原価計算(3)
14. 総合原価計算(4)
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

段階式 日商簿記2級工業簿記(18年受験用)(岡本清・廣本敏郎監修 税務経理協会)
段階式 日商簿記ワークブック2級工業簿記(岡本清・廣本敏郎監修 税務経理協会)

国際会計

山川 勝

【授業の概要】

財務諸表を理解するためには、その財務諸表がどのような会計基準に基づいて作成されているのかを知らなければならない。今日、国際的に用いられる会計基準は、国際会計基準(国際財務報告基準)または米国会計基準である。本講義では、英文財務諸表を中心とする財務会計の諸領域を取り上げ、日米をはじめとする各国の会計基準の相違について学習する。

【授業の目標】

世界的な会計基準のコンバージェンスがどう進行しているかを理解する。

【授業計画】

1. 日本の会計基準の現状と課題
2. 国際会計基準(国際財務報告基準)の概要
3. 米国会計基準の概要
4. 会計基準各論
5. 企業の財務情報(アニュアルレポート)開示の分析

【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

【参考文献・資料】

日本の代表的な有力企業の海外向けに開示された財務情報の事例(アニュアルレポート)をケース・スタディとして使用する。

この授業は、既に会計学概論又は財務会計論を履修していることを前提にしているため、会計学の講義を始めて受講する学生を対象にすることは予定していない。

原価計算

三浦克人

【授業の概要】

製造業において製造された製品が1個いくらであるかを知ることはそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するかについて考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1) 日商簿記検定2級(工業簿記)の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2) 関連科目である管理会計などの履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記と原価計算の基礎
2. 総合原価計算(1)
3. 総合原価計算(2)
4. 総合原価計算(3)
5. 総合原価計算(4)
6. 標準原価計算(1)
7. 標準原価計算(2)
8. 標準原価計算(3)
9. 標準原価計算(4)
10. 直接原価計算(1)
11. 直接原価計算(2)
12. 直接原価計算(3)
13. 直接原価計算(4)
14. 営業費の計算・工場会計の独立
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

段階式 日商簿記2級工業簿記(18年受験用)(岡本清・廣本敏郎監修 税務経理協会)
段階式 日商簿記ワークブック2級工業簿記(岡本清・廣本敏郎監修 税務経理協会)

この授業には「工業簿記」の知識が必須である。よって、受講登録にあたっては「工業簿記」を履修済みであることを条件とする。

監査論 I

前川三喜男

【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

【授業の目標】

監査の基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 監査の意義
- 第2回 監査の類型
- 第3回 会計士監査の歴史的展開
- 第4回 監査とディスクロージャー
- 第5回 監査制度1
- 第6回 監査制度2
- 第7回 監査人の資格と要件
- 第8回 公認会計士制度
- 第9回 監査人の職業倫理
- 第10回 監査人の独立性
- 第11回 監査人が負うべき法的責任
- 第12回 不正・違法行為と監査人の義務
- 第13回 粉飾決算と訴訟
- 第14回 監査基準の必要性
- 第15回 まとめ

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト(10~15分程度)を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

財務会計

石川雅之

【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

【授業の目標】

現代財務会計制度の基礎的な知識を身に付けるとともに、制度を支えるさまざまな会計ルールの基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

- 1) 負債の概念
- 2) 流動負債と固定負債
- 3) 資本の概念
- 4) 株式と資本
- 5) 資本と評価替え
- 6) 損益会計
- 7) 経常損益
- 8) 特別損益
- 9) キャッシュフロー計算書
- 10) 財務諸表の注記
- 11) 連結財務諸表 I
- 12) 連結財務諸表 II
- 13) まとめ

【評価方法】

筆記試験による。

【テキスト】

新版財務会計論 第7版(新井清光・加古宜士) (法令の改正に伴い変更する場合もある)

会計学特論 I

杉本典之

【授業の概要】

現代の企業に求められる会計情報ないし会計ディスクロージャーの範囲はかなり広い。そうしたニーズに応えるためには従来の企業会計原則や商法だけでは対応しきれない。そのため、制度上もさまざまな会計基準が設けられている。本講義では、そうした会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

【授業の目標】

現代社会では、営利目的の企業組織において発達してきた企業会計方式の情報システムが、公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス(及び会計監査のプロセス)から成り立っている。会計学特論Iでは、主として会計測定のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、会計学特論IIへの橋渡しを目指す。

1. 株式会社会計を典型とする企業会計
2. 情報システムとしての企業会計
3. 企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
4. 会計測定のプロセスと会計基準
5. 勘定記録と会計情報

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—(杉本典之著 同文館)
キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—(杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

経営分析 I

浅野敬志

【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

【授業の目標】

実践的な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的に分析できるようにすること。

【授業計画】

- 第1回 経営分析の必要性
- 第2回 財務諸表を理解する
- 第3回 成長性の分析(1)
- 第4回 成長性の分析(2)
- 第5回 収益性の分析(1)
- 第6回 収益性の分析(2)
- 第7回 採算性の分析(1)
- 第8回 採算性の分析(2)
- 第9回 安全性の分析(1)
- 第10回 安全性の分析(2)
- 第11回 総合分析(まとめ)
- 第12回 実例を使つての総合分析(1)
- 第13回 実例を使つての総合分析(2)
- 第14回 実例を使つての総合分析(3)
- 第15回 実例を使つての総合分析(4)

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

3ステップ式だからキャッシュフロー重視の経営分析かららくできる本(増木清行著 あさ出版)

国際ビジネストrend

真田幸光

【授業の概要】

国際ビジネストrendの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

【授業の目標】

この授業は学生諸君が社会人となる際に必要最低限な国際情勢に関する基礎知識を習得することを第一の目的としている。
また、現状の国際情勢を概観、その上で国際情勢分析を行う為のスキルを習得することを更なる目標と定めている。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
- 第2回 国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
- 第3回 最新米国経済事情の解説
- 第4回 最新欧州経済事情の解説
- 第5回 最新北東アジア経済事情の解説
- 第6回 最新中国経済事情の解説
- 第7回 最新東南アジア経済事情の解説
- 第8回 最新国際経済事情概要の総括
- 第9回 日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
- 第10回 日本企業の対外投資戦略に関する解説
- 第11回 日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
- 第12回 日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
- 第13回 日本企業の国際ビジネス展開(ケーススタディ1)
- 第14回 日本企業の国際ビジネス展開(ケーススタディ2)
- 第15回 理解力確認試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

組織心理学

石田寅生

【授業の概要】

組織とは何か、個人は組織に参加することで相互に影響しあっている。社会心理学の基礎的知識を学習した上で、組織の特徴を捉え、集団から個人へ、個人から個人への影響のあり方について研究をする。

【授業の目標】

授業において、個人が組織に参画し、それらの成員となるために必要な知識や考え方を取得する。

【授業計画】

1. 組織とは何か（組織と人との関係を概観する）
2. 組織の目的と行動システム（個人と集団、環境の影響）
3. 組織の機能と成果（組織モチベーションとは）
4. 組織の意志決定システム（いかにして成立するか）
5. 組織の構成と多様化（個人差、社会環境、その他の影響）
6. 組織と個人の葛藤（人間関係とストレス）
7. 組織の成功と衰亡（リーダーシップとは）

【評価方法】

出席状況（20%）、レポート（80%）

【テキスト】

未定（考慮中）

【参考文献・資料】

組織の心理学（田尾雅夫 有斐閣ブックス）
成功の技法（田尾雅夫 中公新書）
組織の盛衰（堺屋太一 PHP研究所）
イノベーションと企業家精神（P.Fドラッカー ダイアモンド）以上

ビジネス英語入門

ジョリー幸子

【授業の概要】

本講義は国際ビジネスに不可欠な英語表現を学び、主として取引の相手との対話、交渉などの実務的の口語技術を習得することを目的とする。

【授業の目標】

国の内外を問わず、国際言語として世界の国々のビジネス・パーソンとの意志の疎通に不可欠なビジネス英語のスキルの中で特にListeningとOral Communicationに重点を置き、基本的なやりとりが習得できることを目標とする。

【授業計画】

Course Orientation

- Unit One : Making Introductions
L.1 Introducing Yourself to a Business Colleague
L.2 Making a Self-Introduction at a Business Meeting
L.3 Introducing Business Guests to Colleagues
Unit Two : Taking and Giving Messages
L.4 Leaving a Message on an Answering Machine or Voice Mail
L.5 Leaving a Message by Phone
L.6 Taking a Message in Person for a Colleague
Unit Three : Going on an International Business Trip
L.7 Getting Ready to Go: Checking-In at the Airport
L.8 Getting through Immigration and Customs
L.9 Settling into your Hotel
Unit Four : Everyday Business Dealings
L.10 Conducting a Business Meeting
L.11 Making Appointments with Customers
L.12 Making Small-Talk with Colleagues

Final Examination

【評価方法】

期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

【テキスト】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Seibido, 2004)

【参考文献・資料】

グローバル・ビジネス英語教本 *Global Business Communication*, (土農田義明 南雲堂 1999)
国際ビジネスコミュニケーション入門 *English for Business Communication*, (亀山和夫、八尾晃 Seibido 1998)

マスコミュニケーション論

小塚哲司

【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起る日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起る地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観を考え、ニュースへの理解を深めるため、主に新聞報道を素材として、新聞記者、海外特派員の体験を交えながら、分かりやすく教えていきたい。

【授業の目標】

ニュースとは何かをしっかりと学ぶ。高度情報化時代、デジタル時代の中で、マスコミ、特に活字メディアである「新聞」の果たすべき役割とジャーナリズム倫理を考える。

【授業計画】

1. マス・コミュニケーションは、一度に大事件などを多数に伝えられる点では有効だが、一つ誤ると大混乱を生む。公平な視点を欠けば、偏った見方を伝えてしまう。影響力が大きいが故に、加害者、被害者、報道される側の人権、プライバシーへの細心の配慮、厳しい報道倫理が求められる。
2. 低年齢化する少年非行、実名と匿名報道、その訴訟例、イラク戦争とナショナリズム……。これらの意味、背景を、具体的なニュース報道で検証する。
3. 新聞、メディアの歴史と日本、世界の新聞、通信事情を考える。
4. 授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説する。

【評価方法】

出席率、毎日の小レポートと最終講義での大レポートなどで総合評価する。

【テキスト】

毎回、独自のレジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

専門演習 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
- (2) ゼミ対抗のディベートを行う。
- (3) グループごとに共同レポートを作成し、プレゼンテーションを行う
- (4) マネジメントゲームを2年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけでなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 I

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習 I

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著 中央経済社）

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）

ビジネス・アカウンティング-MBAの会計管理-（山根節著 中央経済社）

専門演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 I

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習 I

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. ACCESSの基礎と応用
2. Excelの応用とVBA
3. ホームページ作成
4. 経営情報論
5. 株式投資シミュレーション

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示・紹介する。

専門演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能 (1)
- 第4講 HTMLの機能 (2)
- 第5講 HTMLの機能 (3)
- 第6講 ホームページの作成 (1)
- 第7講 ホームページの作成 (2)
- 第8講 ホームページの作成 (3)
- 第9講 ホームページの発表と評価 (1)
- 第10講 ホームページの発表と評価 (2)
- 第11講 ホームページの発表と評価 (3)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、日本型流通の現実に関して学ぶ。
- (2) 習得した知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- (4) グループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って論文を作成することで、資料収集・文章作成のスキルを身につける。

専門演習 I

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習 I、IIでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会で必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 I

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続各自の問題意識領域の掘り下げる。関連専門資料、情報の検索方法の習得。就職活動の方法なども具体的な先輩の事例から紹介する。4年になったときに卒業論文のテーマとなるような関心領域を探索する。

テーマの例

- 1) 女性のビジネス界における正規雇用継続と家族
- 2) ファミリーフレンドリー企業とは
- 3) 雇用機会均等法と実態
- 4) 女性・男性のキャリア形成
- 5) 女性・男性の社会的地位の国際比較

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

キャリア・職業選択を考える（女性と仕事未来館 刊）
職業キャリアとライフコースの日米比較研究（日本労働研究機構刊）

専門演習 I

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 1	Aspects of Nonverbal Communication- 1
第2週		”
第3週	Chapter 2	Aspects of Nonverbal Communication- 2
第4週		”
第5週	Chapter 3	Body Movements and Gestures
第6週		”
第7週	Chapter 4	Facial Expression
第8週		”
第9週	Midterm	Exam.
第10週	Chapter 5	Eye Behavior and Gaze
第11週	Chapter 6	Territoriality
第12週		”
第13週	Chapter 7	Personal Space
第14週		”
第15週	Final	Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆どを英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況と共に総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo、2002)

【参考文献・資料】

ジュスチュア：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

専門演習 I

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I・IIで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習します。

1. 「小集団・組織・マス・コミュニケーション」の復習
2. 企業の求める「コミュニケーション力」とは
3. 「コンフリクト・対立・交渉」の学習と分析
4. 基礎演習I・IIの発展項目

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 I

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Iの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

基礎演習IとIIの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 I

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の解説書
その他レジュメで対応

専門演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 I

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習 I

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

管理会計は経営管理を遂行するのに必要な様々な情報を提供するための技術と行為である。この授業では、初めに企業理論の観点から管理会計システムの組織・技術の側面について検討し、その後、会計情報の性質と役割および管理会計技法の特徴を解明する。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使う。

【参考文献・資料】

授業を進めるなかで、適宜示す。

専門演習Ⅱ

大塚英揮（浅井敬一朗）

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

競争戦略論の基本的な考え方を身につけ、それを現実の企業がとっている企業戦略にあてはめる訓練を繰り返す。文献は、バーニー『企業戦略論』（上）、ポーター『競争戦略論』の中から、特に興味深く、比較的内容が理解しやすいものを選択し、コピーの上配布する。

【評価方法】

平常点（出席、授業に対して積極的に取り組んだかどうか）で評価する。

【テキスト】

コピーして随時配布する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

専門演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著 中央経済社）
企業分析シナリオ（西山茂著 東洋経済新報社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）

専門演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得し、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディーを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。また、自らが考える新たな事業計画を作成し、発表と意見交換を行い、理解を深める。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. コンピュータ・シミュレーション
2. 経営情報論
3. 経営戦略ケース・スタディ
4. 新規事業計画の作成と発表

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 課題説明 (1)
- 第3講 課題説明 (2)
- 第4講 グループ作業説明
- 第5講 グループ作業実施 (1)
- 第6講 グループ作業実施 (2)
- 第7講 グループ作業実施 (3)
- 第8講 グループ作業実施 (4)
- 第9講 グループ作業実施 (5)
- 第10講 グループ作業実施 (6)
- 第11講 グループ作業実施 (7)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

提案書の内容、プレゼンテーション、出席、グループ作業への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時にレジュメを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅱ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) グループ別にあるテーマに沿って研究を行い、成果を論文にまとめる。
- (2) 作成した論文をもとに他大学と討論を行うことで、「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝えるスキルを身につける。

専門演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んでもらい、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営などに関する講義を織り交ぜる。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習1、2、専門演習1で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆のための基礎的資料の調査。

テーマ例としては産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。資料調査を継続。

リサーチ進行状況を各自がレジュメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。就職活動の方法、問題点の検討をする。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【参考文献・資料】

専門演習Ⅰに同じ

専門演習Ⅱ

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習II

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 8	Touching Behavior
第2週	Chapter 9	Time
第3週	Chapter 10	The Voice and Vocal Expression - Characteristics of the Voice
第4週	Chapter 11	The Voice and Vocal Expression - Information Communicated through the Voice
第5週	Chapter 12	Clothing as Communication
第6週	Chapter 13	Personal Artifacts as Communication
第7週	Chapter 14	Environmental Influences on Communication
第8週	Midterm	Exam
第9週	Chapter 15	What the Environment Communication
第10週	Chapter 16	Verbal Expression and Nonverbal Communicates
第11週	Chapter 17	Differences in Nonverbal Communication of Americans and Japanese
第12週	Extra	classes
第13週	〃	
第14週	Final	Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆ど英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況を総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo, 2002)

【参考文献・資料】

ジェスチャー：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

専門演習II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I・II、専門演習Iで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習します。

1. 「対立：交渉・企業の求めるコミュニケーション力」の復習
2. 「日本社会のマジョリティー・マイノリティー」を考える
3. 「日本社会と外国人労働者」を考える
4. 基礎演習I・II、専門演習Iの発展項目

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習II

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIの共通テーマも、専門演習Iのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

専門演習Iでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習IIIへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

財務諸表に関する解説書
その他レジュメで対応

専門演習Ⅱ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

IT革命と業種・業態に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

管理会計行為を社会的関係としてとらえる。つまり、管理会計の方法や手段を人間関係の関係を投影したものとして理解する。詳細は授業にて明示する。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使う。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

【授業の目標】

1. 自らの個性や適性を最大限に発揮するライフサイクルの中での、将来の人生設計を進めるような職業を見いだすべく、職業のもつ意義と役割について考察する。
2. 進路指導の理論に基づく実践的な指導能力を身につけることを主なねらいとする。

【授業計画】

- 第1章 進路指導の歴史と発展
- 第2章 教育課程と進路指導
- 第3章 進路指導における組織と体制
- 第4章 特別活動における進路指導
- 第5章 進路指導の方法と技術
- 第6章 進路相談の方法と技術
- 第7章 進路指導の評価
- 第8章 資格取得指導
- 第9章 産業構造、職業構造の変化と進路指導
- 第10章 職業生涯設計の在り方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

自作教材

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力の形成諸段階
 - (1) 養成段階
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 教員養成の歴史と現在
 - (2) 教職課程の仕組み
 - (3) 教員の採用
2. 教師について考える
 - (1) 教科指導
 - (2) 生徒指導
 - (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 学生たちの被教育体験
- 2 「教職入門」が必修化された時代背景
- 3 教師の一日、一年（教師の仕事）
- 4 いまの生徒たちが育ってきた社会とは
- 5 教育現場のいま（学級崩壊、いじめ、不登校など）
- 6 教職の意義とは何か
- 7 教員養成の歴史
- 8 学校、教師をとりまく諸制度
- 9 教育問題に関するいくつかの判例から学ぶ
- 10 教師になるためには（教員採用試験について）
- 11 生徒たちの進路と教師の役割（教科と教師）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・ 教育を受けるという立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・ 教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
教育目的とは/教育目的の歴史の変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

羽場俊秀

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

教育全般に対する根本的な考え方、考え方を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 教育原理の進め方
2. 教育学の成立
3. 教育の方法
4. 学校での教育
5. 学校以外での教育
6. 現代の教育問題

【評価方法】

筆記試験(論述)を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開(啓蒙思想と市民革命、産業革命)
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史(江藤恭二他編 名古屋大学出版会)

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史(森洋子 日本放送出版協会)
歴史のなかの子どもたち(森良和 学文社)
教養の復権(沼田裕之他 東信堂)

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の様子を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育制度

佐藤美芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の典型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

障害児の教育

加藤文字

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

羽場俊秀

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の典型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

教育制度の変遷の歴史、特徴、今日的な課題について理解すること。(詳細は授業にて説明する。)

【授業計画】

1. 教育制度を学ぶ意義
2. 学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 教育法規
5. 日本の学校教育制度
6. 現代の学校教育制度

【評価方法】

筆記試験(論述)を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
 - (1) 伝達講習(ブロック、県、各学校)
 - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編(小・中・高)
- 5 現行教育課程の事例検討(小・中・高)
- 6 教育課程編成の構成要件
- 7 教育課程研究と教師

【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度(識字と就学)
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで(二宮皓編著 学事出版)

【参考文献・資料】

比較国際教育学(石附実編著 東信堂)
世界の学校(二宮皓編著 福村出版)
多文化教育(中島智子編著 明石書店)
学歴社会 新しい文明病(ドーア著 岩波書店)
被抑圧者の教育学(フレイレ著 亜紀書房)
国際歴史教科書対話(近藤孝弘著 中公新書)
世界の教育開発(米村明夫 明石書店)

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 学生たちの経験した授業の数々
- 2 教育課程の哲学(思想)…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
- 3 教育課程の構造(編成)と法
- 4 近代日本の教育課程の歩み
- 5 戦後の教育課程変遷史(「学習指導要領」改訂の歴史)
- 6 新教育課程(1998年改訂の学習指導要領)を学ぶ
- 7 新教育課程の問題点1(ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは)
- 8 新教育課程の問題点2(「総合的な学習の時間」、「情報」)
- 9 新教育課程の問題点3(あたらしい実践の数々に学ぶ)
- 10 新教育課程の問題点4(小学校の英語教育を考える)
- 11 教育課程をどう編成するか(構成要件、基本原則)
- 12 各国にみる教育課程

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

英語科教育法Ⅰ

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

英語科教育法Ⅲ

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模擬授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模擬授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
Sunshine 1・2・3 (松本青也他 開隆堂出版)
中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法Ⅱ

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

小学校英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校へ繋がる小学校英語教育・アジア諸国の小学校英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

英語科教育法Ⅳ

山森孝彦

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれだけの文法事項、語彙、英語力を身につけているかをある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を定める）
- 第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義
- 第6～13回 模擬授業実習
 - ・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）
 - ・発表者以外の学生は生徒役もしくは授業分析ノートをつける。
 - ・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
 - ・全員が授業評価シートを毎回提出する。
- 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

【評価方法】

出席状況・作成した教案や毎回の提出物・模擬授業・授業への貢献度を総合して評価する。

【テキスト】

Unicorn 英語I（文英堂）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

中国語科教育法Ⅰ

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業の目標】

中国語科教育の歴史、現状、課題などを総合的に学習することによって、中国語科教育について理解を深める。

【授業計画】

1. 中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
2. 中国語科教育の目標を設定する。
3. 中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）
 - (3) 各学習期間区分の到達度
4. 教育方法について
 - (1) 教授法の歴史（中国）
 - (2) 教授法の歴史（日本）
5. 問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
6. 改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅲ

馮富榮

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、どういった内容の教材を使えばよいか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本の大学における中国語教育のあるべき姿について考える力を身に付けることが期待される。

【授業計画】

1. 従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
2. 会話能力を高めるための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
3. 学習意欲を燃やすための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 学生を認めるための工夫
4. 上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
5. グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
6. 授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

中国語科教育法Ⅱ

王麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

中国語の特徴、指導方法などを理解した上で、各自で指導案を作成し、模擬授業をして、中国語教育の在り方を模索する。

【授業計画】

1. 外国語の教育理論
2. 外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
3. 中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
4. 高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
5. 指導案の構成
6. 指導案の作成指導
7. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅳ

馮富榮

【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新的な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、学生の視点に基づき、また学生のアイデアを生かすことのできる斬新的な中国語のメディア教材が誕生することが期待される。

【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なか、またどんなものがよいかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自が作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

公民・社会科教育法 I

不破民由

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1. 新聞記事の切り抜きを作り、要約し、コメントを入れて発表することで現代社会の諸問題についての関心を高めるとともに、新聞を用いた授業の方法を身につける。同時に、新聞記事やマスメディア報道そのものに対する批判的な目も養うことの重要性に気づく。
2. 日本における公民教育の変遷をたどり、その問題点と課題を考察する。
3. できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
4. デイバート・立場討論・シミュレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
5. グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしようことで反省し、授業の力量を高める。
6. 個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】

模擬授業・指導案・新聞記事の切り抜きを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版予価230円）
現代社会（高等学校教科書 一橋出版 予価580円）

【参考文献・資料】

近代日本の公民教育（松野修 名古屋大学出版会）
人生の教科書「よのなか」（藤原和博 宮台真司 ちくま文庫）
21世紀「社会科」への招待（魚住忠久 山根英次共編 学術図書出版社）
続 手に取る公民・現代社会教材（全国民主主義教育研究会編 地歴社）
新「ウソ」「ホント」からはじまる公民学習（河原和之 日本書籍）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2006（文藝春秋社）

商業科教育法 I

宮部幸雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業の目標】

新しい学習指導要領について理解を求めるとともに、具体的な学習計画の立案、実施などの経験的学習を通して、商業科の教師としての基礎的資質を身につける。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
 - (1) 学習指導要領の性格及び構成
 - (2) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
- 5 授業の具体的な展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一 著 実教出版株式会社）

公民・社会科教育法 II

不破民由

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1. 各自のゼミ論・卒論等のテーマ設定の簡単なプレゼンを行い、それぞれの問題意識を共有し、高等学校の「倫理」や「政治・経済」での取り組みとの関連を考える。
2. ルソーやアダム・スミスなど18世紀の思想家たちやヴェーバーなどがもっていた「倫理」的課題と「政治・経済」的課題の関連について考察し、高度に専門化した現代においても、根にこらした関連性を持つべきであることを認識する。
3. 日本社会の特質を「世間」と「社会」の比較から考え、西欧の哲学や社会諸科学の概念導入における問題点を考慮できるようにする。
4. できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
5. デイバート・立場討論・シミュレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
6. グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしようことで反省し、授業の力量を高める。
7. 個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深い関わりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

模擬授業・指導案・プレゼンを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）
倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

【参考文献・資料】

思想としての近代経済学（森嶋通夫 岩波新書）
社会認識の歩み（内田義彦 岩波新書）
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神（M.ヴェーバー 岩波文庫）
世間とは何か（阿部謹也 講談社現代新書）
哲学入門1～4（フルキエ ちくま芸文庫）
哲学の教科書（中島義道 講談社学術文庫）
過ぎし世の面影（渡辺京二 平凡社ライブラリー）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2006（文藝春秋社）
等

商業科教育法 II

宮部幸雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業の目標】

「商業科教育法 I」に引き続き、商業の各分野に関する基礎的・基本的な科目を具体的な学習指導計画に基づいた模擬授業のあり方を中心に学習を進め、あわせて「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」について理解を深める中で、教職の使命とその特殊性・専門性について自覚を促す。

【授業計画】

- 1 学習指導と評価
 - (1) 学習指導の一般原則
 - (2) 学習指導の形態と方法
 - (3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点 進学・就職
- 5 商業教育の将来

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一 著 実教出版株式会社）

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

人間回復の立場に立って、今日教育状況を見直せる力量をつけ、具体的に学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どはるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どはるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高橋正人・倉田保司編著 ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二編著 労働旬報社）
<子供>の誕生（ワイアップ・アリス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房）
教育主義の没落（竹内洋 中公新書）
立身出世主義（竹内洋 NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋 講談社現代新書）
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）
近現代日本の教育論（渡辺かよ子 行路社）
学級経営の歴史（志村廣明 三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）
<学級>の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉編著 青弓社）
「校則」の研究（坂本秀夫 三一書房）
教育とは何ができないか（広田照幸 春秋社）
教育学がわかる事典（田中智志 日本実業出版社）
教育に関する私の方法解説（不破民由 新風舎）

他

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- 1 いま学校では…
- 2 いまの生徒たちが育ってきた社会を見よう
- 3 「生徒指導の手引き」を読む（生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観）
- 4 青年期の心理と生徒指導
- 5 校則と生徒指導
- 6 教科と生徒指導
- 7 教育問題をドキュメントしたビデオを見て
- 8 新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
- 9 中・高校生生徒の進路指導について（フリーター、ニート）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1. 現代日本における青年期の特徴と問題点
2. 日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3. 生徒指導の基本的観点と今日的課題
4. 生徒指導の方法——集団指導（HR指導を中心に）
5. 生徒指導の方法——個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6. 進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7. 人間の在り方を求めて——ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』（大橋功）など。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ、教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題 (後口伊志樹)
- (2) 福祉一障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて (伊藤昭道)
- (3) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (4) 人間と自然環境 (佐藤成哉)
- (5) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (6) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (7) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (8) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (9) 国際化を考える (羽場俊秀)

【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する(プレゼンテーション能力)スキルを学ぶ。

【授業計画】

※印は後期日程(於 星が丘)

1. 全体、各テーマ別 8月11日 ※1月31日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明(各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月29日 ※2月20日
課題レポートの提出(必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月1日 ※2月23日
 - (1) 課題レポートについて報告(1人10~15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月2日 ※2月24日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月8日 ※3月2日
 - (1) グループ代表者の発表(1名15~20分)
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導(介護体験事前指導を含む)

宮部幸雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より実務的で専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容及び方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

教育実習を成功させよう 2006年版(小松喬生・次山信男編 一ツ橋書店)

教育実習指導(介護体験事前指導を含む)

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容及び方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児(者)介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果(実習・体験評価を参考)により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアース教育新社)使用。

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価(生徒指導、学習指導、実習態度)に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えらる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
 - (1) 学校教育における学校図書館の役割
 - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
 - (1) 学校図書館法の成立と展開
 - (2) 国内外の先進事例
 - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営
学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその課題点
6. 学校図書館メディアの内容及び構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1)の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と課題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
3. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と課題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実践例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
 - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
 - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がり深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実践に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報の流通過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・ころろ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注:「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館経営論

松下 鈞

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館運営に基本にあるさまざまな基準と現状の問題点を理解するとともに、地域と情報支援をキーワードとする様々な活動の可能性を考え、それらを実現する方策を検討する。

【授業計画】

1. 図書館法成立までの動き
2. 21世紀の図書館界が直面している諸問題
3. 文化芸術振興基本法の動き
4. 総合法律支援法(司法ネット法)の動き
5. インフォームド・コンセントと医療情報支援の動き
6. 中小企業ビジネス支援ポータルサイトなどの動き
7. 生涯学習と図書館サービス
8. 指定管理者制度、PFI、アウトソーシングと図書館
9. 図書館員と労働裁判
10. 顧客満足、目標管理の図書館経営
11. 図書館活動の評価法
12. ネットワーキングとコンソーシアム
13. 学術情報政策と情報専門職の養成

【評価方法】

出席(30%)、小レポート(30%)、最終レポート(40%)

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】

電子化する情報社会における図書館が直面する諸問題と図書館に期待されている情報サービスの多様性を理解し、21世紀の図書館と図書館員の活動の可能性を考える。

【授業計画】

1. イントロダクション「情報の自分史」
 2. 検索の達人をめざす
 3. 情報環境の変化と図書館
 4. こどもと図書館
 5. お年寄り図書館
 6. 地域におけるビジネス情報支援
 7. 地域における医療情報支援
 8. 地域における法律情報支援
 9. 学術コミュニティと情報変革
 10. 大学図書館の諸問題
 11. 専門図書館の諸問題
 12. 指定管理者制度、アウトソーシング
 13. 求められる情報専門家
 14. 求められる情報専門家
- 授業は講義を中心とし、グループ学習を並行させて進めます。受講に先立って次のことをしておくこと。
- a) 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
 - b) Googleの「ヘルプ」をよく読み、検索オプション等さまざまな機能を試行し、検索法などで初めて知り、驚いた機能に関して「Googleで目からウロコ」というテーマの感想文（1600字程度）を授業開始前に提出する。

【評価方法】

出席（25%）、提出物（25%）、グループ学習への積極的な参加（20%）、期末レポート（30%）

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

櫻木 貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

【授業計画】

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
 - ・ 質問の受付から内容の確認へ
 - ・ 質問内容の分析から探索の実行へ
 - ・ 質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

これまで学んだ図書館情報学の断片的な知識を、ある図書館の建築計画を立案する過程を通して総合的に理解し、人々の図書館機能への期待を如何に具体化するかを考える。

【授業計画】

1. イントロダクション
 2. ある地域の地形、人口、産業などの構造
 3. ひとびとの生活、その地域の歴史と文化
 4. 競合する文化情報施設
 5. 建築計画立案の基本的な考え方と技術
 6. 情報サービス施設を設置する環境
 7. サービス内容と施設・設備
 8. バリアフリーとユニヴァーサル・デザイン
 9. 情報支援サービス
 10. 利用者像
 11. スタッフ像
 12. ランガナタンの「図書館学の5法則」
- ある地域に住むひとびとのニーズに応えた情報サービス施設を立案します。その過程で机上の図書館情報学の学習では学べなかったことを自ら学ぶことが期待されます。授業はグループ学習を中心に行います。グループ編成は担当教員が行います。

【評価方法】

出席（25%）、グループ研究への積極的な参加（20%）グループ発表（20%）最終個人レポート（35%）

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井 美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
 2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、
WorldCat (OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
 2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

中島玲子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索および情報活用における実践的なスキルを身につける。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
 2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、
WorldCat (OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
 2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論IV（人文社会情報メディア）

松井美紀

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 3. 1 美術分野
 3. 2 音楽分野
 3. 3 文学
 3. 4 ビジネス分野
 3. 5 法律分野
 3. 6 心理学
 3. 7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】

三浦逸雄,野末俊比古編.専門資料論.東京,日本図書館協会, 2005,140p.(JLA図書館情報学テキストシリーズ,8). (ISBN: 4820405128)
この他に、配付資料。

情報メディア論V（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J. 著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W. 著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR 2 r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定; 標目形; 典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

松井美紀

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広がりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- 1 公立図書館の児童サービス
 - (1) 子どもの読書と児童図書館
 - (2) 児童図書館の意義と歴史
 - (3) 児童用資料の種類と特性 (1) 絵本・文学
 - (4) 児童用資料の種類と特性 (2) ノンフィクション・その他
- 2 児童サービスの実践
 - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
 - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
 - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
 - (8) よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
- 3 児童サービスの対象
 - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
- 4 関係機関との連携
 - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
- 5 児童図書館員の専門性
 - (11) 養成と採用 ボランティア
- 6 (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
- 7 (13) 実習・ストーリーテリング

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

別に使用せず、そのつどプリントを用意する

【参考文献・資料】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)
児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
児童図書館のあゆみ (児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

出席点と定期試験 ※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

出席点と、定期試験 ※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川 銑治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論Ⅰ

長谷川 銑治

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネージメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川 正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論Ⅰ」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅰ

早川 正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性和博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅱ

長谷川 綏治

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本となる事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

ア「物」が博物館資料と位置づけられることを考える。

イ 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。

- 1 資料の収集
- 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書 ・和装本
 - ・やきもの ・茶碗
 - ・瓦
 - ・刀、太刀

3 資料の整理・保存

4 資料の保全

ウ 資料情報の管理についてその実際を探る。

エ 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論Ⅱ

川合 剛

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
 - 拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
 - 掛軸・巻子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
 - ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論Ⅱ

秋元 悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

長谷川 綏治

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

ア 展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 生涯学習が重要な課題である現代社会にあつて、博物館が果たす役割を考える。

ウ 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。

- 1 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- 2 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- 3 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- 4 県外実習……2、3に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川 綏治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。

また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展示会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をにう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川銆治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がり深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国のこれまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

博物館実習

松村冬樹

【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

【授業の目標】

博物館や美術館の専門知識を基礎とした鑑賞法を学ぶとともに、社会人として、ゆたかな教養をはぐむための「考え方・学び方」を習得してもらう。

【授業計画】

「展示」を疑似体験できるような「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ビラ、図録）
- (f) まとめ

* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

※ * 2、* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銆治 戸谷印刷）

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

- 1 視聴覚教育の意義
 - 1-1 視聴覚教育の目標
 - 1-2 視聴覚教材の役割と特性
 - 1-3 情報機器・視聴覚機器と機能
- 2 宗教における視聴覚の役割
 - 2-1 宗教における荘厳
 - 2-2 宗教における音声
 - 2-3 宗教における絵画・彫刻
- 3 情報の活用とリテラシー
 - 3-1 情報とメディア
 - 3-2 情報の記録と保存
 - 3-3 情報の信憑性
 - 3-4 プレゼンテーションの意義と機能
 - 3-5 情報モラル
 - 3-6 マルチメディア リテラシー
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
 - 4-1 展示の機能と効果
 - 4-2 補足資料

【評価方法】

レポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

特になし
プリントを配布

【参考文献・資料】

授業時に指示する

教育学概論

羽場俊秀

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点を置いて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

- 1-2 教育学の概念
- 3-4 教育学の歴史
- 5 教育学の課題
- 6-8 学校と教育
- 9-11 社会と教育
- 12-14 家庭と教育
- 15 総括

【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようにすることを目標とする。

【授業計画】

- 1~4 印象派からシュルレアリスムへ
 - ・産業革命と芸術
 - ・写真と絵画
 - ・時間表現
 - ・心理学
- 5~8 激動の時代と美術
 - ・第一次世界大戦
 - ・反芸術
 - ・第二次世界大戦
 - ・工業社会
- 9~12 アメリカ美術の時代
 - ・巨大絵画
 - ・アメリカン・ドリーム
 - ・文明の廃棄物
 - ・エコロジー
- 13~15 ニューメディアと美術
 - ・ニューメディア
 - ・身体表現

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察していく。また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料(ビデオ・OHCなど)を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができることを目標としている。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
中国歴代王朝と都の位置
5. 中国人の地域概念
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6. 古代中国の地域と現状
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 中国の気候変遷と歴史の関係
8. 地形図にみる地域と歴史
中国地形図の種類と現状

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国(陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社)
また、授業中に各種文献を紹介する。

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際的な道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
 - 2 日本考古学の発展 ア 原始
 - 3 " イ 古代・中世
 - 4 " ウ 近世以降
 - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

英語海外セミナー I (米国)

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

【授業の目標】

- * 英語表現能力を高めること。
- * アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- * ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- * 海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントン D.C.にある Civil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントン D.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

英語海外セミナー II (オーストラリア)

NORRIS, Harry T.

【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course hopes to improve students' fluency and confidence in using English. Being emerged in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

中国語海外セミナー I (中国)

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論1の講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修に参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がひか体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来とともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

- 韓国語研修
 - 梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
- 韓国文化研修
 - 芝居鑑賞
 - 板門店の訪問
 - ホームステイ(2泊3日)
- 日韓学生共同プログラム
 - 毎週1回程度の頻度
 - テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
- その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブバイバル韓国語)を身に付け、梨花言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部) 中
その他は特になし

Japan's Global Interface II

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne プイチトルン
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を備えた学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: Special Credit-Auditors (exchange students only) Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通して日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

- | | | |
|----|------------------|--|
| 1 | FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 | OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 3 | OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 4 | MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5 | MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6 | BUI, Chi Trung | Intercultural Communication Through NPO Activities |
| 7 | KUNINOBU, Junko | Gender Relations in Japanese Society |
| 8 | UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 9 | UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 10 | FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 11 | FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 12 | JOLLY, James | Developing International Business Practices |
| 13 | JOLLY, James | Developing International Business Practices |

【評価方法】

Assessment
Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface I

藤井正志 森下允之 福本明子 真田幸光 JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に講義し、日本社会・文化をより深く認識するとともに、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を備えた学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:

- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通して、日本社会・文化をより深く認識するとともに、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養う。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

- | | |
|----------|---|
| Schedule | |
| 1 | FUJII, Masashi Introduction |
| 2 | FUJII, Masashi Business Society in Japan |
| 3 | FUKUMOTO, Akiko Intellectual Property and Cultures |
| 4 | FUKUMOTO, Akiko Intellectual Property and Cultures |
| 5 | FUKUMOTO, Akiko Intellectual Property and Cultures |
| 6 | SANADA, Yukimitsu East Asian Economy and Japan |
| 7 | SANADA, Yukimitsu East Asian Economy and Japan |
| 8 | MORISHITA, Tadayuki Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 9 | MORISHITA, Tadayuki Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 10 | MORISHITA, Tadayuki Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 11 | JOLLY, James International Business and Law |
| 12 | JOLLY, James International Business and Law |
| 13 | JOLLY, James International Business and Law |

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

- 〔ボウリング〕
- 実習日時 平成18年9月6日(水)・7日(木)・8日(金)
11日(月)・12日(火)・13日(水)
計6日間 9:30~12:40
 - 説明会 日時 平成18年7月5日(水) 12:30~13:15
場所 長手キャンパス体育館1階 多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長手キャンパス健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
 - 場所 星ヶ丘ボウル
 - 実習費 6,000円
(平成17年度のものであり変更する場合があります)
 - 定員 60名
 - 内容
1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
2日目 ボウリングの歴史、基本動作
3日目 ボールのコントロール、軌道調整
4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 実習日時 平成19年2月7日(水)・8日(木)・9日(金)
13日(火)・14日(水)・15日(木)
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成19年1月10日(水) 12:30~13:15
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円
(平成17年度のものであります変更する場合があります)
5. 定員 40名
6. 内容
1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケータイングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

中級簿記(2級程度) A * 商業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記(2級程度)Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算表、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本店支店会計
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記(3級程度) * 基礎総合

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ(3時間)ずつ週2回のペースで、後期は2コマ(3時間)ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説(補助簿、試算表、伝票対策)
- 第7回 決算整理(売上原価)、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理(貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越)
- 第9回 決算整理(消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金)
- 第10回 直前総まとめ問題集解説(仕訳、精算表対策)
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記(2級程度) B * 工業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記(2級程度)Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買Ⅰ
- 第3回 特殊商品売買Ⅱ
- 第4回 特殊商品売買Ⅲ
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産Ⅰ
- 第7回 固定資産Ⅱ
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金Ⅰ
- 第10回 引当金Ⅱ、退職給付会計Ⅰ
- 第11回 退職給付会計Ⅱ、社債Ⅰ
- 第12回 社債Ⅱ、資本Ⅰ
- 第13回 資本Ⅱ
- 第14回 合併会計、会社分劃
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理Ⅰ
- 第6回 一時差異等の会計処理Ⅱ
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結Ⅰ
- 第10回 連結会計、取得後連結Ⅱ
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制Ⅰ
- 第5回 予算統制Ⅱ、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定Ⅰ
- 第8回 業務的意思決定Ⅱ
- 第9回 業務的意思決定Ⅲ、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意決定Ⅰ、設備投資の意決定
- 第11回 構造的意決定Ⅱ
- 第12回 構造的意決定Ⅲ
- 第13回 戦略的原価計算Ⅰ、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算Ⅱ、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算Ⅰ
- 第4回 部門別計算Ⅱ
- 第5回 実際総合原価計算Ⅰ、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算Ⅰ
- 第12回 標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト